

十王堂遺跡・井尻氏屋敷跡

—令和2年度県営畑地帯総合整備事業日下部地区1-1工区ほ場整備工事—

2023

山梨県峡東農務事務所
山梨市教育委員会
昭和測量株式会社

序

本書は県営畑地对総合整備事業日下部地区 1-1 工区ほ場整備工事に伴って行われた十王堂遺跡および井尻氏屋敷跡発掘調査の報告書です。

井尻氏屋敷は現在も屋敷を取り囲むように土塁が巡っており、一部には堀の跡とみられる地形も残っています。今回は井尻氏屋敷の西側の範囲 1090㎡について、発掘調査を実施しました。

調査では古代の竪穴建物 5 軒や、井尻氏屋敷の土塁や堀と関係する可能性のある溝、また、峡東条里と関係する可能性のある溝や、集石遺構・配石遺構などが発見され、この地域の古代から中世の様相を知るうえで重要な手がかりを得ることができました。

最後になりますが、調査を担当していただいた昭和測量株式会社の皆様をはじめ関係各位に心から感謝申し上げます、序といたします。

令和5年3月

山梨市教育委員会

教育長 嶋崎修

例 言

1. 本報告書は、山梨県山梨市下井尻 977 番地から 1024-3 番地に所在する十王堂遺跡・井尻氏屋敷跡の埋蔵文化財発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は令和 2 年度県営畑地帯総合整備事業に伴い、山梨県峡東農務事務所の費用負担により実施した。
3. 発掘調査と整理報告書作成業務は、昭和測量株式会社が主体となり、山梨市教育委員会の指導の下、実施した。
[調査体制]
調査担当 小谷亮二・藤巻浩太郎（昭和測量株式会社文化財調査課）
調査顧問 新津健（昭和測量株式会社文化財調査課研究顧問）
発掘従事者 小澤美幸・鬼島章・北川原清美・鈴木紗衣・中澤保・永田正幸・古屋哲郎
整理従事者 齊藤里美・佐野香織
4. 発掘調査は令和 2 年 10 月 12 日～令和 3 年 2 月 19 日にかけて行った。整理・報告書刊行業務は令和 4 年 9 月 13 日～令和 5 年 3 月 15 日まで、昭和測量株式会社文化財調査課事務所内で行った。
5. 本書に関わる遺構写真は、小谷亮二、藤巻浩太郎が撮影した。遺物写真は小谷・佐野が撮影した。
6. 本書の編集は小谷亮二が行った。執筆分担は以下の通りである。
第 1 章第 1 節：駒田真人（山梨市教育委員会）
第 1 章第 2・3 節、第 2 章・第 4 章・第 5 章：小谷亮二
第 3 章 藤巻浩太郎
7. 発掘調査および報告書作成にあたって次の方々の御指導と御協力を賜った。深く感謝の意を表する。
八巻與志夫 井尻俊之 雲光寺
8. 本調査における図面・写真・遺物はすべて山梨市教育委員会で保管している。

凡 例

1. 本書で使用した地図は第 1 図：国土地理院発行の地形図『塩山』1/25,000 である。
2. 遺構・遺物の挿図縮尺は、各図に表示した。写真図版の縮尺は任意である。
3. 遺構平面図の方位は、各図に表示した。方位記号は方眼北を示している。
4. 遺構平面図の X・Y 座標値は、世界測地系の平面直角座標系第Ⅷ系に基づく値である。単位はメートルである。
5. 遺構断面図の数値は、標高 (T.P.) を示す。単位はメートルである。
6. 土層・遺物観察表中の色調は『新版標準土色帖』（農林水産省農林水産技術会議事務局監修）に基づいた。
7. 発掘調査では以下の遺構記号を使用した。遺構番号は種別ごとに番号を付した。本書でも発掘調査時点のものを使用した。
住居址：S I 土坑：S K（集石土坑を含む）小穴：S P その他の遺構：S X
8. 遺物番号は出土地点にかかわらず連番で付した。本書における挿図・写真図版・遺物分布図・遺物観察表および本文中の遺物番号はそれぞれ対応している。

本文目次

序	
例言	
凡例	
第1章 調査の経過	1
第1節 調査に至る経緯	1
第2節 発掘作業の経過	1
第3節 整理等作業の経過	2
第2章 遺跡の位置と環境	2
第1節 地理的環境	2
第2節 歴史的環境	2
第3章 調査の方法と層序	7
第1節 調査の方法	7
第2節 基本層序	8
第4章 調査の成果	11
第5章 総括	57
第1節 調査の成果と課題	57
第2節 十王堂・井尻氏	60

挿図目次

第1図 遺跡位置図	3	第20図 遺構分布図(6-2区)	29
第2図 地形分類図	4	第21図 1号住居址(SI1)	30
第3図 周辺の遺跡分布図	5	第22図 2号住居址(SI2)	30
第4図 1-1区北壁土層断面図	8	第23図 2号住居址遺物出土地点図	31
第5図 2区北壁土層断面図	9	第24図 3号住居址(SI3)	32
第6図 5-1区南壁土層断面図	9	第25図 4・5号住居址(SI4・5)(1)	32
第7図 5-1区北壁土層断面図	9	第26図 4・5号住居址(SI4・5)(2)	33
第8図 5-2区北壁土層断面図	9	第27図 5号住居址遺物出土地点図	34
第9図 6-1区北壁土層断面図	10	第28図 溝状遺構(SD3)(1)	35
第10図 6-2区北壁土層断面図	10	第29図 溝状遺構(SD3)(2)	36
第11図 遺構全体図・基本層序位置図	11	第30図 溝状遺構(SD3)(3)	37
第12図 遺構分布図(1-1区)	21	第31図 溝状遺構(SD1・2・4)	38
第13図 遺構分布図(1-2区)	22	第32図 1区1号水路	39
第14図 遺構分布図(2区)	23	第33図 その他の遺構(SX1)	40
第15図 遺構分布図(3区)	24	第34図 1号土坑(SK1)	40
第16図 遺構分布図(4区)	25	第35図 1号土坑(SK1)遺物出土地点図	40
第17図 遺構分布図(5-1区)	26	第36図 2・3号土坑(SK2・3)	41
第18図 遺構分布図(5-2区)	27	第37図 4・5号土坑(SK4・5)	41
第19図 遺構分布図(6-1区)	28	第38図 4・5号土坑(SK4・5)断面図	42

第39図	5号土坑(S K 5)断面図	42	第54図	25号土坑(S K 25・集石土坑)	45
第40図	6・15号土坑(S K 6・15)	42	第55図	26号土坑(S K 26・集石土坑)	45
第41図	7号土坑(S K 7)	42	第56図	31号土坑(S K 31・集石土坑)	46
第42図	8号土坑(S K 8)	43	第57図	S P 1	46
第43図	10号土坑(S K 10)	43	第58図	S P 2	46
第44図	13号土坑(S K 13)	43	第59図	S P 3	46
第45図	14号土坑(S K 14)	43	第60図	遺物実測図(1)	47
第46図	17号土坑(S K 17)	43	第61図	遺物実測図(2)	48
第47図	18号土坑(S K 18)	44	第62図	遺物実測図(3)	49
第48図	19号土坑(S K 19)	44	第63図	遺物実測図(4)	50
第49図	20号土坑(S K 20・集石土坑)	44	第64図	遺物実測図(5)	51
第50図	21号土坑(S K 21・集石土坑)	44	第65図	遺物実測図(6)	52
第51図	22号土坑(S K 22・集石土坑)	44	第66図	遺物実測図(7)	53
第52図	23号土坑(S K 23)	45	第67図	地籍図に見える土塁の痕跡と現況	58
第53図	24号土坑(S K 24)	45	第68図	遺構と土塁の位置関係	59

表目次

第1表	周辺の遺跡	6	第4表	石製品観察表	56
第2表	土器・陶磁器観察表	54	第5表	金属製品観察表	56
第3表	中世遺物観察表	56			

写真図版目次

図版1	調査区全景 西から		6-2区	S I 4・5 検出状況 西から	
	調査区全景 北西から		6-2区	S I 4 カマド・焼土状況 南から	
図版2	6-2区全景		6-2区	S I 4・5 東西ベルトセクション	
	6-1区全景				南から
	5-2区全景		6-2区	S I 4・5 南北ベルトセクション	
	5-1区全景				西から
図版3	4区全景		図版6	6-2区 S I 4・5 西壁セクション 東から	
	1~3区全景		6-2区	S I 5 カマド 南東から	
図版4	1-1区 S I 1 検出状況 南から		6-2区	S I 5 土器出土状況 西から	
	1-1区 S I 1 東西セクション 南から		2区	S D 1 (写真下) 東から	
	1-1区 S I 1 南北セクション 西から		2区	S D 1 セクション 南から	
	5-2区 S I 2 完掘 北西から		2区	S D 2 北から	
	5-2区 S I 2 東西セクション 南から		2区	S D 2 南壁セクション 北から	
	5-2区 S I 2 南北セクション 西から		2区	S D 2 南-東壁セクション 西から	
	5-2区 S I 2 掘り方 北西から		図版7	6-2区 S D 3 北壁セクション (西側)	
	5-2区 S I 2 遺物出土状況 東から				南から
図版5	6-1区 S I 3 完掘 東から		6-2区	S D 3 北壁セクション 南から	
	6-1区 S I 3 西壁セクション 東から		6-2区	S D 3 東壁セクション 西から	
	6-1区 S I 3 土器出土状況 東から		6-2区	S D 3 南壁セクション 北から	
	6-2区 S I 4・5 検出状況 南から		5-2区	S D 3・S I 2 北から	

5-1区 SD3 北西から
4区 SD3 北から
4区 SD3東西方向石列 南から
図版8 4区 SD4 西から
4区 SD4南壁セクション 北から
1-2区 1号水路 北から
1-2区 1号水路 西から
1-2区 1号水路 北西から
1-2区 1号水路 南西から
1-2区 1号水路 南から
図版9 1-1区 SK1 南東から
1-1区 SK1配石 東から
1-1区 SK1・4・5 西から
1-1区 SK3 南東から
1-1区 SK6 南東から
1-1区 SK6セクション 南東から
1-1区 SK7 東から
1-1区 SK7セクション 東から
図版10 1-1区 SK18 南東から
1-1区 SK18セクション 南東から
1-1区 SK19 南から
1-1区 SK19セクション 南から
1-1区 SK20 南東から
1-1区 SK20セクション 南から
1-1区 SK22 北から

1-1区 SK23 南から
図版11 1-1区 SK25 南から
1-1区 SK26 東から
1-1区 SK26セクション 東から
1-1区 SK28 南東から
1-1区 SK31 南東から
1-1区 SK31 西から
1-1区 SP1 東から
1-1区 SX1 西から
図版12 遺物写真図版(1)
図版13 遺物写真図版(2)
図版14 遺物写真図版(3)
図版15 遺物写真図版(4)

第1章 調査の経過

第1節 調査に至る経緯

十王堂遺跡および井尻氏屋敷跡は、甲府盆地の東部、山梨市下井尻地内に所在する。山梨県峡東農務事務所が計画する県営畑地帯総合整備事業日下部地区 1-1 工区工事範囲は、周知の埋蔵文化財包蔵地である十王堂遺跡及び井尻氏屋敷跡に該当しており、令和元年度に山梨市教育委員会が埋蔵文化財の試掘確認調査を実施した。当試掘調査では遺物・遺構は確認されなかったものの、工事範囲は近世以前にさかのぼる可能性のある井尻氏屋敷に現存する土塁に隣接しており、また、井尻氏屋敷の南側にも館の可能性のある地割がみられることから、今回の発掘対象地である 1090㎡の範囲の遺跡の保護について峡東農務事務所と山梨市教育委員会で協議を行った結果、記録保存調査を行うこととなった。

県峡東農務事務所は昭和測量株式会社に現場調査を委託し、令和2年9月4日に山梨市教育委員会を含めた三者協定が締結された。調査の監理は山梨市教育委員会が行うこととなった。9月4日に文化財保護法92条の届出が昭和測量株式会社から山梨市教育委員会に提出され、10月12日から現場調査に着手する運びとなった。

第2節 発掘作業の経過

令和2年

9月4日～10月11日 準備工・ほ場整備工事との調整を行う。

10月12日 1区～3区の表土掘削を開始。

10月14日 2、3区の石積みに沿って溝状のプランを検出。

10月19日 1区～3区の表土掘削が終了。2区で集石土坑を検出。

10月26日 2区で竪穴状遺構を検出。

11月2日 1区の最北側で石列と思われるプランを検出。

11月6日 1区で甲斐型土器が出土。

11月26日 1区でS I 1のカマドを検出。

12月8日～9日 6区の表土掘削を行う。

12月10日 空中写真撮影を行う。

12月11日 4区の表土掘削を行う。

12月14日 6区の溝（堀）を検出。掘削を開始する。

12月16～21日 1・2区の埋戻しを行う。

12月24日 竪穴状遺構から須恵器の坏蓋が出土。

令和3年

1月5日 4区で住居址と溝状のプランを検出した。

1月16日 6区で住居址を検出。

1月21日 6区の住居址でカマドを検出し焼土を確認。

1月27日～2月1日 5区の表土掘削と4区の埋戻しを行う。

2月2日 5区で溝（堀）と住居址を検出。

2月13日 5区の調査終了。

2月16日 6区の調査終了。

2月17日～19日 5区、6区の埋戻しを行う。

2月19日 機材の撤収を行い調査は終了した。

第3節 整理等作業の経過

整理・報告書刊行業務は、令和4年9月13日から令和5年3月15日の間、山梨県笛吹市石和町に所在する昭和測量株式会社文化財調査課の事務所内にて行った。

整理作業は遺物の水洗・注記から開始した。遺物の接合・復元・選別作業と行き、実測とトレース、写真撮影などの記録作業を行った。現場の調査写真や遺構図面についても順次整理作業を進め、遺物観察表の作成、報告書の挿図・図版の編集、本文執筆と作業を行い、令和5年3月15日に報告書を刊行した。

第2章 遺跡の位置と環境

第1節 地理的環境（第1・2図）

山梨市の地形は大きく分けると、①山地、②山地緩斜面、③砂礫台地、④山麓に位置する開析扇状地、⑤平野部に位置する扇状地（2つに区分＝⑤－1・⑤－2）、⑥谷底平野に分類される（『山梨市史』）。

①山地は市域の西部に広がっており、西に市域の中で最も高い標高1,376mの帯那山の他、平野部の石森山は基盤岩で一連の岩脈の高い部分が地表に露出していると考えられている。

②山地緩斜面は笛吹川フルーツ公園に至る傾斜角が約15度以下の緩斜面が該当する。

③砂礫台地は江曾原付近や水口と堀内の間に小規模な分布が認められる。現在の河床より高さがある礫層である。

④山麓に位置する緩斜面の開析扇状地は、甲州市勝沼町上岩崎、山梨市上市川から大工の日向・水口などが該当する。後述する平野部に比べると傾斜が大きく、現河床とは比高差がある。

⑤平野部に位置する開析扇状地は2つに区分できる。⑤－1は現河床より高い位置にあり、堆積物が相対的に古い扇状地で、⑤－2は現河床と明瞭な高度差をもたない低い位置の扇状地である。⑤－1の境目は鴨居寺辺りが下流側の限界となるが崖によって明確に区別されている訳ではない。⑤－2は笛吹川、重川、日川の三河川の合流地点が該当する。このあたりでは旧河道の痕跡が確認することが出来る。

⑥谷底平野は兄川、弟川、西川に沿った狭く長い低地、亀甲橋より上流の笛吹川の流れによって浸食され出来た谷が該当する。

十王堂・井尻氏屋敷跡の所在する下井尻は、甲府盆地の東北部に位置する秩父山地から流下する笛吹川と大菩薩山地から流下する重川に挟まれた④の開析扇状地に位置している。笛吹川からは東に直線距離にして約600m程に位置する。

第2節 歴史的環境（第3図・表1）

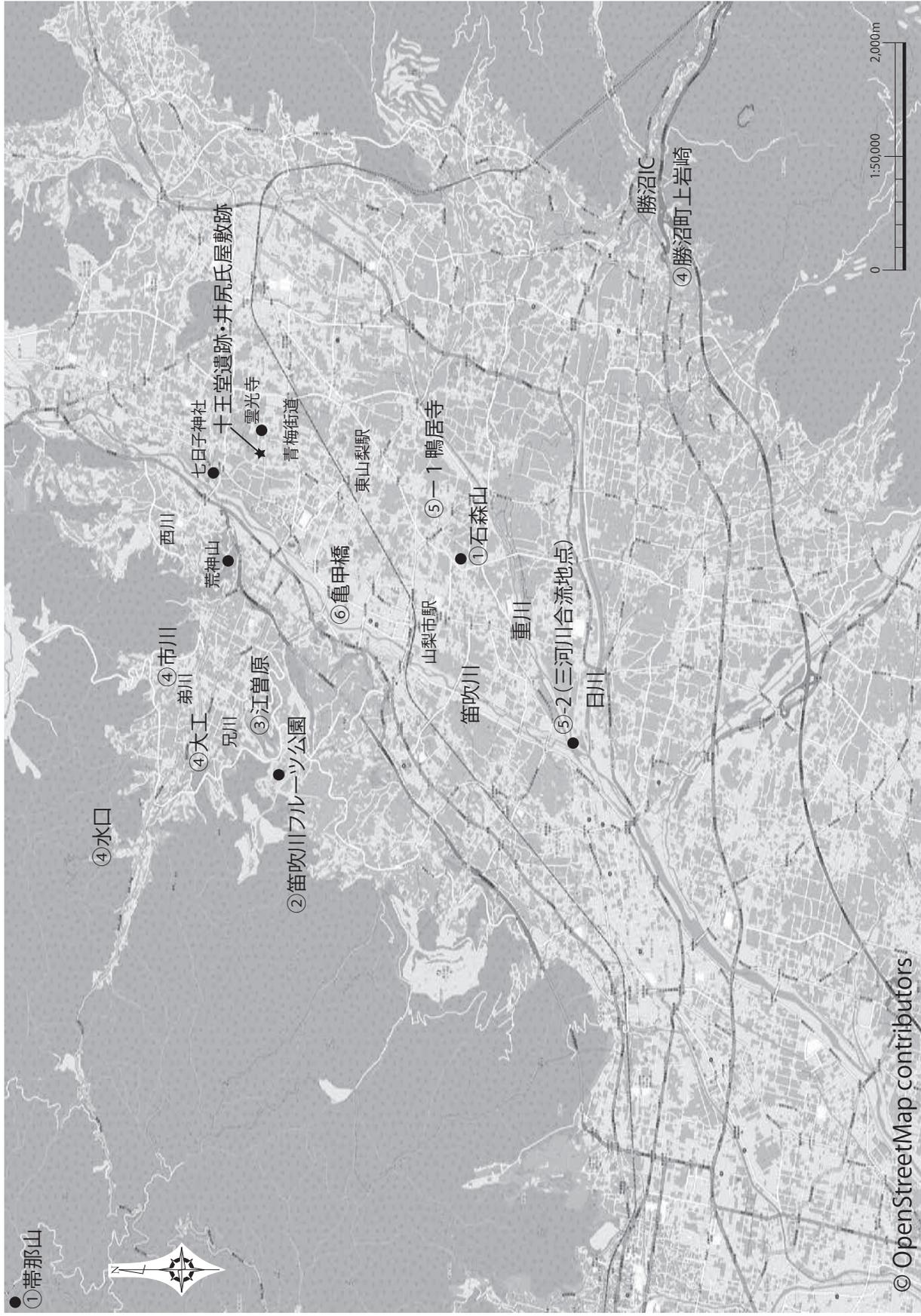
周辺の遺跡を第1節で分類した地形に沿って見てみる。

①山地の先端部の標高477.6mの地点には荒神山窯跡（87）が位置している。平安時代の土師器生産遺跡である。窯跡と思われる遺構3基、土坑状の落ち込みが2箇所検出された。笛吹川の対岸には宮ノ前（七日子）遺跡、日下部遺跡が位置している。遺物は土師器の皿・杯・足高高台杯・柱状高台杯などの他に、トレンチから灰釉陶器が出土している。十一世紀後半～十二世紀前半に位置づけられる。

②山地緩斜面には泉林遺跡(97)が位置する。標高470mに位置し縄文時代中葉の藤内式～井戸尻式土器が出土した。

③砂礫台地上には添田遺跡（60）が位置する。縄文時代中期末の曾利式終末期の土器が出土した。

④開析扇状地には大規模な集落が展開された。立石遺跡（20）（古屋善博氏所蔵資料）が位置する。縄文時代早期の押型文土器や燃糸文土器に伴う石器、中期井戸尻式や曾利式期の土器、後期・晩期の石器が出土している。平成十年の分布調査では五領ヶ台式、勝坂式、曾利式土器が出土している。2000（平成12）年の東山聖苑地点の調査では曾利IV期の遺物が主体を占める。ヒスイ製垂飾品が出土している。遺構は土坑が中心で性格としては墓域の可能性が考えられる。



第2図 地形分類図 (地名は地図情報に基づき表記した)

表1 周辺の遺跡

NO.	遺跡名	種別	時代	所在地
1	十王堂遺跡	散布地	奈良 / 平安	七日市場字十王堂
2	井尻氏屋敷跡	城館跡	近世	下井尻字十王堂
3	阿弥陀堂遺跡	散布地	縄文 / 古墳 / 奈良 / 平安	下井尻字阿弥陀堂
4	宮ノ前(七日子)遺跡	集落跡	縄文 / 古墳 / 奈良 / 平安	七日市場字宮ノ前
5	下弥勒遺跡	散布地	縄文 / 平安	七日市場字下弥勒
6	天神原北遺跡	散布地	縄文 / 平安	七日市場字天神原
7	中沢遺跡	散布地	平安	七日市場字中沢
8	西ノ窪遺跡	散布地	縄文 / 平安	七日市場字西ノ窪
9	天神原南遺跡	散布地	平安	七日市場字天神原
10	宮ノ西遺跡	散布地	古墳 / 中世	下井尻字宮ノ西
11	権現窪経塚	経塚	中世 / 近世	七日市場権現窪
12	神明遺跡	散布地	奈良 / 平安	七日市場字神明
13	御屋敷北遺跡	散布地	平安	下井尻字御屋敷
14	御屋敷南遺跡	散布地	縄文 / 平安	下井尻字御屋敷
15	天神原遺跡	散布地	平安	下井尻字天神原
16	狐塚遺跡	散布地	平安	下井尻字狐塚
17	相畑北遺跡	散布地	古墳	下井尻字相畑
18	飛沢遺跡	散布地	中世 / 近世	下井尻字飛沢
19	相畑南遺跡	散布地	中世	下井尻字相畑
20	立石遺跡	集落跡	縄文 / 奈良 / 平安	小原東字立石
21	八王子遺跡	集落跡	縄文	小原東字八王子
22	目下部遺跡	集落跡	縄文 / 弥生 / 古墳 / 平安 / 中世	小原東字大泉庵
23	安田義定館跡	城館跡	中世	小原西字八王子
24	下ノ原遺跡	散布地	縄文	七日市場字下ノ原
25	大堀遺跡	散布地	奈良 / 平安	小原東字大堀
26	安田義定館跡	城館跡	中世	小原東字白山
27	西久保遺跡	散布地	縄文 / 平安	小原東字西久保
28	東反保遺跡	集落跡	平安	小原東字東反保ほか
29	唐土遺跡	散布地	古墳 / 中世	三ヶ所字唐土
30	三ヶ所梨木遺跡	散布地	平安	三ヶ所字梨木
31	上之割八王子遺跡	散布地	平安	上之割字八王子
32	樋口遺跡	散布地	古墳 / 平安 / 中世	小原東字樋口
33	三ヶ所遺跡	集落跡	平安 / 中世	三ヶ所字寺平
34	連方屋敷	城館跡	中世	三ヶ所字連方
35	梨木遺跡	散布地	平安	上之割字梨木
36	柿木田遺跡	集落跡	縄文 / 古墳	小原西字柿木田
37	寺ノ下遺跡	散布地	縄文	小原西字寺の下
38	雁行堤	堤防遺跡	近世	万力字正月林
39	目下部病院前遺跡	散布地	古墳	上神内川字水上
40	平塚遺跡	散布地	平安	上神内川字平塚
41	平塚古墳	古墳	古墳	上神内川字平塚
42	塚越遺跡	散布地	古墳 / 中世	上神内川字塚越
43	稲荷塚古墳	古墳	古墳	上神内川字塚越
44	松原遺跡	散布地	中世	上神内川字松原
45	城伊庵屋敷跡	城館跡	中世	上神内川字幸ノ前
46	浅間遺跡	散布地	平安 / 中世	三ヶ所字浅間
47	大橋遺跡	散布地	平安 / 中世	三ヶ所字大橋
48	河野氏屋敷	その他	中世 / 近世	三ヶ所字新町西
49	吉原遺跡	散布地	平安	三ヶ所字吉原
50	新町東遺跡	散布地	縄文	三ヶ所字新町東
51	原遺跡	散布地	古墳	三ヶ所字原
52	ふじ塚古墳	古墳	古墳	三ヶ所字原
53	東後屋敷遺跡	集落跡	縄文 / 奈良 / 平安	東後屋敷数字小屋敷
54	武田金吾屋敷跡	城館跡	中世	東後屋敷数字小屋敷
55	上手原遺跡	散布地	縄文	上石森字上手原
56	鍛冶屋久弥遺跡	散布地	古墳	鴨居寺字鍛冶屋久弥
57	榎木遺跡	散布地	古墳	鴨居寺字榎木
58	萱刈遺跡	散布地	縄文	東字萱刈
59	堂屋敷遺跡	散布地	縄文 / 平安	東字堂屋敷
60	添田遺跡	散布地	縄文	東字添田
61	堤下遺跡	散布地	平安	西字堤下
62	切通北遺跡	その他	中世 / 近世	東字切通
63	切通西遺跡	散布地	平安	東字切通
64	切通東遺跡	散布地	平安	東字切通
65	切通南遺跡	散布地	縄文 / 平安	東字切通
66	藤の木道下遺跡	散布地	縄文 / 平安	東字藤の木道下
67	久保遺跡	散布地	平安	東字久保
68	上野氏屋敷跡	城館跡	近世	東字久保
69	久保田遺跡	散布地	縄文	東字久保田

NO.	遺跡名	種別	時代	所在地
70	村西遺跡	散布地	縄文	東字村西
71	久保西遺跡	散布地	平安	東字久保
72	丸山遺跡	散布地	縄文	東字丸山
73	東田遺跡	社寺跡	中世 / 近世	東字東田
74	中島遺跡	散布地	縄文 / 平安	東字中島
75	下河原遺跡	その他	中世 / 近世	東字下河原
76	大久保遺跡	散布地	縄文 / 平安	東字大久保
77	於北北遺跡	その他	中世 / 近世	市川字於北
78	神明前遺跡	社寺跡	中世 / 近世	市川字神明前
79	神明前遺跡	散布地	平安	市川字神明前
80	於北南遺跡	散布地	平安	市川字於北
81	市川東遺跡	散布地	縄文	市川字神明前
82	犬塚遺跡	散布地	平安	市川字犬塚
83	樋詰裏遺跡	散布地	平安 / 中世	北字樋詰裏
84	西片山遺跡	その他の墓	中世 / 近世	北字西片山
85	中下西遺跡	散布地	平安	東字中下
86	膳棚遺跡	集落跡	平安	北字中膳棚ほか
87	荒神山窯跡	窯跡	平安 / 中世	東字荒神山
88	廻り田遺跡	集落跡	古墳	北字廻り田
89	上コブケ遺跡	集落跡	縄文 / 平安	北字上コブケ
90	兄川河床遺跡	その他	旧石器	南字上兄川(兄川河床)
91	窪八幡神社社家坊中群	社寺跡	中世 / 近世	北
92	窪八幡神社	神社	中世	北字仲町
93	清水陣屋跡	陣屋跡	近世	北字デウノコシ
94	窪八幡神社旧社地跡	社寺跡	平安 / 中世	南
95	宮ノ上遺跡	散布地	平安	下神内川字宮ノ上
96	市川北遺跡	散布地	縄文	市川字平山
97	泉林遺跡	散布地	縄文	市川字泉林
98	市川西遺跡	散布地	縄文	市川字柿田
99	小揚遺跡	散布地	平安	堀内字小揚
100	大工北遺跡	散布地	縄文 / 古墳 / 平安	大工字日影
101	堰間遺跡	集落跡	縄文 / 平安 / 中世	堀内字堰間
102	大工南遺跡	散布地	縄文	大工字井ノ久保前
103	芦原遺跡	散布地	平安	大工字芦原
104	江曾原遺跡	集落跡	縄文 / 古墳 / 平安	江曾原字片瀬
105	富士塚	富士塚	近世	上万力字藤塚
106	長源寺前古墳	古墳	古墳	上万力字蟹沢
107	足原田遺跡	集落跡	古墳 / 平安 / 中世	万力字足原田
108	原ノ前遺跡	散布地	奈良	万力字原ノ前
109	間之田西遺跡	散布地	古墳 / 平安	正徳寺字間之田
110	天神前遺跡	散布地	縄文 / 平安 / 中世	正徳寺字天神前
111	間之田東遺跡	散布地	平安	正徳寺字間之田
112	三宮寺遺跡	散布地	平安 / 中世	正徳寺字三宮寺
113	笛吹川堤防跡群	その他(堤防群)	近世・近現代	
114	前田遺跡	散布地	平安	下神内川字前田
115	杉ノ木遺跡	集落跡	古墳	下神内川字杉木
116	宗高北遺跡	散布地	平安	下石森字宗高
117	屋敷添遺跡	散布地	縄文 / 平安 / 中世	下石森字屋敷添
118	宮ノ前遺跡	散布地	平安	上石森字宮ノ内
119	上黒木遺跡	散布地	奈良 / 平安 / 中世	上石森字上黒木
120	金山林遺跡	散布地	古墳 / 平安	上石森字金山林
121	上石森塚越遺跡	散布地	縄文 / 平安	上石森字塚越
122	堀ノ内遺跡	集落跡	弥生 / 平安	上石森字堀ノ内
123	大野砦跡	城館跡	中世	大野字三十六
124	高畑遺跡	集落跡	縄文 / 古墳 / 平安	大野字高畑
125	天神前北遺跡	散布地	平安	大野字天神前
126	宗高西遺跡	散布地	古墳	下石森字宗高
127	天神前東遺跡	散布地	縄文 / 平安	大野字天神前
128	宗高南遺跡	散布地	弥生 / 古墳	下石森字宗高
129	宗高東遺跡	散布地	縄文	下石森字宗高
130	雲林遺跡	散布地	古墳 / 平安	下石森字雲林
131	上沼遺跡	散布地	古墳 / 平安	中村字上沼
132	大林北遺跡	散布地	縄文 / 弥生 / 古墳 / 平安 / 中世	上栗原字大林
133	九ツ塚遺跡	散布地	平安 / 中世	正徳寺字九ツ塚
134	五鉢尊遺跡	散布地	平安	正徳寺字五鉢尊

宮ノ前（七日子）遺跡（4）は昭和二十年代初に野沢昌康氏、上野晴朗氏、古屋善博氏らによって調査が行われ、縄文時代の遺構は石囲炉が合計で4基検出された。遺物は土偶や縄文時代中期の井戸尻式期から曾利式期前半の土器と縄文時代後期後半から晩期の打製石斧が出土している。平成5年度の調査では、五領ヶ台I式期の土器と土偶3点が出土している。土偶は諸磯式期、五領ヶ台期、曾利式期と考えられる。また平成十年の調査では中期後半の曾利Ⅲ～Ⅳ式のまとまった土器が出土している。天神原南遺跡（9）は曾利I式期の水煙文把手付土器が出土した。奈良・平安時代になっても大規模な集落が営まれる。これは現河床より高く、洪水の影響を受けにくい安定した地形が要因となっている。日下部遺跡（22）は昭和24年第1次調査、昭和25年に第2次調査、昭和32年に第3・4次調査、昭和48年に第5次調査、平成24年に第6次調査が行われた。遺構は1・2次調査で住居址20軒と倉庫跡1棟、「王」「真」「南」「田」「内」「饗」「丸」「八九」などの墨書土器が出土している。3・4次調査で住居址9軒が検出され、「丈国」「王」「鞆井」「玉」「文」などの墨書土器が出土している。第6次調査では住居跡6軒、掘立柱建物跡3棟などが検出された。遺物は9世紀後半～11世紀代に属する土師器が出土している。遺跡の北に位置する宮ノ前（七日子）遺跡を含めた地域が加美郷の中心的な集落の可能性はある。十王堂遺跡（1）は平成29～30年に今回の調査区の南に位置する地点でも調査が行われた。縄文時代の諸磯式、堀之内式の土器と9世紀代の竪穴住居2軒、掘立柱建物跡1棟が検出された。また、住居のカマド内の土壌から炭化米が検出された。阿弥陀堂遺跡（3）は平成29年に行われた調査では竪穴住居址1軒、柱状高台皿、高台杯、青磁片が出土した。カマド内土壌の選別によってイネ・オオムギ・コムギ他各種の雑穀類が多数検出された。

⑤-1 平野部に位置する低い方の扇状地には高畑遺跡（JA フルーツ山梨加納岩統一共選所調査地点）（124）が位置する。笛吹川と重川の合流地点にあたり標高303mに立地する複合遺跡である。縄文時代には中期前半～末まで継続した大規模な集落で、土器や土偶が多く出土した。平安時代の集落は大野郷の中核的な一部と考えられ、中世では井戸などの戦国時代の屋敷地の一部が明らかとなった。中世・近世になると山裾部に秩父往還、平野部に青梅街道など多くの道筋が通り山梨市は陸上交通の重要な地域であった。また、定期市や宿町の地名が残っており交易・流通の拠点でもあった。付近を流れる三河川は水害を引き起こすが、開発には欠かせない水の供給源であり郷村発達の基盤となる。連方屋敷（34）は鎌倉時代もしくは南北朝時代に始まる豪族屋敷である。現存する館は一辺100m程度の不整形で北と西に堀が残っている。土塁は屋敷地南側で一部消滅している。平成6年の調査では集石遺構が検出され、内耳土器や常滑甕が出土している。安田義定館（23）は文献から平安時代末から鎌倉時代初期の館跡と推定される。調査区の東にある雲光寺は義定の開基で義定一族の墓と伝えられる五輪塔がある。

⑥谷底平野に位置する村江曾原遺跡（104）は平安時代の集落跡である。

第3章 調査の方法と層序

第1節 調査の方法

調査区は南北の長さが約180mに及ぶため、1区～6区に区分けし、さらに掘削土置場を確保する必要がある調査区は、反転調査を行うため2つに分割した。

重機による表土掘削後、人力による遺物包含層掘削および遺構の検出作業を行った。

遺構番号は調査を行った順に付した。なお、遺構番号は遺構検出時点で使用したものを報告書まで用いることとした。

遺構測量は、土層断面は手描き実測にて行い、平面図はトータルステーションによる測量と写真測量を併用した。写真測量は主にポール撮影で行った。測量図化システムとしてCUBIC社「遺構くん」、写真測量にはAgisoft社「PhotoScan Professional」を用いた。完掘時には完掘状況の全体写真撮影と合わせてポール写真撮影を行い、「PhotoScan Professional」を用いてオルソモザイク写真を作成した。遺物は原則的にトータルステーションを使用して位置を記録して取り上げた。小片については、遺構出土のものは遺構一括とし、遺構外出土遺物については地点ごとに一括して取り上げた。遺構写真撮影にはデジタル一眼レフカメラ（NikonD7100）を使用した。調査終了時には山梨県峡東農務事務所と山梨市教育委員会の確認を受けた。

整理作業は遺物の水洗、注記、接合、復元を行い、遺物実測は手描きで行った。デジタルトレース、写真データの補正、挿図・写真図版作成、報告書編集作業には adobe 社製「illustratorCC」、「PhotoshopCC」、「InDesignCC」をそれぞれ使用した。

第2節 基本層序 (第4～10図)

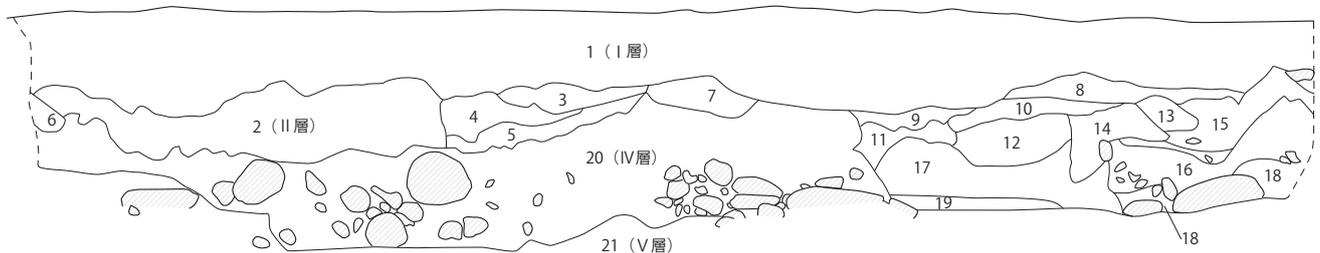
調査区ごとにサブトレンチを設定し、地山を掘り込む深さまで掘削を行い下層の確認を行った。1区から3区は竹根や樹木の根による影響が大きい。層序は地山の礫層まで浅い1～3区と礫層まで深い4～6区に区分できる。礫層までの深さは一定ではなく起伏がある。

基本層序は、遺構埋土は1～3区は褐色土、4～6区はにぶい黄褐色土である。遺物包含層は無い。I層は表土である。II層は1～3区の遺構埋土である褐色土、III層は4～6区の遺構埋土であるにぶい黄褐色土、IV層は地山直上の黄褐色土、V層は地山である礫層とした。ただし、各地点とも礫層の影響や攪乱の影響を受けているため共通する堆積は少ない。

- I 暗褐色土 (10YR3/4) 細粒砂 締まりやや弱く、粘性弱い。白色粒 1%以下を含む。表土。
- II 褐色土 (10YR4/6) 細粒砂 締まり強く、粘性弱い。白色粒を 3%含む。
- III にぶい黄褐色土 (10YR5/4) 細粒砂 締まり強く、粘性やや弱い。雲母・白色粒を 1%含む。
- IV 黄褐色土 (10YR5/6) 細粒砂 締まり強く、粘性弱い。褐色土 (10YR4/4) を 3%含む。
- V 地山 礫層

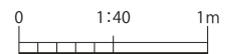
392.8m
A

A'

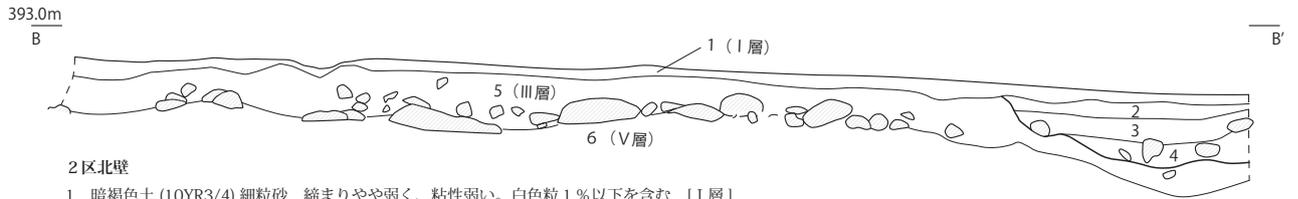


1-1区北壁

- | | |
|---|---|
| 1 暗褐色土 (10YR3/4) 細粒砂 締まりやや弱く、粘性弱い。白色粒 1%以下を含む [I層] | 12 暗褐色土 (10YR3/4) 細粒砂 締まり強く、粘性弱い。黄褐色土 (10YR5/6) を 5%含む。 |
| 2 褐色土 (10YR4/6) 細粒砂 締まり強く、粘性弱い。褐色土 (10YR4/6) を 10%含む [II層] | 13 にぶい黄褐色土 (10YR5/4) 細粒砂 締まり強く、粘性弱い。粘土を 5%含む。 |
| 3 褐色土 (10YR4/4) 細粒砂 締まりやや弱く、粘性弱い。1mm礫 1%含む。 | 14 褐色土 (10YR4/6) 細粒砂 締まり強く、粘性やや弱い。粘土を 5%含む。 |
| 4 にぶい黄褐色土 (10YR5/4) 細粒砂 締まり強く、粘性やや弱い。雲母・白色粒を 1%含む。 | 15 にぶい黄褐色土 (10YR5/4) 細粒砂 締まり強く、粘性弱い。粘土を 10%含む。 |
| 5 黄褐色土 (10YR5/6) 細粒砂 締まり強く、粘性やや弱い。白色粒を 1%含む。 | 16 にぶい黄褐色土 (10YR5/3) 細粒砂 締まり強く、粘性弱い。粘土を 20%含む。 |
| 6 暗褐色土 (10YR4/3) 細粒砂 締まり強く、粘性やや弱い。黒色粒を 5%含む。 | 17 暗褐色土 (10YR3/3) 細粒砂 締まり強く、粘性弱い。黄褐色土を 1%含む。 |
| 7 褐色土 (10YR4/6) 細粒砂 締まりやや弱く、粘性やや弱い。暗褐色土 (10YR3/4) を 30%含む。 | 18 にぶい黄褐色土 (10YR5/4) 細粒砂 締まり強く、粘性弱い。黒色粒を 5%含む。 |
| 8 にぶい黄褐色土 (10YR5/4) 細粒砂 締まりやや弱く、粘性弱い。粘土を 3%含む。 | 19 黒褐色土 (10YR2/3) 細粒砂 締まり強く、粘性弱い。暗褐色土 (10YR3/3) を 10%含む。 |
| 9 黄褐色土 (10YR5/6) 細粒砂 締まり強く、粘性やや弱い。褐色土 (10YR4/4) を マーブル状に 40%含む。 | 20 黄褐色土 (10YR5/6) 細粒砂 締まり強く、粘性弱い。褐色土 (10YR4/4) を 3%含む [IV層] |
| 10 褐色土 (10YR4/4) 細粒砂 締まりやや強く、粘性弱い。黒色粒・白色粒を 1%含む。 | 21 地山 [V層] |
| 11 暗褐色土 (10YR3/3) 細粒砂 締まり強く、粘性弱い。黄褐色土 (10YR5/6) を 20%含む。 | |



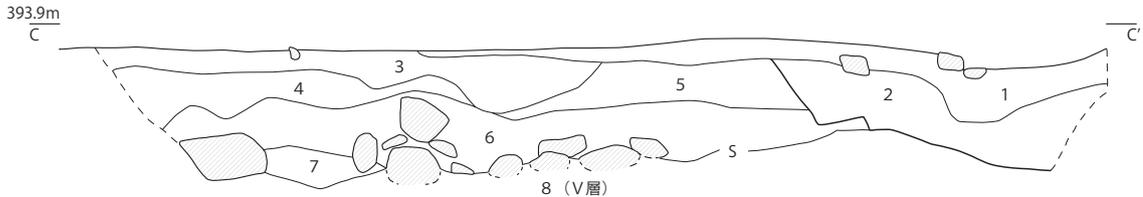
第4図 1-1区北壁土層断面図



2区北壁

- 1 暗褐色土 (10YR3/4) 細粒砂 締まりやや弱く、粘性弱い。白色粒1%以下を含む [I層]
- 2 褐色土 (10YR4/6) 細粒砂 締まり強く、粘性弱い。褐色土 (10YR4/6) を10%含む [SD1埋土]
- 3 にぶい黄褐色土 (10YR5/4) 細粒砂 締まり強く、粘性やや弱い。雲母・白色粒を1%含む [SD1埋土]
- 4 暗褐色土 (10YR4/3) 細粒砂 締まり強く、粘性やや弱い。黒色粒を5%含む [SD1埋土]
- 5 にぶい黄褐色土 (10YR5/4) 細粒砂 締まり強く、粘性やや弱い。雲母・白色粒を1%含む [III層]
- 6 地山 [V層]

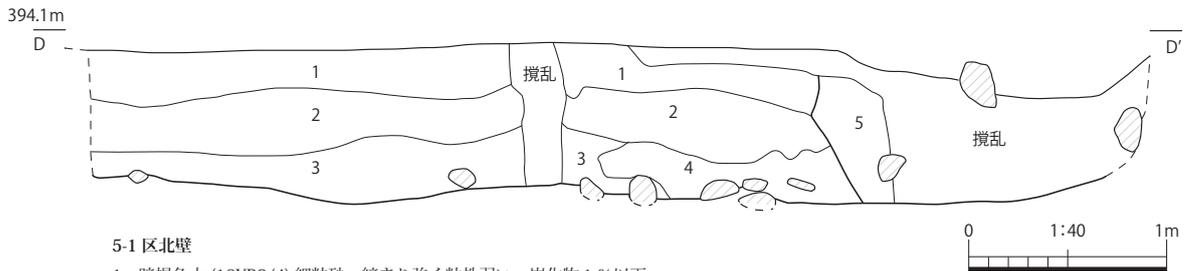
第5図 2区北壁土層断面図



5-1区南壁

- 1 暗褐色土 (10YR3/3) 細粒砂 締まり弱く、粘性弱い。コンクリート片を含む。1mm大の礫が多数混じる。
- 2 にぶい黄褐色土 (10YR4/3) 細粒砂 締まり強く、粘性やや弱い。褐色土 (10YR4/6) ブロックを10%含む [SD3埋土]
- 3 暗褐色土 (10YR3/4) 細粒砂 締まり強く、粘性弱い。白色粒1%以下、炭化物を1%含む。
- 4 暗褐色土 (10YR4/4) 細粒砂 締まりやや強く、粘性やや弱い。炭化物1%以下、1~3mm大の礫を1%含む。
- 5 褐色土 (10YR4/4) 細粒砂 締まり強く、粘性弱い。5mm大の礫を1%、白色粒を1%含む。
- 6 褐色土 (10YR4/6) 細粒砂 締まりやや弱く、粘性やや弱い。白色粒5%、1mm大の礫を10%を含む。
- 7 褐色土 (10YR4/6) 細粒砂 締まり強く、粘性やや弱い。白色粒を5%を含む。
- 8 地山 [V層]

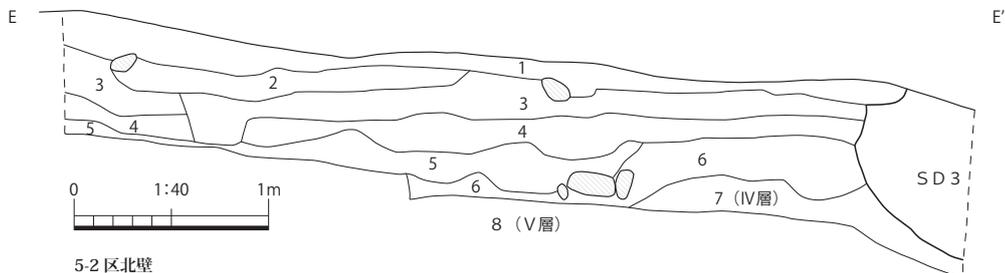
第6図 5-1区南壁土層断面図



5-1区北壁

- 1 暗褐色土 (10YR3/4) 細粒砂 締まり強く粘性弱い 炭化物1%以下
- 2 褐色土 (10YR4/6) 細粒砂 締まり強く粘性弱い 白色粒・雲母1%以下
- 3 にぶい黄褐色土 (10YR5/4) 細粒砂 締まり強く粘性弱い 1mm礫3%含む
- 4 にぶい黄褐色土 (10YR4/3) 細粒砂 締まり強く粘性やや弱い 白色粒1%・褐色粒5%含む
- 5 褐灰土 (10YR4/4) 細粒砂 締まり強く粘性弱い 白色粒・黄色粒2%含む [SD3埋土]

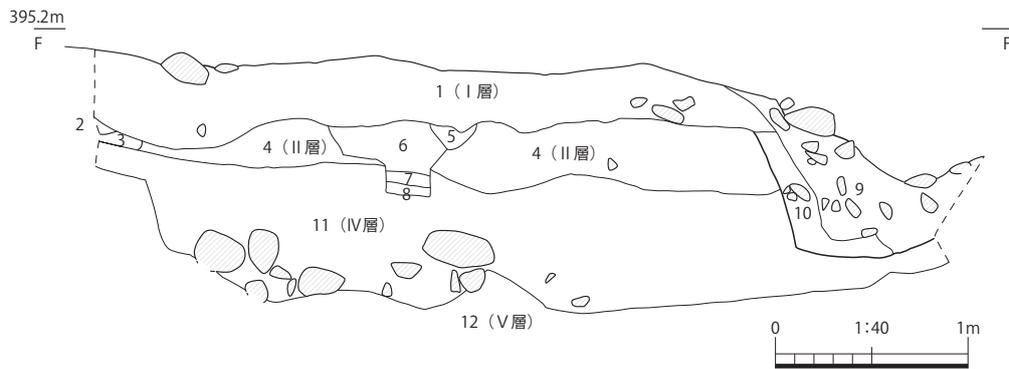
第7図 5-1区北壁土層断面図



5-2区北壁

- 1 褐色土 (10YR4/4) 細粒砂 表土 締まり強く、粘性やや強い。
- 2 にぶい黄褐色土 (10YR4/3) 細粒砂 締まり強く、粘性やや弱い。砂ににぶい黄褐色 (10YR7/3) 砂30%含む
- 3 褐色土 (10YR4/6) 細粒砂 締まりやや強く、粘性やや弱い。白色粒1%を含む。
- 4 暗褐色土 (10YR3/4) 細粒砂 締まり強く、粘性やや弱い。褐色土 (10YR4/4) 細粒砂をマール状に含む。
- 5 黄褐色土 (10YR5/6) 細粒砂 締まり強く、粘性やや弱い。暗褐色土 (10YR3/4) 細粒砂をマール状に含む。
- 6 にぶい黄褐色土 (10YR4/3) 細粒砂 締まり強く、粘性やや強い。白色粒2%含む。
- 7 黄褐色土 (10YR6/6) 細粒砂 締まり強く、粘性弱い。 [IV層]
- 8 地山 [V層]

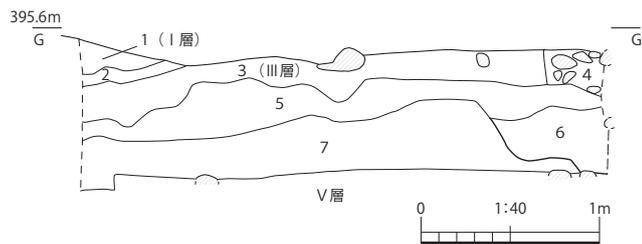
第8図 5-2区北壁土層断面図



6-1区北壁

- 1 暗褐色土 (10YR3/3) 細粒砂 締まり強く、粘性やや弱い。立ち上がりから1m付近まで褐色土(10YR4/6)が30%混じる。白色粒を5%含む。[I層]
- 2 褐色土 (10YR4/6) 細粒砂 締まりやや強く、粘性やや弱い。暗褐色土(10YR3/3)が5%混じる。
- 3 褐色土 (10YR4/6) 細粒砂 締まりやや弱く、粘性弱い。暗褐色土(10YR3/3)が10%混じる。白色粒を3%含む。
- 4 褐色土 (7.5YR4/4) 細粒砂 締まり強く、粘性弱い。1mm礫を1%、炭化物を1%以下含む。[III層]
- 5 暗褐色土 (10YR3/4) 細粒砂 締まりやや強く、粘性やや弱い。褐色土(7.5YR4/4)を5%、褐色土(10YR4/4)を10%含む。
- 6 褐色土 (10YR4/4) 細粒砂 締まりやや強く、粘性やや弱い。暗褐色土(10YR3/3)が30%混じる。
- 7 暗褐色土 (10YR3/3) 細粒砂 締まりやや弱く、粘性やや弱い。褐色土(10YR4/4)が5%混じる。
- 8 褐色土 (7.5YR4/4) 細粒砂 締まり強く、粘性弱い。暗褐色土(10YR3/3)が10%混じる。
- 9 暗褐色土 (10YR3/4) 細粒砂 締まり強く、粘性弱い。礫を多数含む。白色粒を5%、黒色・黄色粒を1%以下含む。[SD3埋土]
- 10 暗褐色土 (10YR3/3) 細粒砂 締まり強く、粘性弱い。褐色土(10YR4/4)を10%含む。[SD3埋土]
- 11 明黄褐色土 (10YR6/6) 細粒砂 締まり強く、粘性弱い。白色粒を5%含む。
- 12 地山 [V層]

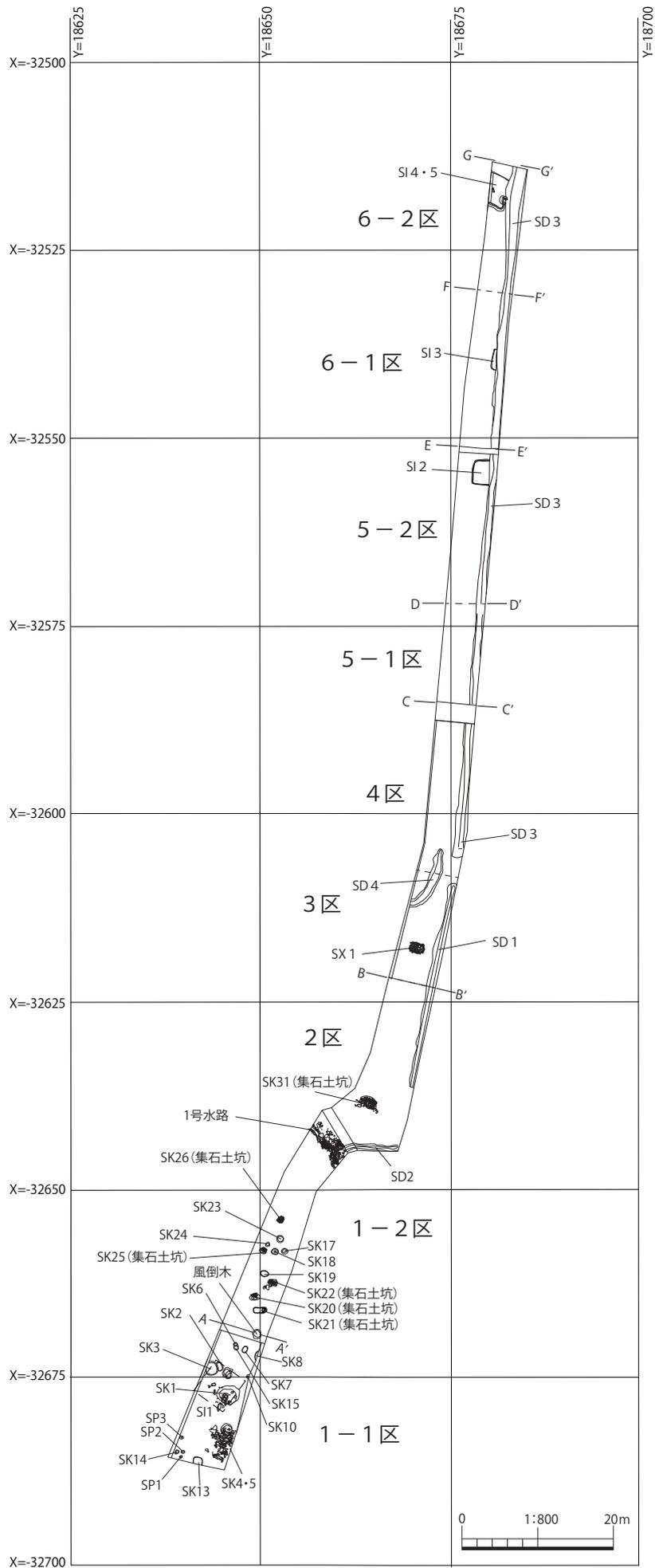
第9図 6-1区北壁土層断面図



6-2区北壁

- 1 暗褐色土 (10YR3/3) 細粒砂 締まり弱く、粘性やや弱い。黄褐色粒を5%含む。[I層]
- 2 暗褐色土 (10YR3/4) 細粒砂 締まり弱く、粘性やや強い。焼土を45%、炭化物を5%を含む。
- 3 褐色土 (10YR4/6) 細粒砂 締まり弱く、粘性やや弱い。炭化物を1%含む。[III層]
- 4 黒褐色土 (10YR3/3) 細粒砂 締まり弱く、粘性やや強い。石・礫を多数含む。
- 5 黒褐色土 (10YR3/2) 細粒砂 締まり強く、粘性弱い。白色粒1%含む。
- 6 暗褐色土 (10YR3/3) 細粒砂 締まり強く、粘性やや強い。炭化物を1%、5層のブロックを3%含む。[SD3埋土]
- 7 褐色土 (10YR4/6) 細粒砂 締まり弱く、粘性やや弱い。3層を10%、炭化物を1%含む。

第10図 6-2区北壁土層断面図



第 11 図 遺構全体図・基本層序位置図

第4章 調査の成果

今回の調査では住居址5軒、溝4条、土坑22基、ピット3基、水路跡1条、SX（その他の遺構）1基が検出された。

SI1（第11・12・21・60、図版4・12）

[位置・重複] 1区に位置している。重複する遺構はない。

[形状・規模] カマドの痕跡と硬化面のみを検出した。平面形と規模は不明である。

[検出状況・埋土] 後世の削平や竹の根の影響が著しい。カマドは袖状に白色粘土のブロックと焼土ブロックが検出された。カマドの軸の方向や硬化面の位置から、住居址の北東側に構築されていたと推測される。

[出土遺物] 1は羽釜で直線的に立ち上がり、口縁端部はやや内側に傾く。鏝は口縁端部下に付く。口縁端部から鏝の付け根まで1.2cm。鏝は外側で肥厚する。内外面共にナデ調整。2は1と同一個体か。

[時期] 出土遺物から平安時代に属すると思われる。

SI2（第11・18・22・23・60、図版4・12）

[位置・重複] 5-2区に位置している。東側は溝SD3で切られている。

[形状・規模] 平面形は方形で、検出された規模は東西2.3m、南北3.4m、深さは0.3mを測る。主軸の方位はN-4°-Eを指している。断面形状は方形を呈している。周溝が検出された。

[検出状況・埋土] III層にぶい黄褐色土で検出した。埋土は4層に分層でき、1層は暗褐色土である。2層には炭化物・焼土を含む。3層は褐色土のブロックを含む。床面。4層は掘り方である。

[出土遺物] 3~10は土師器の坏である。3の底部は全面をヘラミガキ調整、見込部に放射状の暗文。体部外面に横位のヘラミガキ調整、体部下半はヘラケズリ調整が施される。口縁部に煤が付着する。4の内面は見込部と体部に放射状の暗文。外面は体部下半はヘラケズリ、底部は静止糸切後外周にヘラケズリ調整が施される。5の底部は回転糸切後外周をヘラナデ。体部下半に手持ちヘラケズリ調整を施す。9は高台坏で底部はケズリ調整を施す。11~16は土師器の甕である。11の口縁部は緩やかに外反する。内・外面共にヘラナデ調整を施す。12の口縁部は大きく外反する。内面は横位のハケメ調整が施される。16の外面は縦位のハケメ調整、内面は上半にナデ調整、下半に横位のハケメ調整が施される。17は須恵器の甕の体部で、外面にタタキ調整を施し、自然釉がかかる。内面は当て具痕が認められる。

[時期] 出土遺物から8世紀後半に属すると思われる。

SI3（第11・19・24・61、図版5・13）

[位置・重複] 6-1区に位置している。東側はSD3に切られている。

[形状・規模] 形状は方形で、検出された規模は東西0.7m、南北1.1m、深さは0.3mを測る。主軸の方位はN-16°-Eを指している。断面形状は方形を呈している。周溝が検出された。

[検出状況・埋土] III層にぶい黄褐色土で検出した。埋土は3層に分層でき、1層は暗褐色土で遺物を含む。2層はにぶい黄褐色土で3層は明黄褐色土で地山の黄褐色土を含む。

[出土遺物] 18は須恵器の坏蓋で天井部に回転ヘラケズリ調整を施す。

[時期] 出土遺物から9世紀か。

SI4（第11・20・25・26、図版5・6）

[位置・重複] 6-2区に位置している。SI5の床面の下層からカマドの痕跡が検出されたことから、SI5に切られている。

[形状・規模] 焼土とカマドの袖とみられる粘土を検出したが、建物の掘方の形状は確認できなかった。

[検出状況・埋土] SI5の床面下から焼土とカマドの袖と思われる粘土が検出された。

[出土遺物] SI5に切られており、SI4として取り上げた遺物はない。

[時期] SI5との重複関係から平安時代に属すると思われる。

S I 5 (第 11・20・25～27・61、図版 5・6・13)

[位置・重複] 6-2区に位置している。S I 4を切っており、東はS D 3で切られている。

[形状・規模] 西側は調査区外に延びているため平面形の形状は不明である。検出された規模は東西 2.6m、南北 4.2m、深さは遺構検出面から 0.3m を測る。カマドの主軸の方位はN-69°-Wを指している。カマドは袖石と思われる河原石が2点出土した。南側の壁際で周溝が検出された。

[検出状況・埋土] Ⅲ層にぶい黄褐色土で検出した。埋土は2層に分層でき、1層はにぶい黄褐色土、2層は暗褐色土である。

[出土遺物] 19は土師器の坏の完形品である。大形で身が深く底部は弧状を呈している。底部からやや内湾しながら外に開く。口縁端部は丸く収める。内・外面共にミガキ調整、底部はケズリ調整が施される。21・23は土師器の蓋である。21は内面にらせん状の暗文が施される。

[時期] 出土した遺物から8世紀前半に属すると思われる。

S D 1 (第 5・11・14・15・31・61、図版 6・13)

[位置・重複] 2区に位置する。

[形状・規模] 南北に走り、長さは39.0m、幅1.2m、深さは0.3～0.4mを測る。主軸の方位はN-12°-Eを指している。断面形状はすり鉢状を呈している。

[検出状況・埋土] 調査区東側の現状で残っている石積みに沿って検出された。溝の東側の立上りは調査区外に延びており、検出できなかった。

[出土遺物] 28は土器の内耳鍋の口縁部であるが、耳は欠損している。体部がやや外に開く器形とみられる。中世後半か。29・30は染付碗である。

[時期] 埋没時期は近世以降であるが、内耳鍋も出土しており溝の開削時期が中世である可能性はある。

S D 2 (第 11・14・31・61、図版 6・13)

[位置・重複] 2区に位置する。1号水路に切られている。

[形状・規模] 東西に走り、長さは8.0m、幅2.0m、深さは0.4mを測る。

[検出状況・埋土] 西側は1号水路に切れ、東側は調査区外に延びている。

[出土遺物] 31は土師器の甕で、口縁部は短く外反し、端部に面を持つ。内面は横位のハケメ、外面はヘラナデ調整を施す。平安時代に属すると思われる。32は銭で「寛永通宝」か。

[時期] 埋没時期は近世以降である。

S D 3 (第 6～11・16～20・28～30・61、図版 7)

[位置・重複] 4～6区に位置する。調査区外の井尻氏屋敷跡の土塁に隣接している。

[形状・規模] 南北に走り、長さは南北98.0m、幅は最大で1.5m、深さは0.6～0.8mを測る。

[検出状況・埋土] 溝の東側の立ち上がりは調査区外に延びているとみられ検出できなかった。埋土はコンクリート片を含む流入土や攪乱土で覆われていた地点(第6・7図)もあったが、4区で確認した土層断面(第30図)では4層に分層できた。1層は黒褐色土、2・3・4層は褐色土で2層は黄褐色土を多く含む。4層は礫を多く含む。

[出土遺物] 33は染付碗である。

[時期] 磁器が出土しており、埋没時期は近世以降である。

S D 4 (第 11・15・61、図版 8・13)

[位置・重複] 3・4区に位置する。

[形状・規模] 溝の北端から南へ2.8mの地点で南西方向に向きを変え、さらに5mの地点で西の調査区外に延びている。掘り方の断面形はすり鉢状である。

[検出状況・埋土] 地山上面で検出した。埋土は3層に分層でき1層は褐色土、2層・3層は暗褐色土で3層は地山の礫を多量に含む。

[出土遺物] 34は土師器の甕で底部に木葉痕。35は土師器の坏の底部である。平安時代に属すると思われる。36・37はすり鉢である。36は瓦質土器のすり鉢で11条1単位のすり目、37は土器のすり鉢で見込み部に4条1単位のすり目が認められる。中世に属すると思われる。

[時期] 出土遺物から最終的な埋没時期は中世である。

1号水路（第11・14・32、図版8）

[位置・重複] 1－2区に位置する。

[形状・規模] 検出できた規模は長さ4.8m、幅は0.5m、深さは0.3m～0.4mを測る。主軸の方位はN－42°－Wを指している。

[検出状況・埋土] 地山上面で検出した。西側は調査区外に延び、東側は土塁まで延びている。埋土は3層に分層でき、1層は暗褐色土である。3層下部に粗粒砂の堆積が認められることから水が流れていた状況が推測される。また、南北には東西方向に走る石積みが2段ずつ積まれており、何れも溝側に面を作る。断面形状はすり鉢状である。

[出土遺物] 出土遺物はない。

[時期] 近・現代

S X 1（第11・15・33、図版11）

[位置・重複] 3区に位置する。

[形状・規模] 平面形は長楕円形である。

[検出状況・埋土] 周囲を石で囲んでおり、底は石を敷き詰めてコンクリートで固めている。

[出土遺物] 出土遺物はない。

[時期] 近・現代

S K 1（第11・12・34・35・62、図版9・13）

[位置・重複] 1－1区に位置している。重複する遺構はない。

[形状・規模] 平面形は不整形で、長軸は3.2m、短軸は2.7m、深さは0.8mを測る。断面形状はすり鉢状である。

[検出状況・埋土] II層褐色土で検出した。上面に配石が検出された。中央の石の周りを大小の石が囲っている。埋土は5層に分層できる。計測位置によって埋土の堆積土は異なるが、基本的には1層暗褐色土で、2層以下は地山の黄褐色土や礫の含有量によって分層できる。

[出土遺物] 38～40はかわらけ、41は砥石である。

[時期] 出土した遺物から中世後半に属すると思われる。

S K 2（第11・12・36）

[位置・重複] 1－1区に位置している。S K 3を切っている。

[形状・規模] 平面形は楕円形で、規模は長軸1.9m、短軸1.7m、深さは0.1mを測る。断面形状は方形である。

[検出状況・埋土] 西側は調査区外に延びている。II層褐色土で検出した。埋土は褐色土で地山の黄褐色ブロックを含む。

[出土遺物] 出土遺物はない。

[時期] 時期は不明である。

S K 3（第11・12・36、図版9）

[位置・重複] 1－1区に位置している。S K 2に切られている。

[形状・規模] 平面形は長楕円形で、規模は長軸1.2m、短軸0.7m、深さは0.4mを測る。断面形状は方形である。

[検出状況・埋土] 西側は調査区外に延びている。埋土は3層に分層でき、1層はにぶい黄褐色土、2層・3層は暗褐色土だが2層に比べ3層の方が白色粒の含有量が少ない。

[出土遺物] 出土遺物はない。

[時期] 時期は不明である。

S K 4 (第 11・12・37・38、図版 9)

[位置・重複] 1-1 区に位置している。

[形状・規模] 平面形は不整形を呈している。検出された規模は長軸 1.6m、短軸 1.5 m、深さは 0.4m を測る。

[検出状況・埋土] にぶい黄褐色土で検出した。1 層は褐色土である。

[出土遺物] 出土遺物はない。

[時期] 時期は不明である。

S K 5 (第 11・12・37～39、図版 9・14)

[形状・規模] 平面形は竹根や樹木の攪乱により不明である。

[検出状況・埋土] 東側は調査区外に延びている。表土直下で礫層が検出され礫間に堆積したにぶい褐色土を埋土の 1 層と判断した。

[出土遺物] 42 は土師器の坏である。43 は土器の内耳鍋である。底面は平らで器厚 0.5cm と薄い。外面に煤が付着する。44 はかわらけである。

[時期] 出土遺物から中世と考えたい。

S K 6 (第 11・12・40、図版 9)

[位置・重複] 1-1 区に位置している。S K 15 を切っている。

[形状・規模] 平面形は不整形を呈している。規模は径 0.5m、深さは 0.2m を測る。断面形状はすり鉢状である。

[検出状況・埋土] II 層褐色土で検出した。埋土は 3 層に分層でき、1 層は暗褐色土、2 層は褐色土で明黄褐色土を 10% 含む。3 層は褐色土で 2 層より多く地山の明黄褐色土を含む。

[出土遺物] 出土遺物はない。

[時期] 時期は不明である。

S K 7 (第 11・12・41・図版 9)

[位置・重複] 1-1 区に位置している。

[形状・規模] 平面形は長楕円形で、規模は長軸 0.9m、短軸 0.6m、深さ 0.2m を測る。断面形状は皿状である。

[検出状況・埋土] 褐色土で検出された。埋土は 2 層に分層でき、上層は暗褐色土で地山の明黄褐色土を含む。下層は明黄褐色土で暗褐色土を含む。

[出土遺物] 出土遺物はない。

[時期] 時期は不明である。

S K 8 (第 11・12・42)

[位置・重複] 1-1 区に位置している。重複する遺構は無い。

[形状・規模] 平面形は東側が切られているため不明である。検出された規模は、長軸 1.3m、短軸 0.3m、深さ 0.2m を測る。断面形状は皿状を呈している。

[検出状況・埋土] 東側は調査区外に延びている。埋土は暗褐色土で地山の明黄褐色土を含む。

[出土遺物] 出土遺物はない。

[時期] 時期は不明である。

S K 9 欠番

S K 10 (第 11・12・43)

[位置・重複] 1-1 区に位置している。重複する遺構は無い。

[形状・規模] 平面形は東側が切られているため不明である。検出された規模は、長軸 0.5m、短軸 0.3m、深さ 0.3m を測る。断面形状はすり鉢状を呈している。

[検出状況・埋土] 東側は調査区外に延びている。埋土は暗褐色土で地山の明黄褐色土を含む。

[出土遺物] 出土遺物はない。

[時期] 時期は不明である。

S K 11 欠番

S K 12 欠番

S K 13 (第 11・12・44)

[位置・重複] 1-1 区に位置している。重複する遺構は無い。

[形状・規模] 平面形は南側が調査区外に延びているため不明である。検出された規模は、長軸 1.3m、短軸 1.0m、深さ 0.1m を測る。断面形状は皿状を呈している。

[検出状況・埋土] 褐色土で検出された。埋土は暗褐色土である。

[出土遺物] 45 は銭で「寛永通宝」か。

[時期] 時期は不明である。

S K 14 (第 11・12・45)

[位置・重複] 1-1 区に位置している。重複する遺構は無い。

[形状・規模] 平面形は不整形である。検出された規模は、長軸 0.6m、短軸 0.5m、深さ 0.2m を測る。断面形状はすり鉢状を呈している。

[検出状況・埋土] 褐色土で検出された。埋土は 3 層に分層でき、1 層はにぶい黄褐色土、2 層は暗褐色土、3 層は黄褐色土である。

[出土遺物] 46 は銭だが摩耗して文字は判読できない。

[時期] 時期は不明である。

S K 15 (第 11・12・40)

[位置・重複] 1-1 区に位置している。S K 6 に切られている。

[形状・規模] 平面形は北側が切られているため不明である。検出された規模は長軸 0.6m、短軸 0.5m、深さ 0.2m を測る。断面形状は皿状である。

[検出状況・埋土] 褐色土で検出された。埋土は 1 層に分層でき、上層は暗褐色土である。

[出土遺物] 出土遺物はない。

[時期] 時期は不明である。

S K 16 欠番

S K 17 (第 11・13・46)

[位置・重複] 1-1 区に位置している。重複する遺構は無い。

[形状・規模] 平面形は楕円形である。規模は、長軸 0.9m、短軸 0.7m、深さは 0.2m を測る。断面形状は皿状を呈している。

[検出状況・埋土] 西側は調査区外に延びている。埋土は褐色細粒砂である。

[出土遺物] 出土遺物はない。

[時期] 時期は不明である。

S K 18 (第 11・13・47、図版 10)

[位置・重複] 1-1 区に位置している。重複する遺構は無い。

[形状・規模] 平面形は楕円形で、規模は長軸 0.9m、短軸 0.7m、深さ 0.2m を測る。断面形状はすり鉢状を呈している。

[検出状況・埋土] 褐色土で検出された。埋土は 5 層に分層でき、1 層は暗褐色土である。2 層は褐色土、3・4 層には地山の黄褐色ブロックが含まれる。5 層はにぶい黄褐色土である。

[出土遺物] 出土遺物はない。

[時期] 時期は不明である。

S K 19 (第 11・13・48、図版 10)

[位置・重複] 1－1 区に位置している。重複する遺構はない。

[形状・規模] 平面形は楕円形で、規模は長軸 1.2m、短軸 0.9m、深さは 0.4m を測る。断面形状はすり鉢状を呈している。

[検出状況・埋土] 埋土は褐色細粒砂である。

[出土遺物] 出土遺物はない。

[時期] 時期は不明である。

S K 20 (集石土坑) (第 11・13・49、図版 10)

[位置・重複] 1－1 区に位置している。重複する遺構は無い。

[形状・規模] 平面形は長楕円形で、規模は長軸 1.4m、短軸 0.8m、深さは 0.7m を測る。断面形状はすり鉢状を呈している。

[検出状況・埋土] 土坑上面で集石が検出された。埋土は褐色土である。

[出土遺物] 出土遺物はない。

[時期] 時期は不明である。

S K 21 (集石土坑) (第 11・13・50)

[位置・重複] 1－1 区に位置している。重複する遺構は無い。

[形状・規模] 平面形は楕円形で、規模は長軸 1.8m、短軸 0.7m、深さは 0.2m を測る。断面形状は皿状を呈している。

[検出状況・埋土] 土坑の東側で集石が検出された。埋土は褐色土である。

[出土遺物] 出土遺物はない。

[時期] 時期は不明である。

S K 22 (集石土坑) (第 11・13・51、図版 10)

[位置・重複] 1－1 区に位置している。重複する遺構は無い。

[形状・規模] 平面形は不整形で、規模は長軸 1.2m、短軸 0.8m、深さは 0.2m を測る。断面形状は皿状を呈している。

[検出状況・埋土] 全面に集石が検出された。埋土は褐色土である。

[出土遺物] 出土遺物はない。

[時期] 時期は不明である。

S K 23 (第 11・13・52、図版 10)

[位置・重複] 1－1 区に位置している。重複する遺構は無い。

[形状・規模] 平面形は不整形で、規模は長軸 1.0m、短軸 0.9m、深さは 0.4m を測る。断面形状はすり鉢状を呈している。

[検出状況・埋土] 埋土は褐色細粒砂である。

[出土遺物] 出土遺物はない。

[時期] 時期は不明である。

S K 24 (第 11・13・53)

[位置・重複] 1－1 区に位置している。重複する遺構は無い。

[形状・規模] 平面形は不整形で、規模は長軸 0.6m、短軸 0.6m、深さ 0.1m を測る。断面形状はすり鉢状を呈している。

[検出状況・埋土] 埋土は褐色細粒砂である。

[出土遺物] 出土遺物はない。

[時期] 時期は不明である。

S K 25 (集石土坑) (第 11・13・54、図版 11)

[位置・重複] 1-1 区に位置している。重複する遺構は無い。

[形状・規模] 平面形は不整形、規模は長軸 0.9m、短軸 0.8m、深さは 0.2m を測る。断面形状はすり鉢状を呈している。

[検出状況・埋土] 埋土は褐色細粒砂である。

[出土遺物] 出土遺物はない。

[時期] 時期は不明である。

S K 26 (集石土坑) (第 11・13・55、図版 11)

[位置・重複] 1-1 区に位置している。重複する遺構は無い。

[形状・規模] 平面形は長楕円形で、規模は長軸 1.0m、短軸 0.8m、深さは 0.2m を測る。断面形状はすり鉢状を呈している。

[検出状況・埋土] 土坑全面に集石が検出された。埋土は褐色土である。

[出土遺物] 出土遺物はない。

[時期] 時期は不明である。

S K 27～S K 30 欠番

S K 31 (集石土坑) (第 11・14・56、図版 11)

[位置・重複] 2 区に位置している。重複する遺構は無い。

[形状・規模] 平面形は不整形で、規模は長軸 2.3m、短軸 1.3m、深さは 0.2m を測る。断面形状は皿状を呈している。

[検出状況・埋土] 土坑全面に集石が検出された。

[出土遺物] 出土遺物はない。

[時期] 時期は不明である。

S P 1 (第 11・12・57、図版 11)

[位置・重複] 1-1 区に位置している。重複する遺構は無い。

[形状・規模] 平面形は楕円形である。規模は長軸 0.4m、短軸 0.3m、深さは 0.3m を測る。断面形状はすり鉢状を呈している。

[検出状況・埋土] 褐色土で検出された。埋土は 3 層に分層でき、1 層はにぶい黄褐色土、2 層は暗褐色土、3 層は褐色土である。

[出土遺物] 出土遺物はない。

[時期] 時期は不明である。

S P 2 (第 11・12・58)

[位置・重複] 1-1 区に位置している。重複する遺構は無い。

[形状・規模] 平面形は楕円形である。規模は長軸 0.5m、短軸 0.4m、深さは 0.4m を測る。断面形状はすり鉢状を呈している。

[検出状況・埋土] 褐色土で検出された。埋土は 4 層に分層でき、1 層はにぶい黄褐色土、2 層は褐色土、3 層は暗褐色土、4 層は明黄褐色土である。

[出土遺物] 出土遺物はない。

[時期] 時期は不明である。

S P 3 (第 11・12・59)

[位置・重複] 1-1 区に位置している。重複する遺構は無い。

[形状・規模] 平面形は楕円形である。規模は長軸 0.5m、短軸 0.4m、深さは 0.3m を測る。断面形状は

すり鉢状を呈している。

[検出状況・埋土] 褐色土で検出された。埋土は4層に分層でき、1層はにぶい黄褐色土、2・3層は暗褐色土で2層目には黄褐色土が20%含まれる。4層は褐色土である。

[出土遺物] 出土遺物はない。

[時期] 時期は不明である。

遺構外出土遺物（第62～66図、図版14・15）

遺構外から縄文土器、奈良・平安時代の土師器・須恵器・羽釜、中世の土師質土器の皿・土器の内耳鍋・鉢・すり鉢、近世の陶磁器などが出土した。

[1-1区] 47はかわらけ、48は陶器の皿、49は土器の内耳鍋である。47はロクロナデ調整で、底部は回転糸切りし、外周をヘラケズりする。50は石製品で石板である。

[1-2区] 51は灰釉陶器の段皿である。高台の断面形は三角形形状である。ロクロ調整が施され、回転糸切痕が残る。口縁端部および内面に施釉される。52は陶器の碗の底部で内面に釉薬がかかる。瀬戸か。53は「聖宋元宝」の篆書の北宋銭（初鑄1101年）である。

[2区] 54は土器の鉢である。内面は横位のヘラナデ調整を施す。55・56は須恵器の甕である。55は体部外面にタタキ調整を施す。内面に自然釉が残る。56は体部外面をタタキ調整し、内面に当て具痕を残す。57は須恵器の甕の体部で外面に自然釉とタタキ目。内面は当て具痕が残る。58～60は土師器の坏である。いずれもロクロナデ調整で、底部に回転糸切痕が残る。61は瓦質土器のすり鉢で4条1単位の播り目が認められる。62は染付磁器の碗の底部である。

[4区] 63は土師器の羽釜で、鏝は端部がやや下方に湾曲する。内面は横位のハケメ調整が施される。64は瓦質土器の鉢である。ロクロ調整を施す。

[5-1区] 65は土師器の高台坏の底部で、見込部に放射状の暗文、底部は回転ヘラケズリ調整を施す。外面の体部下半は丁寧なケズリ調整が施される。高台の断面は逆台形状に削り出されている。

[5-2区] 66は土師器の甕で内・外面にヘラナデし、底部に木葉痕が残る。67・68は土師器の坏である。67は外面の体部下半にヘラケズリ調整を施す。内面は放射状暗文を施す。底部は回転糸切り後ナデ調整を施す。68の底部は回転糸切りし、ヘラケズリ調整を施す。69は土師器の甕で、口縁部が大きく外反し、端部に面を作る。70は土師器の甕で、内外面はハケ調整し、底部はヘラケズリを施す。71・72は土師器の蓋である。71は内面に放射状の暗文を施す。72は外面に放射状の暗文が施される。外面に墨書と推測される痕跡が認められるが判読は出来ない。73は須恵器の甕の体部で外面にタタキ目、内面に当て具痕が認められる。74は染付磁器の皿、75は緑釉陶器の碗の底部である。

[6-1区] 76～83は土師器の坏である。76の口縁端部は肥厚する。77は高台坏である。内面に放射状の暗文を施し、外面は体部下位にヘラケズリ調整を施す。底部に低い削り出し高台を作る。78は内面に放射状の暗文。外面の体部下半にヘラケズリ調整を施す。79は内面に放射状の暗文。80の口縁端部は肥厚する。見込み部と体部の境にヘラミガキ調整を施す。81はロクロ調整後、底部にヘラケズリ調整、体部内面に放射状の暗文を施す。82は外面の体部下半にヘラケズリ調整を施す。83はロクロ調整を施し、底部は回転糸切りである。84～86は土師器の甕である。84の口縁部は大きく外反して開く。外面は縦位のハケメ調整、内面は横位のハケメ調整を施す。指頭痕が残る。体部下半に煤が付着する。85の外面は縦位のハケメ調整、内面は横位のハケメ調整を施す。86は外面の体部下半にヘラケズリ調整、底部は木葉痕。外周にヘラケズリ調整を施す。87～89は須恵器の蓋でロクロ調整を施す。88の外面はヘラケズリ調整、内面の口縁部との接合部にかえり状の沈線。89は口縁端部にかえりを作る。8世紀末～9世紀か。90は須恵器の蓋の体部でロクロ調整が施される。91は土師器の甕の底部で器壁は薄い。外面は縦位のハケメ調整、内面は横位のハケメ調整を施す。92は須恵器の甕の体部で外面はタタキ、内面に当具

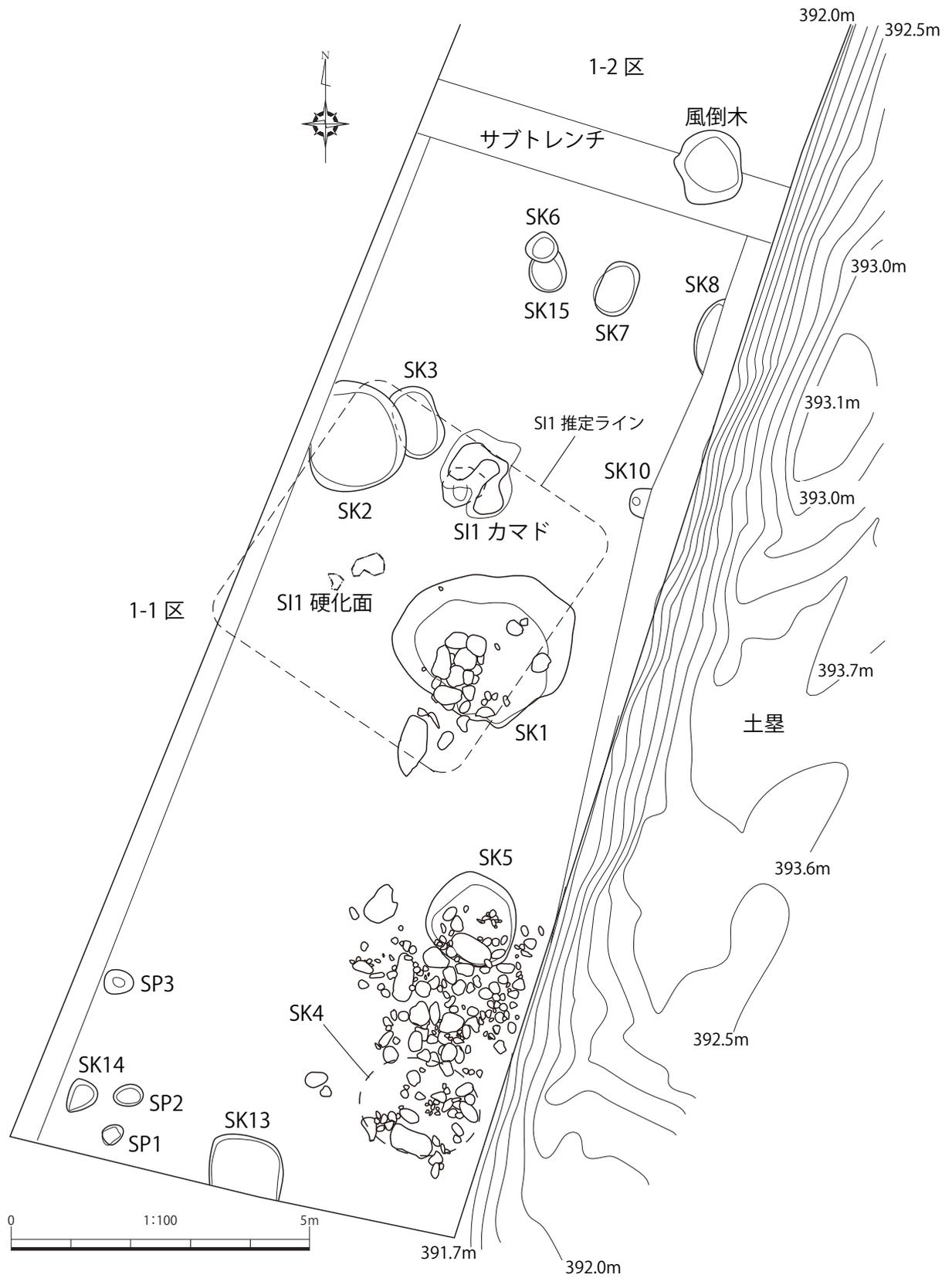
痕（青海波状）が残る。93は陶器の甕でロクロナデ調整が施される。底部はケズリ調整を施す。94は灰釉陶器の壺で内・外面施釉を施す。95は土師器の小形坏である。96は瓦質土器のすり鉢で内面にすり目が残る。97・98は染付碗である。

[6-2区] 99は土師器の鉢で、口縁端部に平坦面を作る。外面は縦位のハケメ調整、内面は横位のハケメ調整を施す。100・101は土師器の坏で、底部は回転糸切りである。100は底部に煤が付着している。102は土師器の壺か。103は土師器の羽釜の口縁部である。鏝部は端部がやや下方に下がる。内面は横位のハケメ調整を施す。104は土器の鍋の口縁部である。指頭痕が残る。105は土師器の羽釜の鏝部である。鏝の長さは約2.5cmである。106は土器の甕の口縁部でロクロナデ調整を施す。体部内面はヘラケズリにより面を作る。外面は黒化している。107は陶器の甕の体部で外面はタタキ調整、内面は黒色化している。108は土器の火消壺の蓋である。109～111は染付磁器で109は鉢、110は碗、111は皿である。112は石版で表面に沈線、擦痕が認められる。

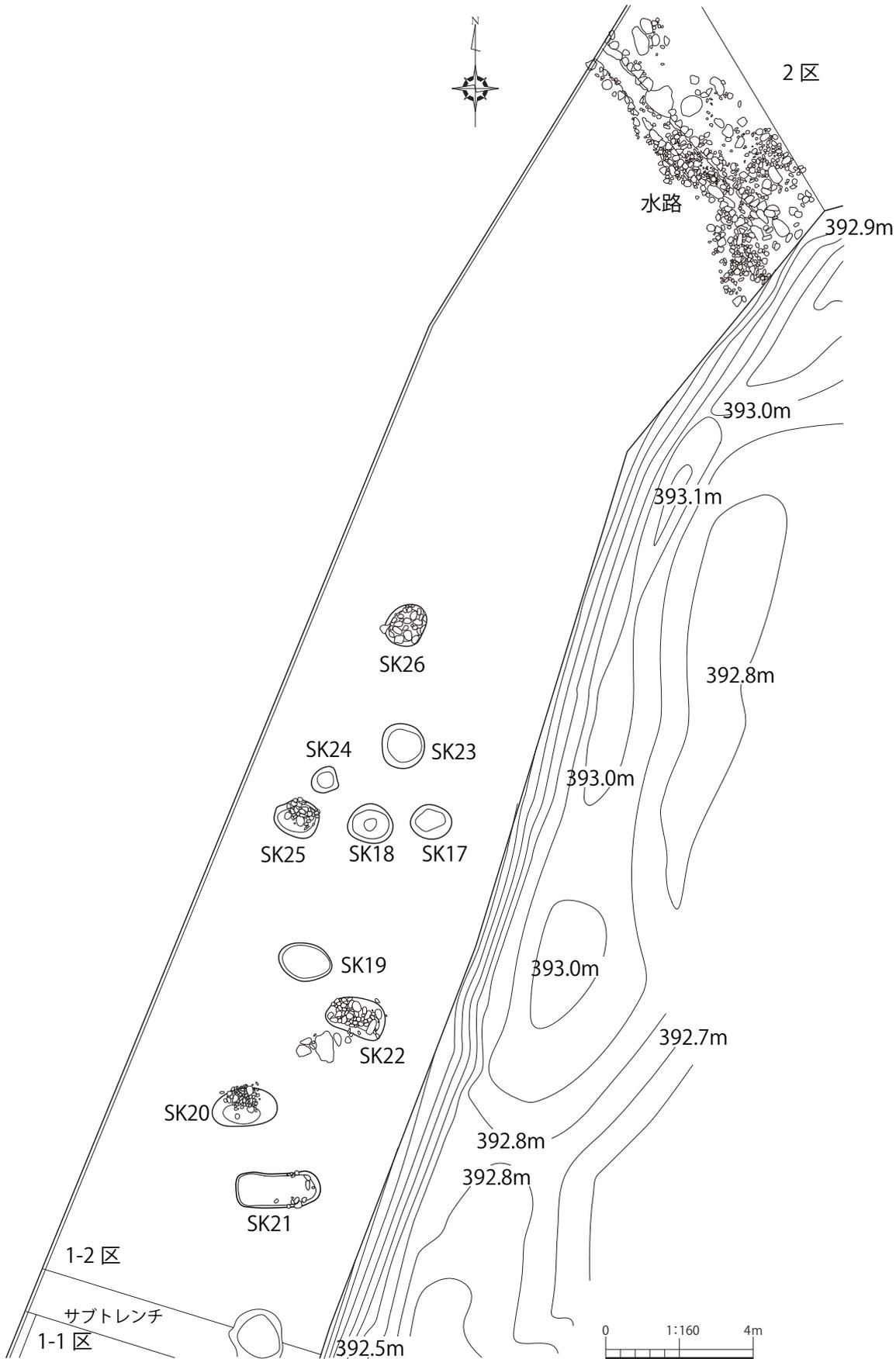
[縄文土器] 113～121は深鉢形土器の破片である。

113は1-1区で出土した。深鉢の口縁部で、口縁端部は外に折り返す。体部は口縁部から斜位の条線を施す。114は2区で出土した。横位の沈線で地文は縄文で一部を磨り消し。五領ヶ台式。

115は5-2区の出土である。太い沈線が施される。曾利式。116～121は6-1区で出土した。116は半裁竹管による押引き。十三菩提式。6-1区から出土した117は半裁竹管による6条の横位の沈線を斜位の沈線で挟む。五領ヶ台式。118の地文は縄文で縦位の沈線を施す。縄文時代中期か。119の地文は縄文。120は「J」状の太い沈線の区画内に縦位の沈線を充填する。121は深鉢の口縁部で口縁端部にキザミ、半裁竹管による横位の押引きが施される。120・121は五領ヶ台式である。



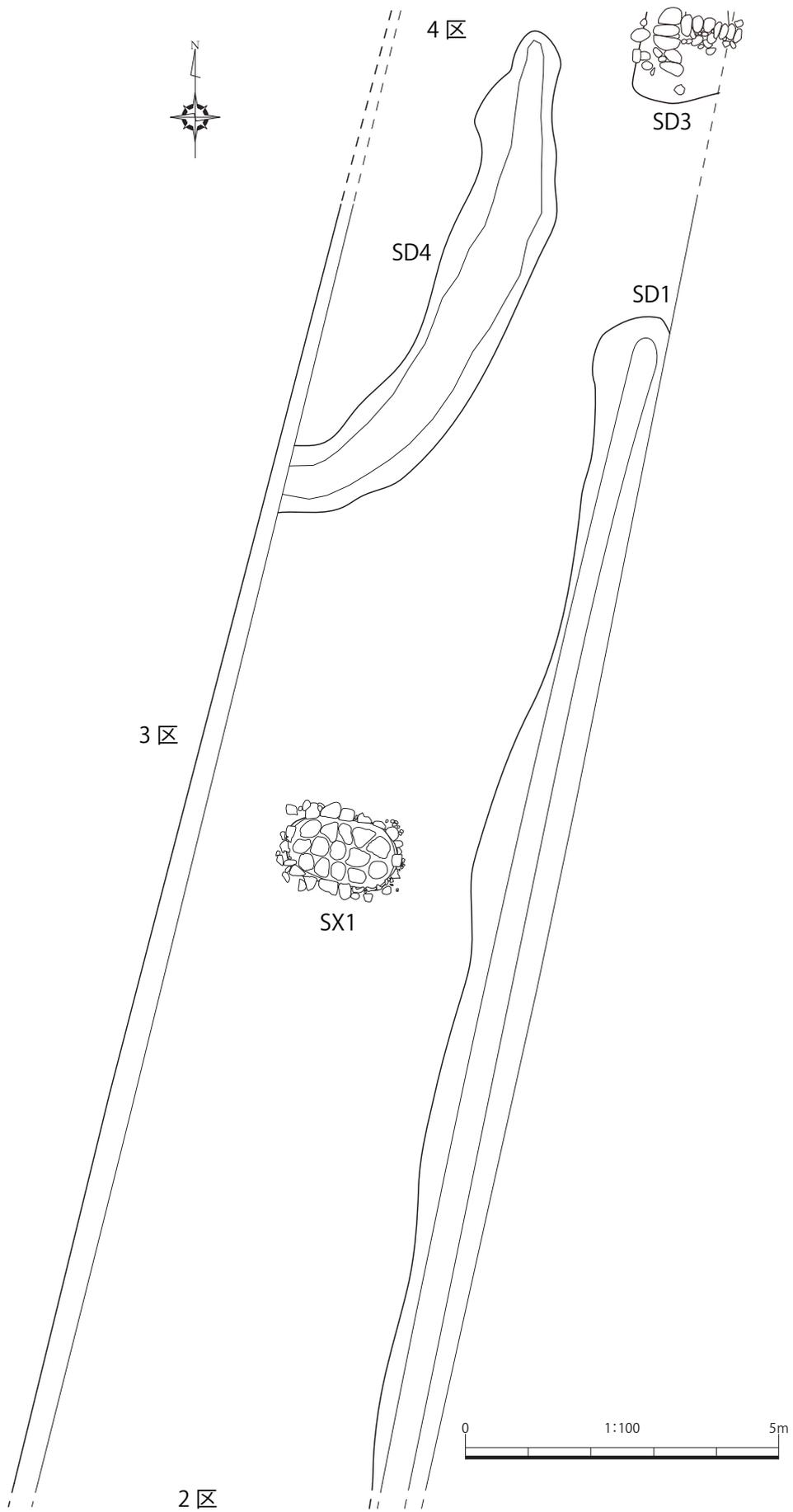
第 12 図 遺構分布図 (1-1 区)



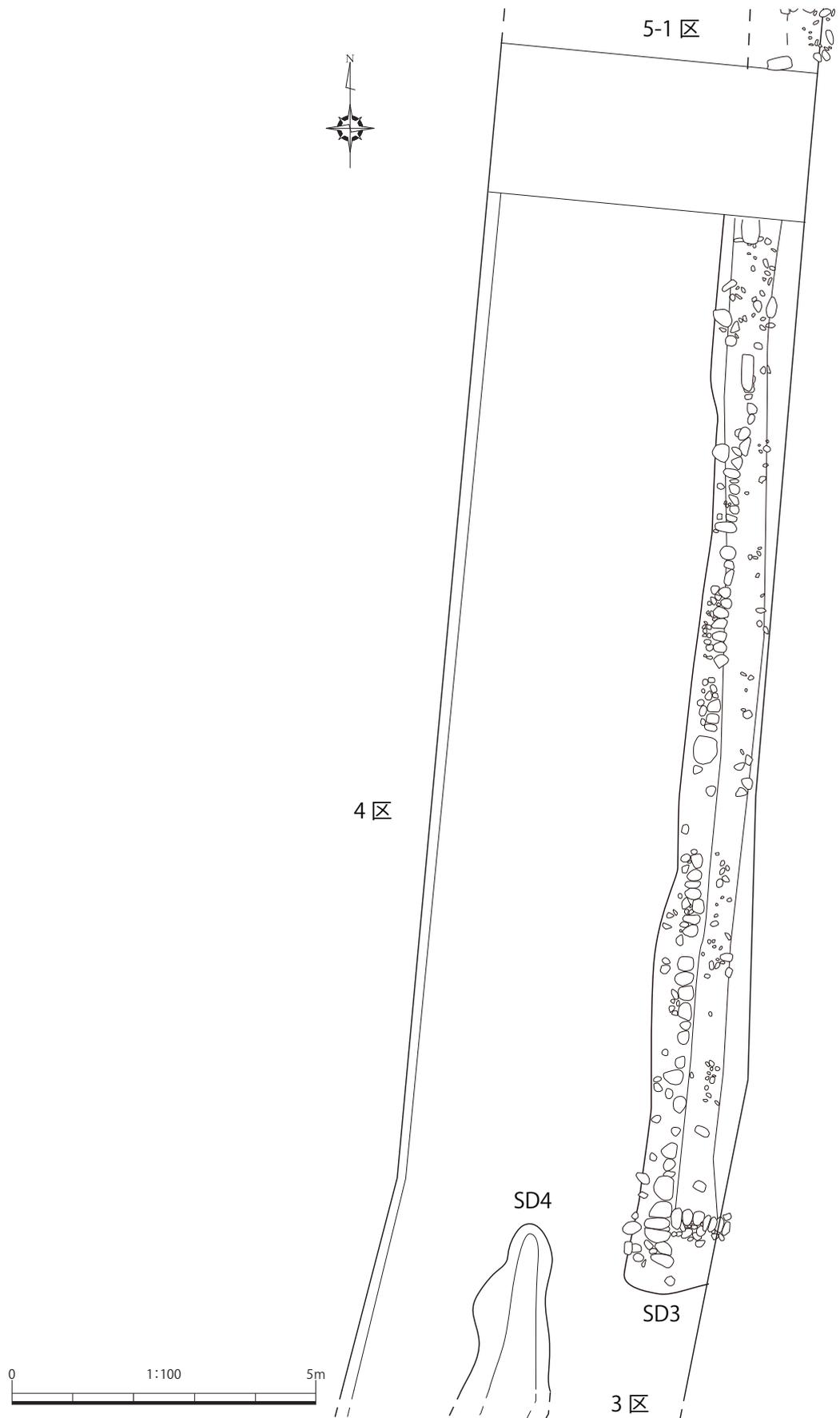
第13図 遺構分布図 (1-2区)



第 14 図 遺構分布図 (2区)



第 15 図 遺構分布図 (3区)



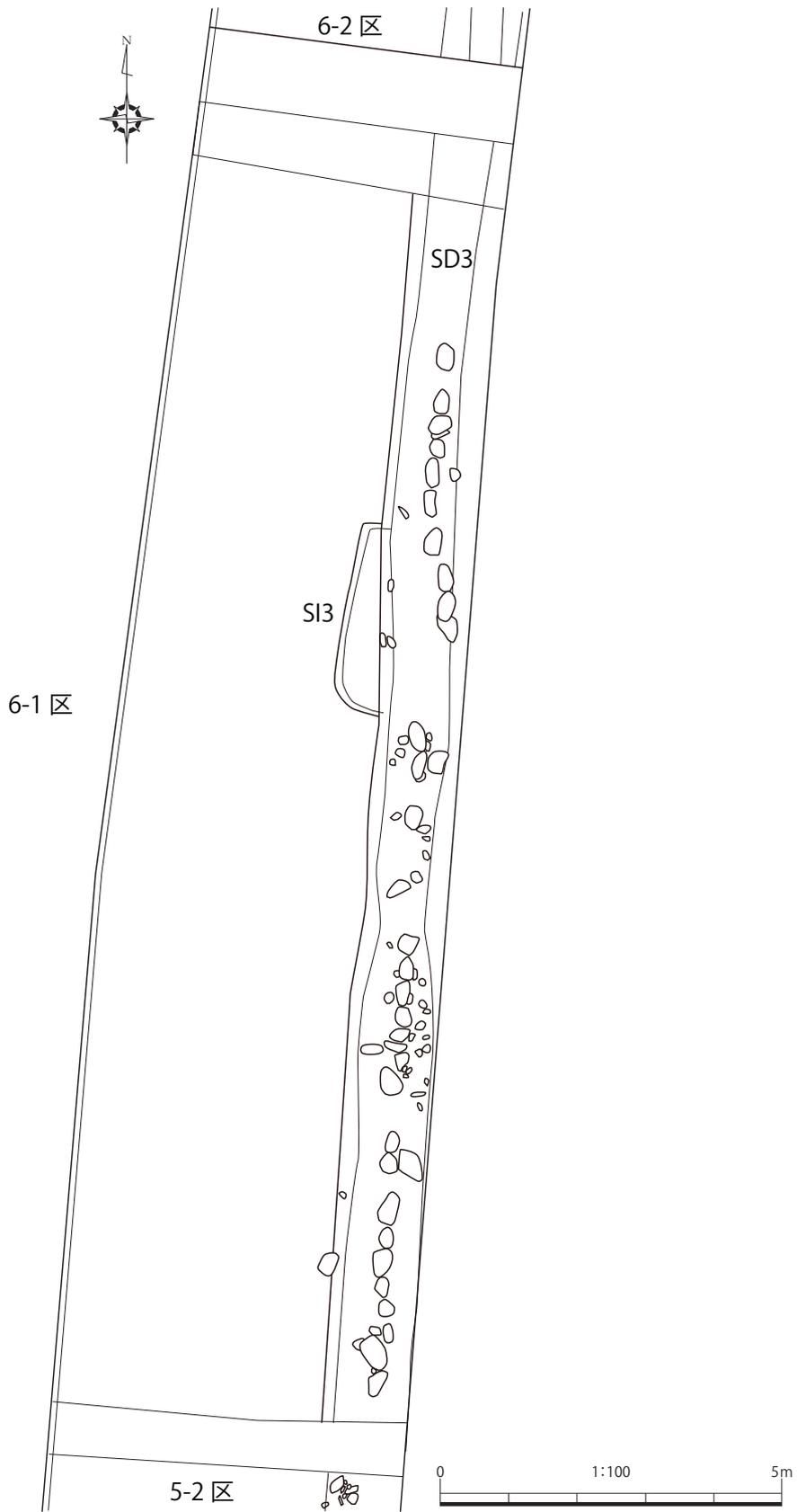
第 16 図 遺構分布図 (4区)



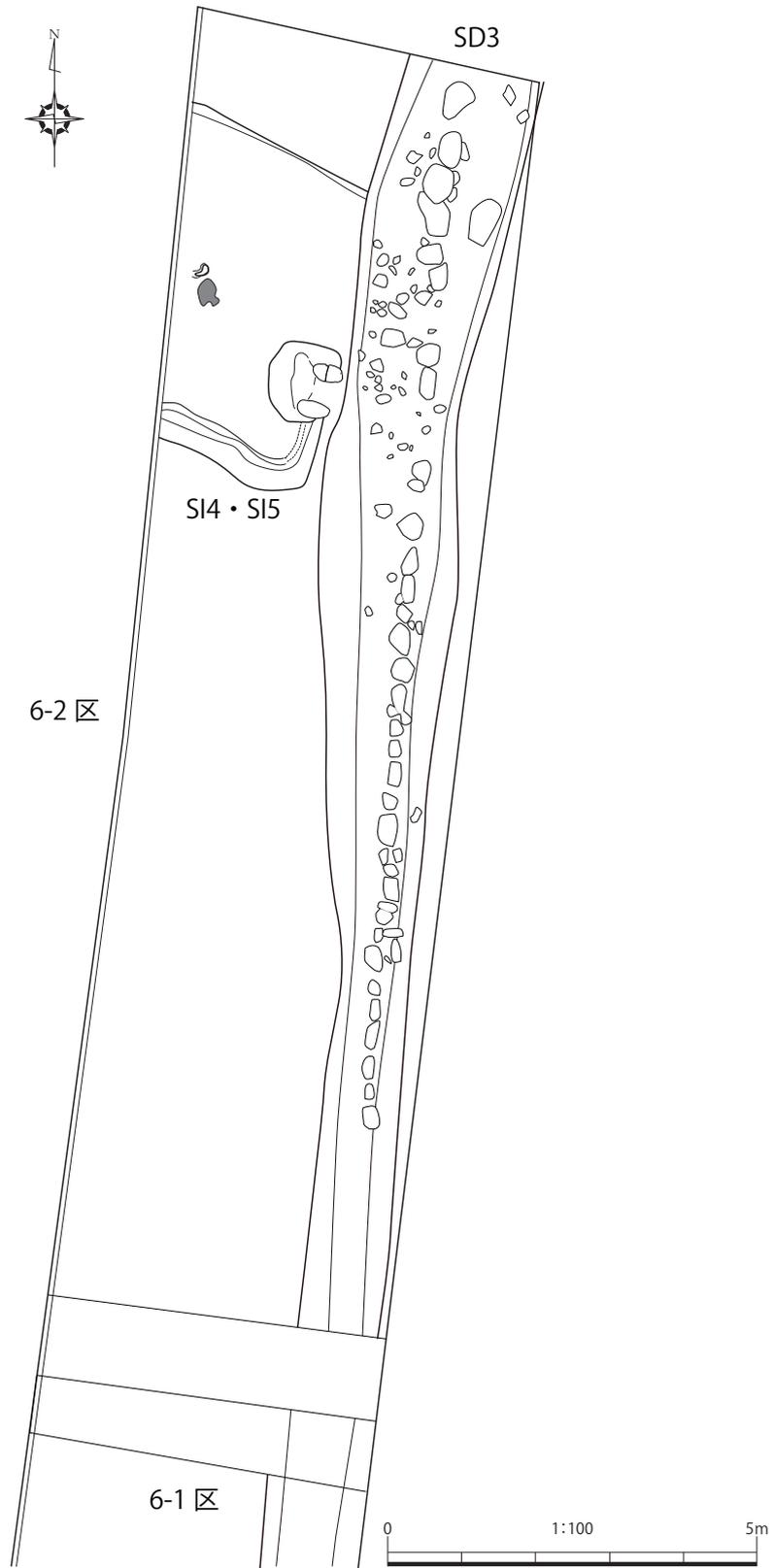
第 17 図 遺構分布図 (5-1 区)



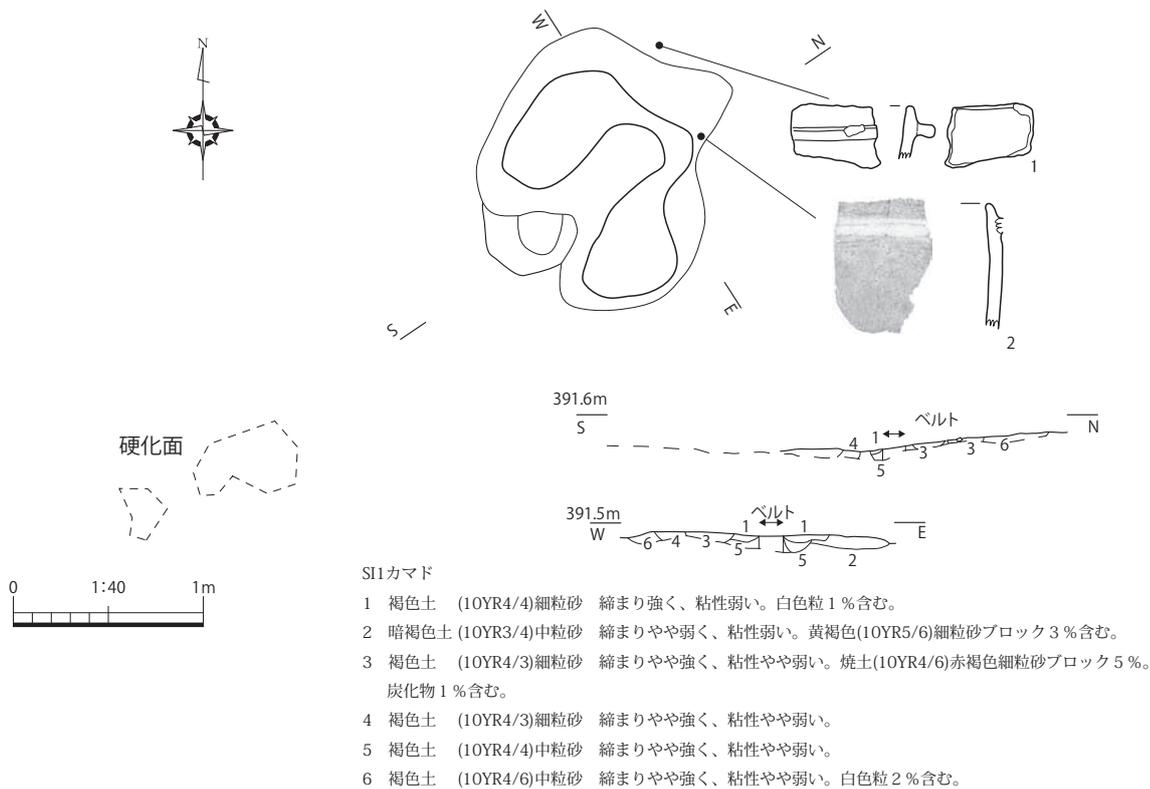
第 18 図 遺構分布図 (5-2 区)



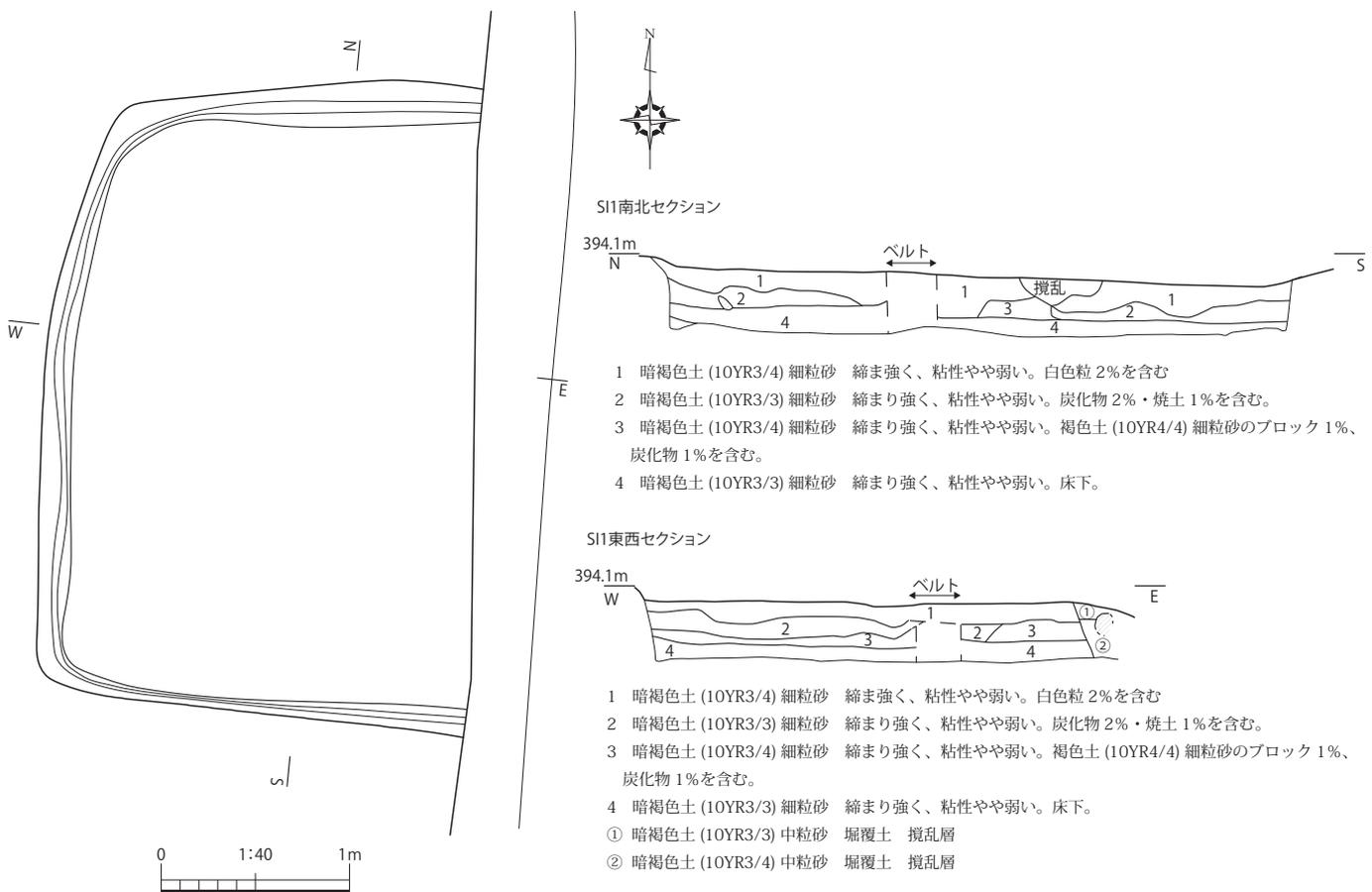
第 19 図 遺構分布図 (6-1区)



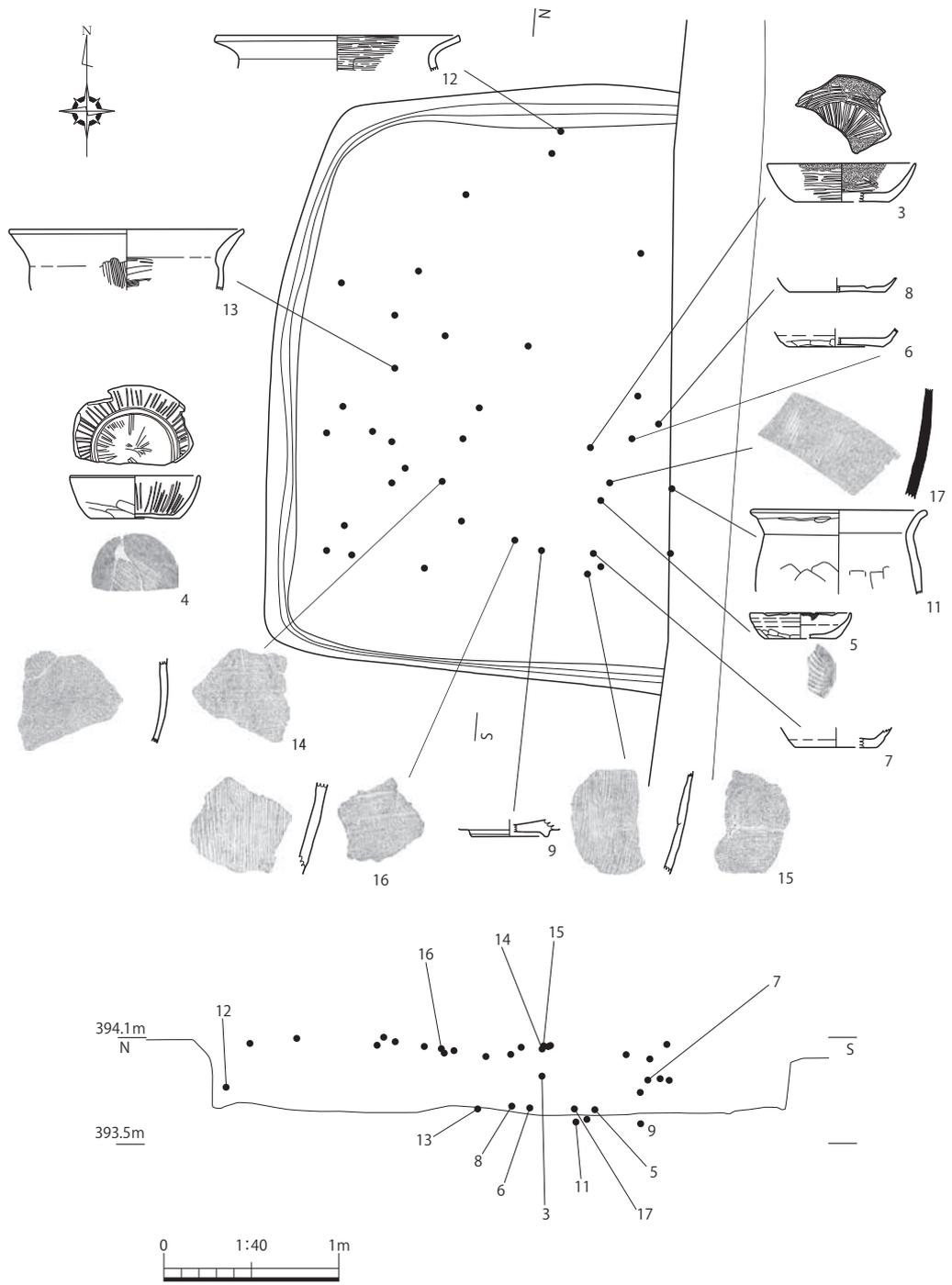
第 20 図 遺構分布図 (6-2 区)



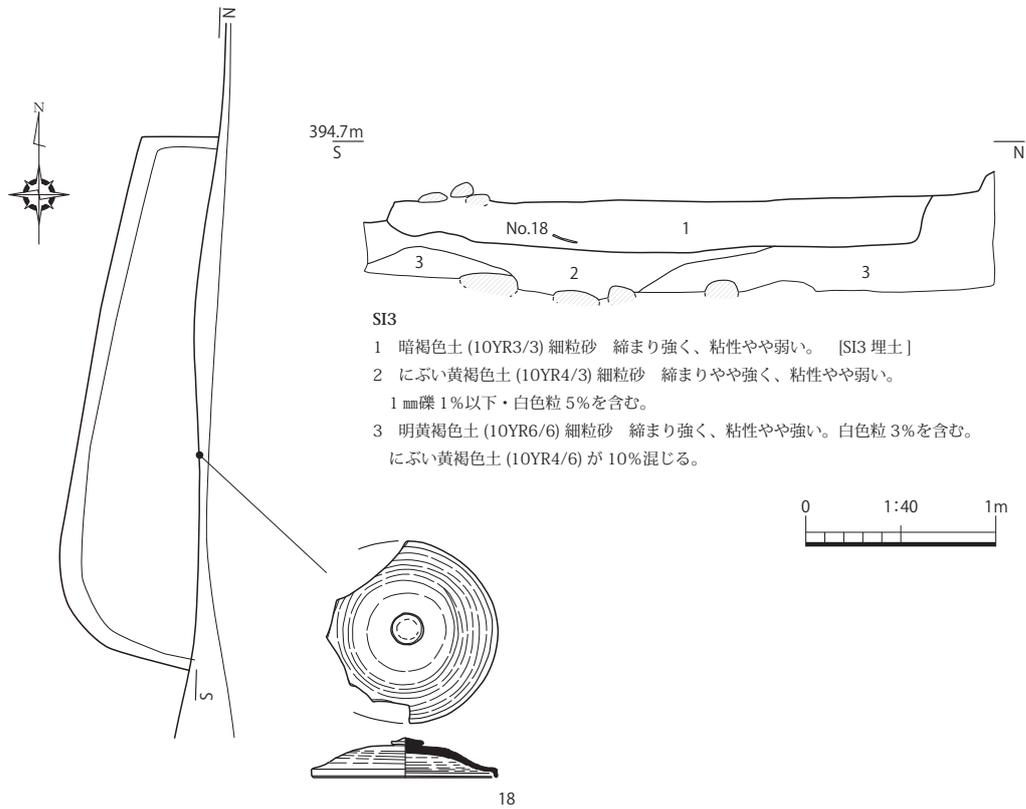
第21図 1号住居址 (S I 1)



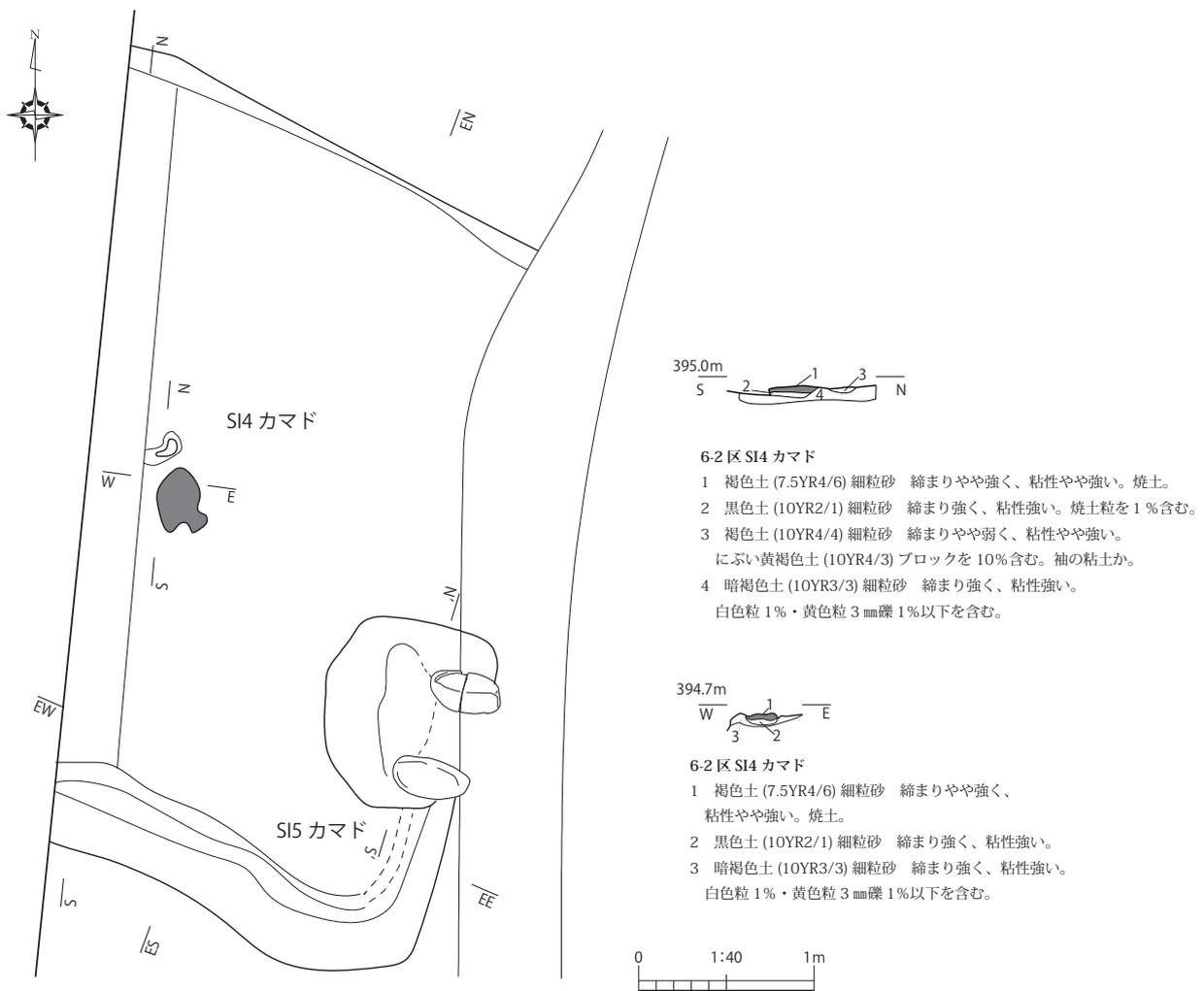
第22図 2号住居址 (S I 2)



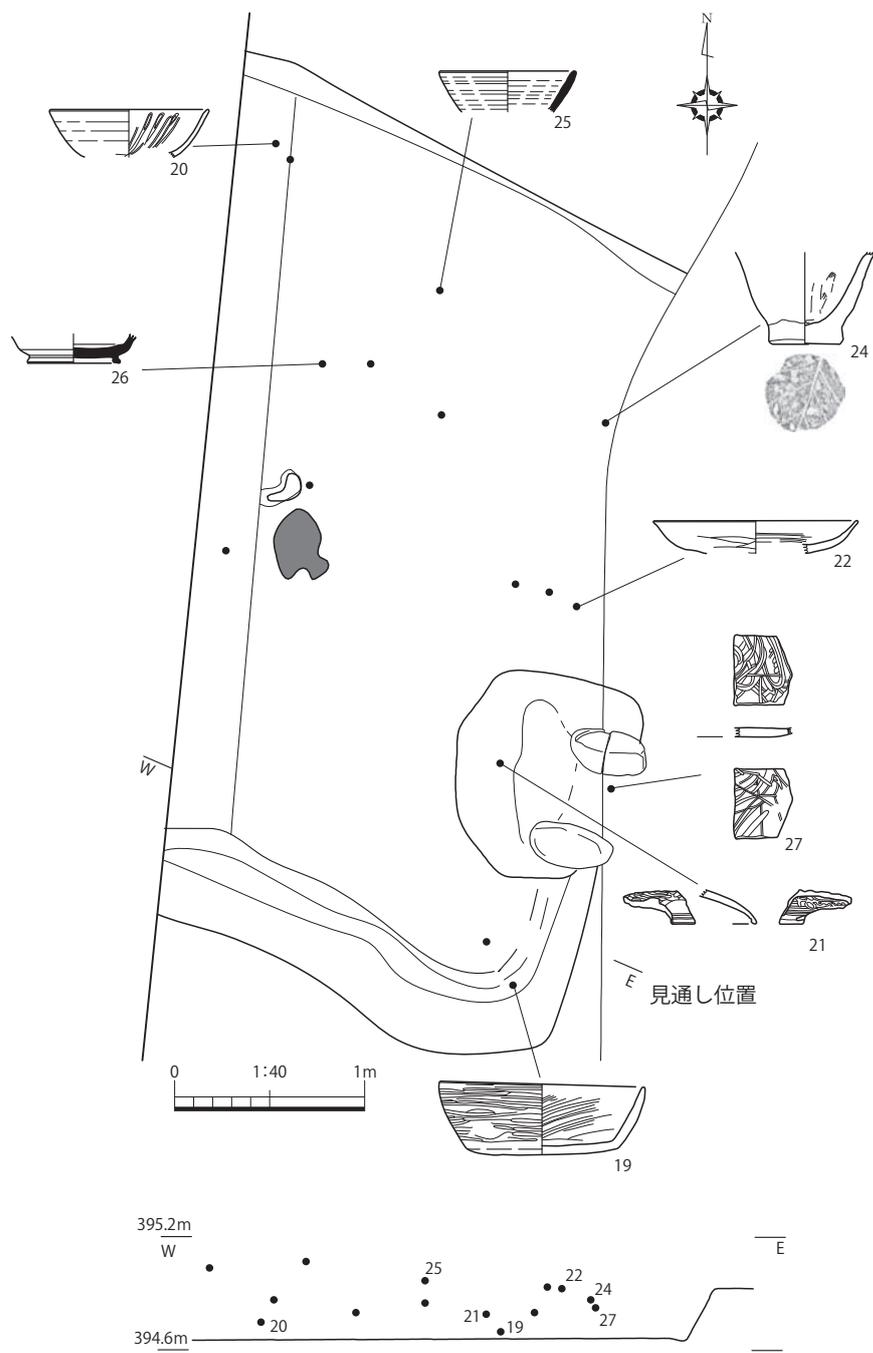
第 23 图 2号住居址遺物出土地点



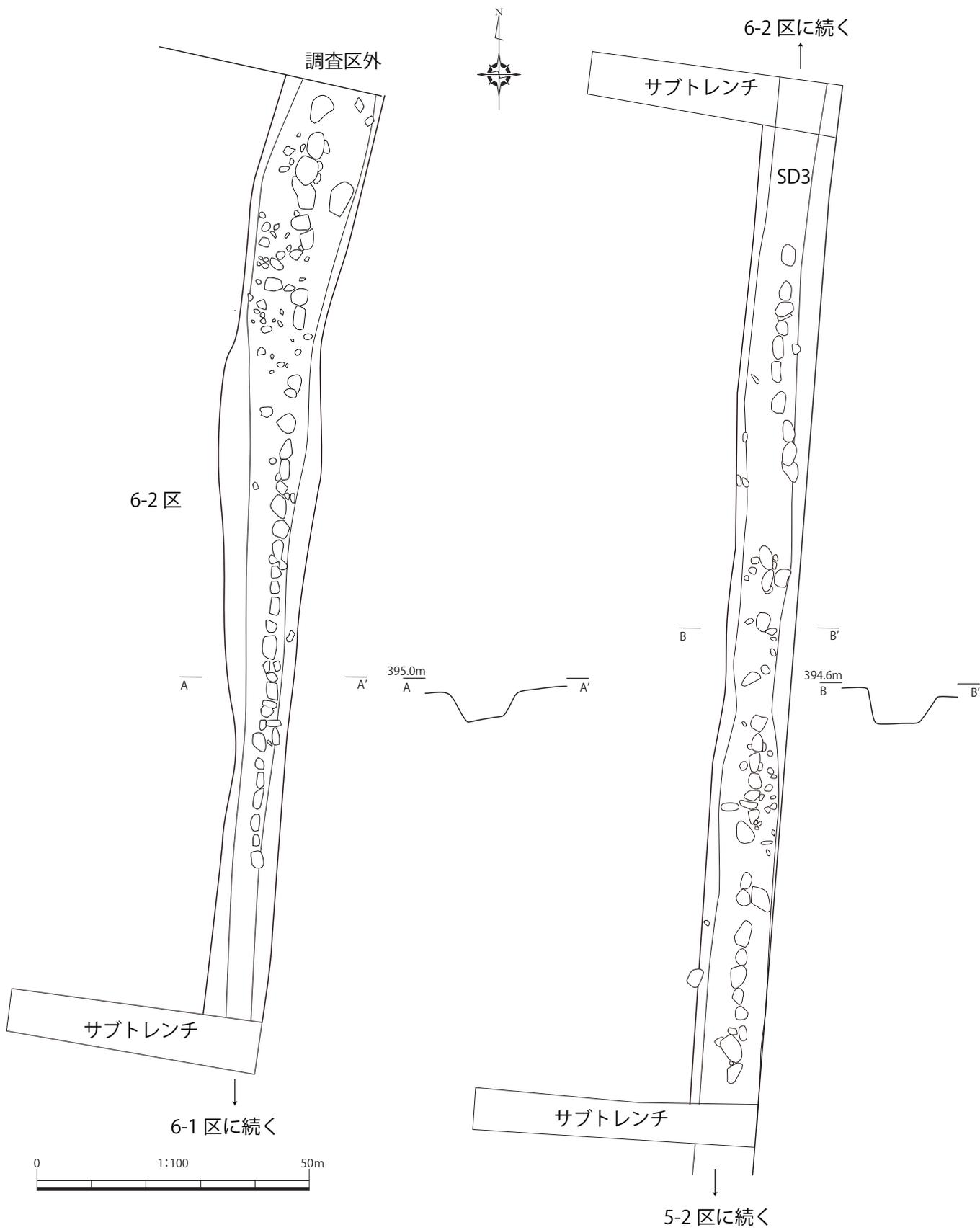
第24図 3号住居址 (S13)



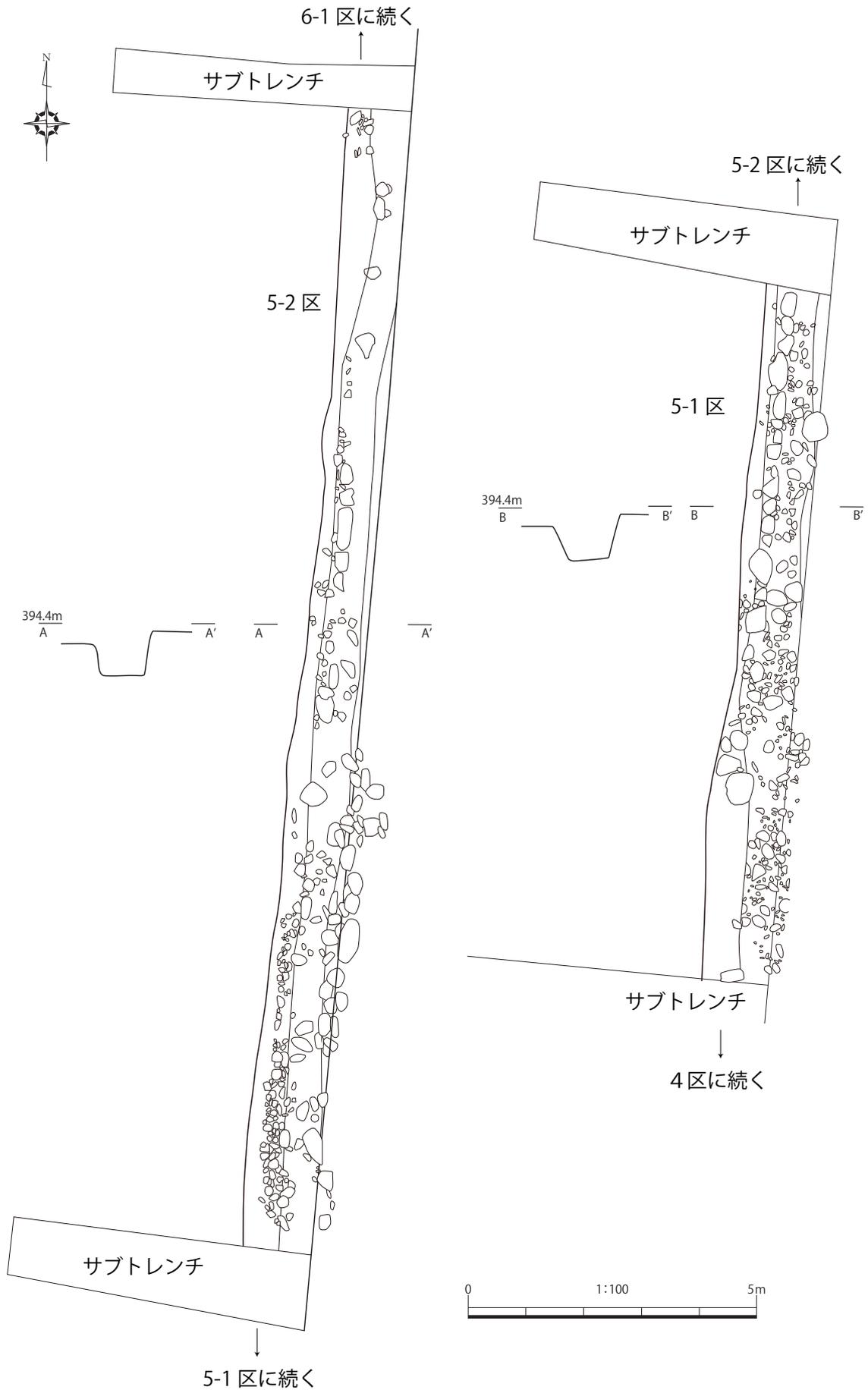
第25図 4・5号住居址 (S14・5) (1)



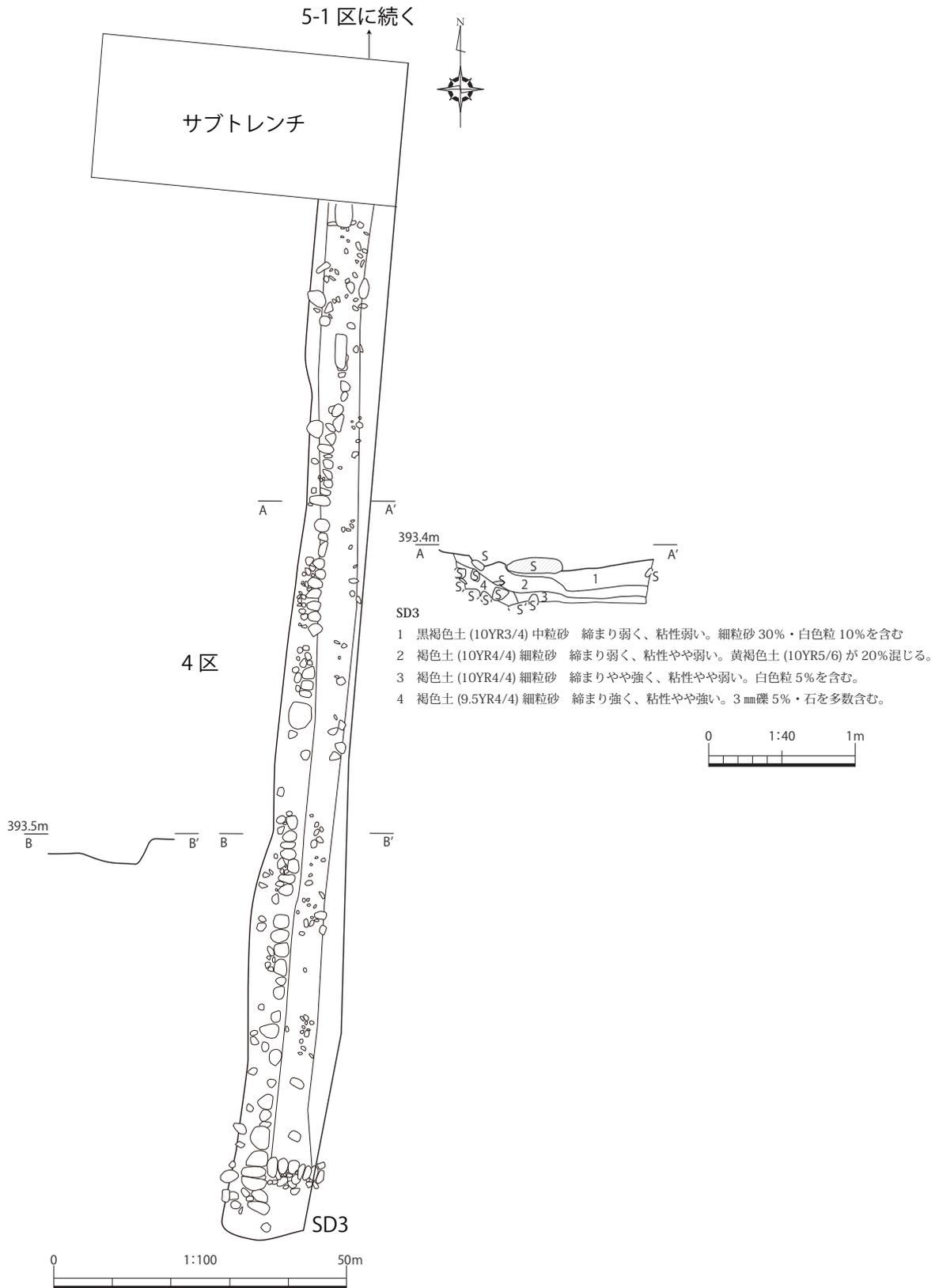
第 27 図 5号住居址遺物出土地点



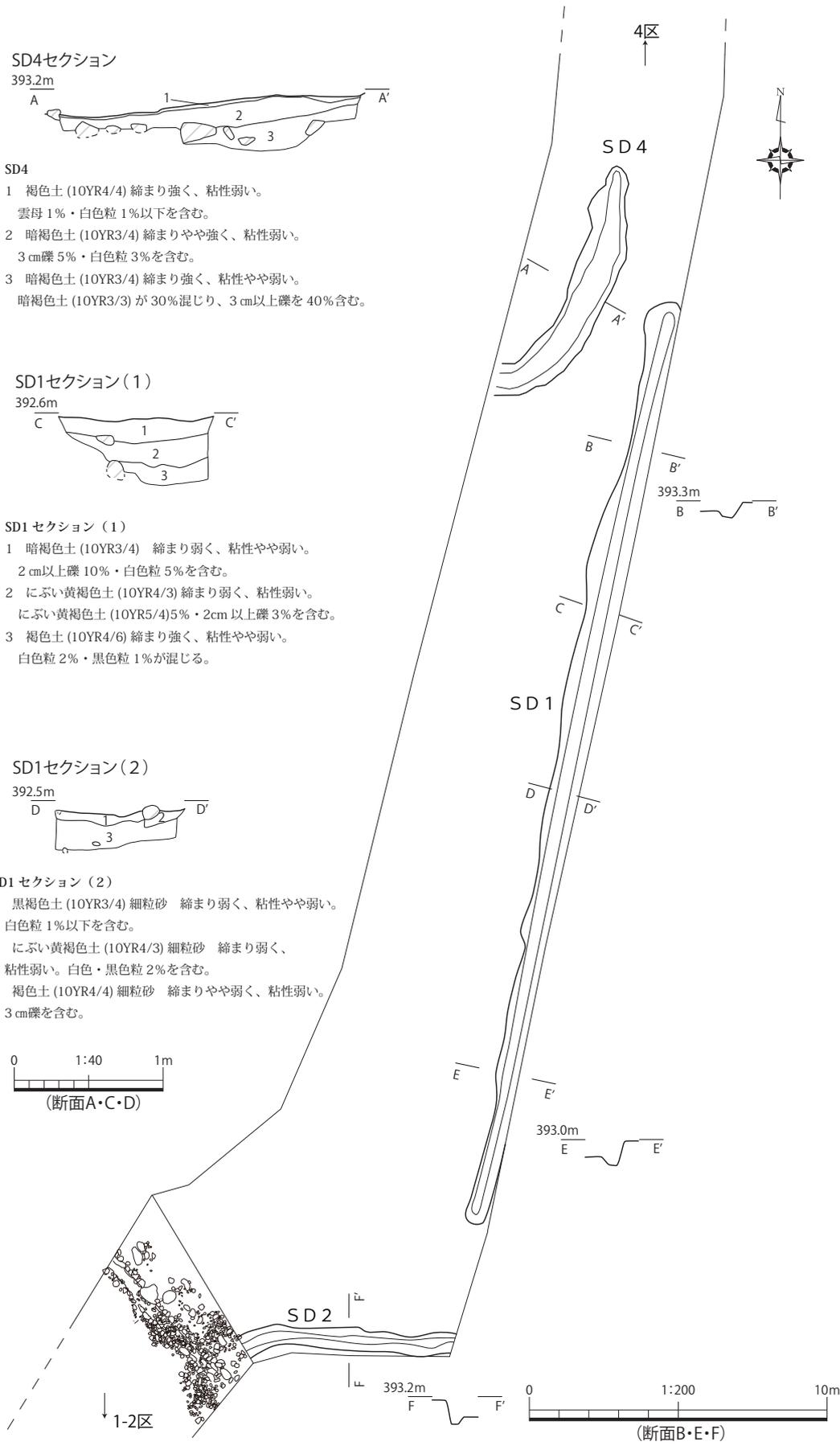
第 28 図 溝状遺構 (SD3) (1)



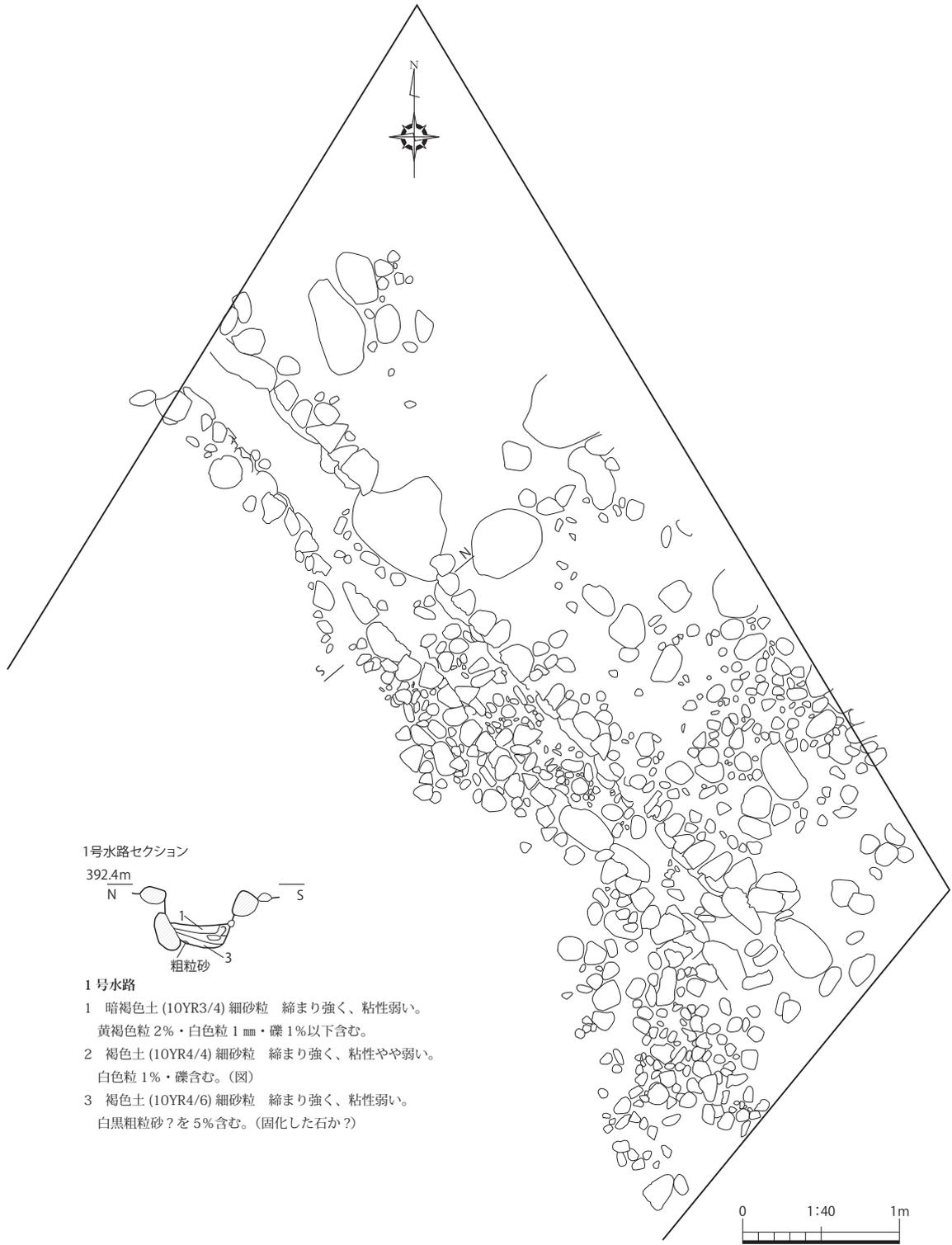
第 29 図 溝状遺構 (SD 3) (2)



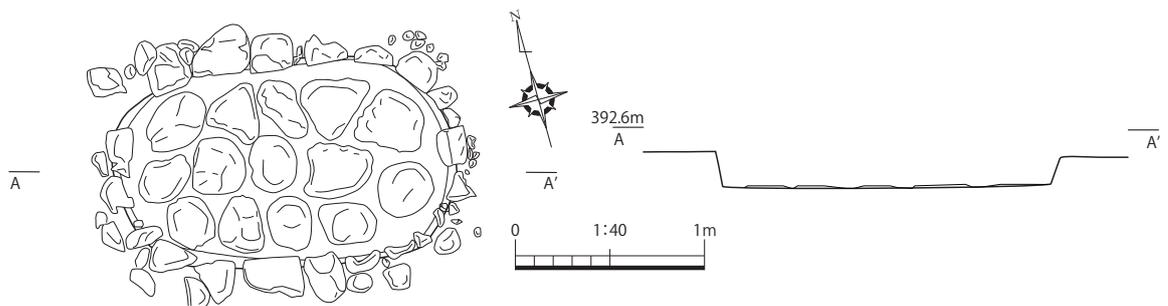
第 30 図 溝状遺構 (SD3) (3)



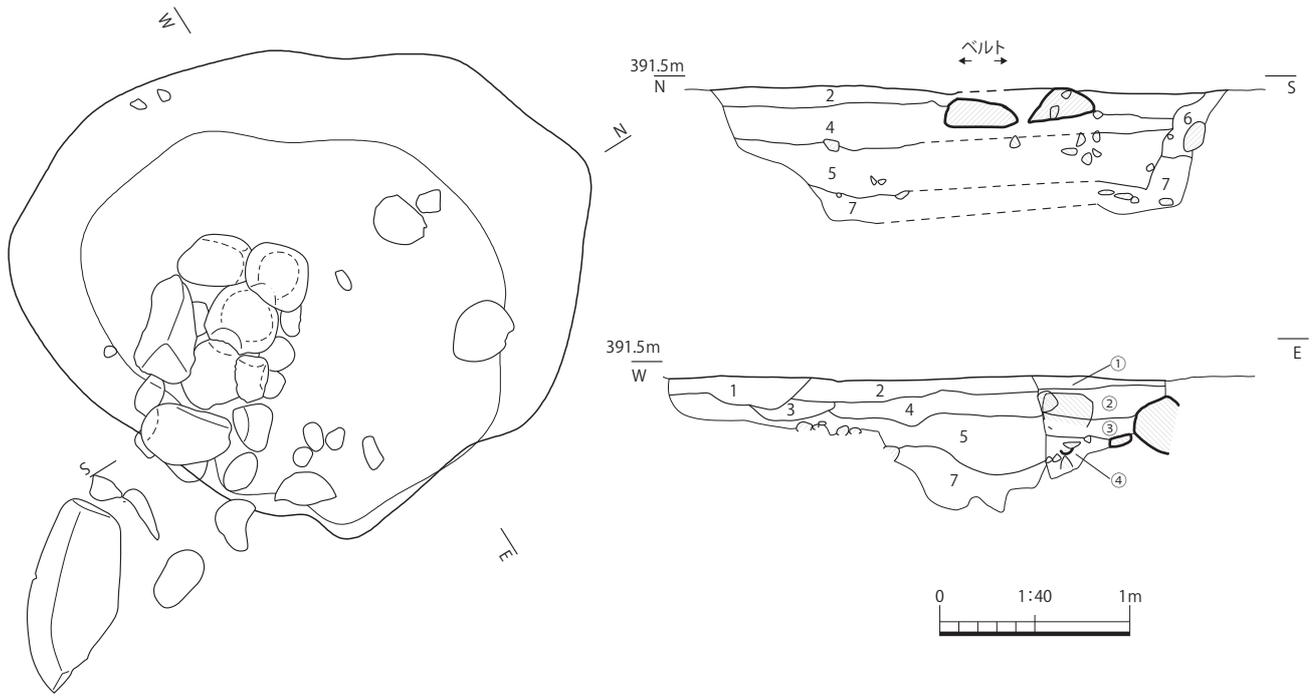
第 31 図 溝状遺構 (SD 1・2・4)



第32図 1号水路



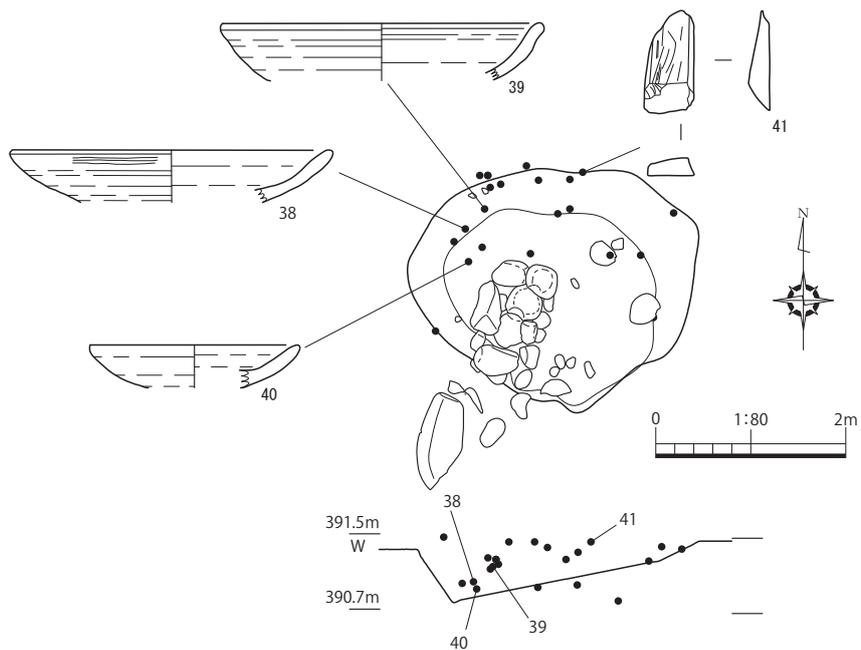
第33図 SX 1



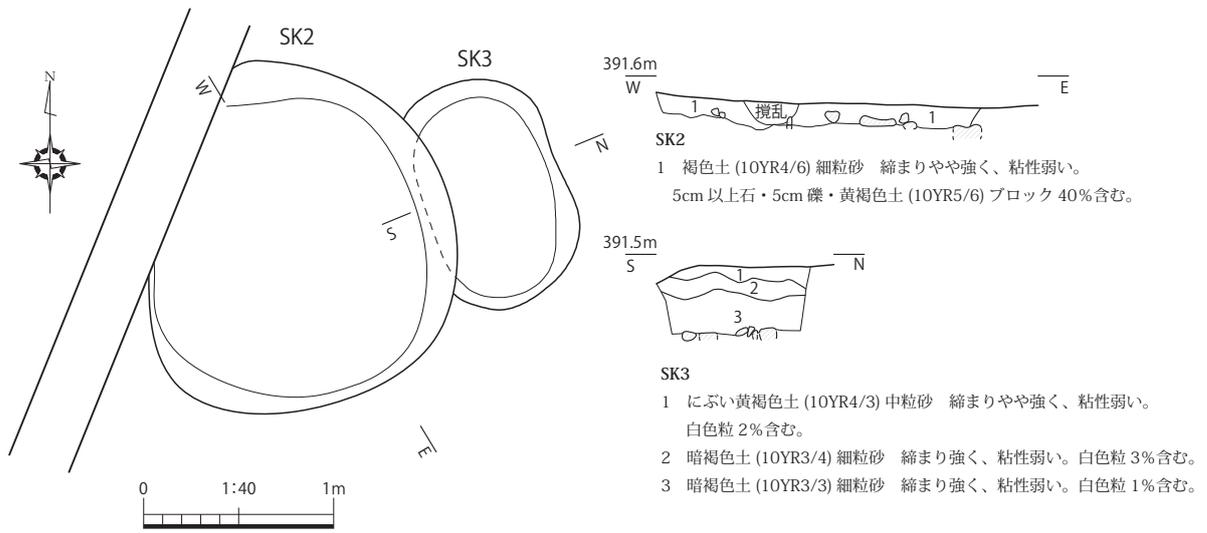
SK1東西ベルト

- | | |
|--|--|
| <p>1 黄褐色土(10YR6/6)細粒砂 締まり強く、粘性弱い。
にぶい黄褐色土(10YR5/4)を20%含む。</p> <p>2 暗褐色土(10YR3/4)細粒砂 締まりやや強く、粘性弱い。2mm大礫を含む。
白色粒を1%以下含む。</p> <p>3 にぶい黄褐色土(10YR5/4)細粒砂 締まりやや強く、粘性弱い。
白色粒を1%、1mm礫含む。</p> <p>4 暗褐色土(10YR3/4)細粒砂 締まりやや強く、粘性弱い。
白色粒を3%、雲母を1%以下含む。</p> <p>5 暗褐色土(10YR3/4)細粒砂 締まりやや弱く、粘性弱い。3mm礫を含む。
明黄褐色土(10YR6/6)細粒砂を5%含む。</p> <p>6 黄褐色土(10YR5/6)細粒砂 締まりやや弱く、粘性弱い。
褐色土(10YR4/4)を20%含む。</p> | <p>① 暗褐色土(10YR3/4) 細粒砂 締まりやや強く、粘性弱い。2mm礫を含む。
白色粒を1%以下含む。</p> <p>② 褐色土(10YR4/4) 細粒砂 締まりやや弱く、粘性弱い。
明黄褐色土(10YR6/6)細粒砂を1%含む。</p> <p>③ 暗褐色土(10YR3/4) 細粒砂 締まりやや弱く、粘性弱い。
3mm礫を含む。明黄褐色土(10YR6/6)細粒砂を5%含む。</p> <p>④ 褐色土(7.5YR4/4) 細粒砂 締まり強く、粘性やや弱い。
白色粒・黒色粒を1%以下含む。</p> |
|--|--|

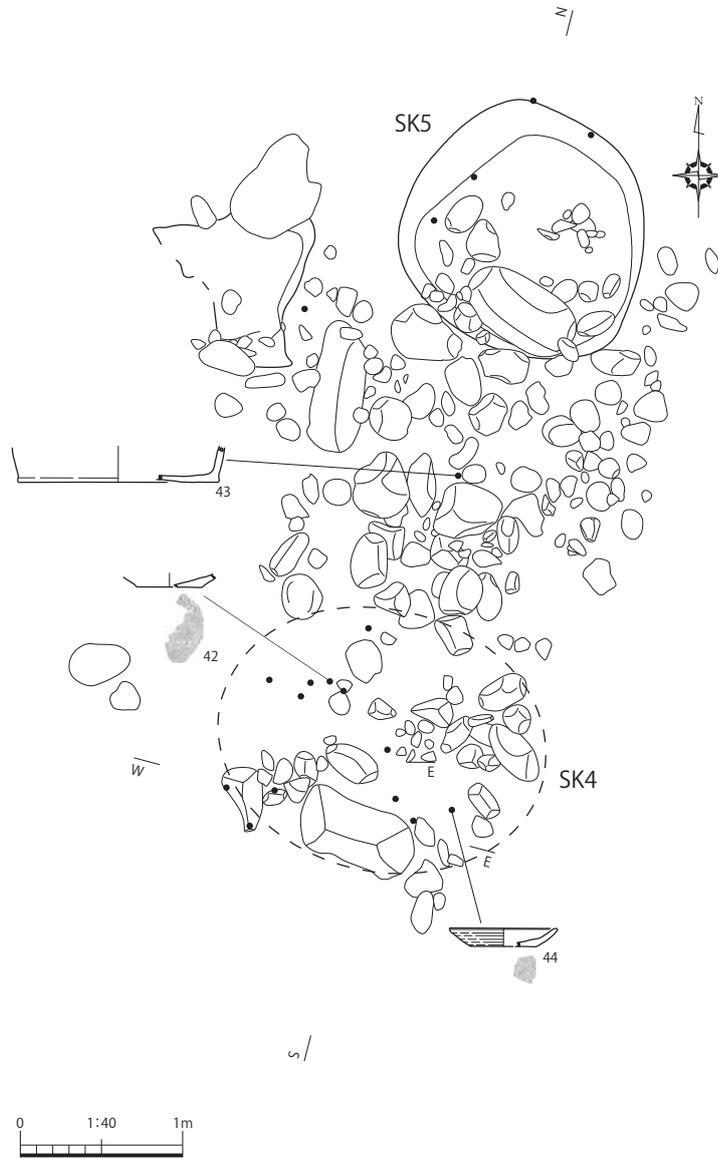
第34図 1号土坑(SK1)



第35図 1号土坑遺物出土地点

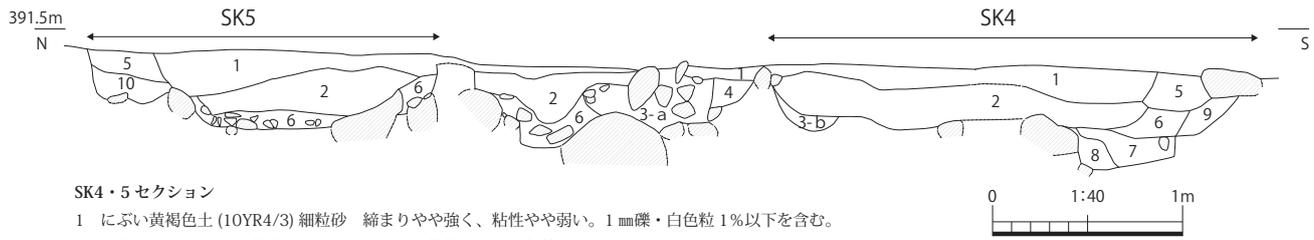


第 36 図 2・3号土坑 (SK 2・3)



第 37 図 4・5号土坑 (SK 4・5)

4・5セクション

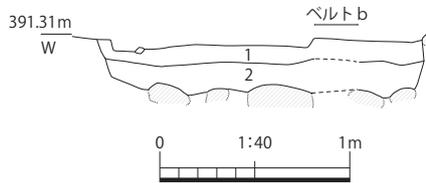


SK4・5セクション

- 1 にぶい黄褐色土 (10YR4/3) 細粒砂 締まりやや強く、粘性やや弱い。1mm礫・白色粒1%以下を含む。
- 2 褐色土 (10YR4/4) 細粒砂 締まりやや弱く、粘性弱い。白色粒1%を含む。
- 3-a 褐色土 (7.5YR4/4) 細粒砂 締まり弱く、粘性やや弱い。白色粒1%・黒褐色土 (10YR3/2) ブロック3%・黄褐色土 (10YR5/6) 細粒砂40%を含む。
- 3-b 褐色土 (7.5YR4/4) 細粒砂 締まりやや弱く、粘性やや弱い。白色粒1%・5mm石・黒色粒1%以下を含む。
- 4 褐色土 (7.5YR4/4) 細粒砂 締まりやや弱く、粘性やや弱い。白色粒・雲母1%以下・5cm石を含む。
- 5 黄褐色土 (10YR5/6) 細粒砂 締まりやや弱く、粘性弱い。白・黒色粒1%以下を含む。
- 6 暗褐色土 (10YR3/4) 細粒砂 締まりやや強く、粘性弱い。2mm礫含む。白・黒色粒1%以下、石(S)を含む。
- 7 黒褐色土 (7.5YR3/4) 細粒砂 締まりやや強く、粘性やや弱い。黒土 (10YR2/1)20%・褐色土 (10YR4/4)10%を含む。
- 8 暗褐色土 (7.5YR3/4) 細粒砂 締まりやや弱く、粘性弱い。黒土 (10YR2/1)5%を含む。
- 9 暗褐色土 (7.5YR3/4) 細粒砂 締まりやや強く、粘性やや弱い。白色粒1%以下を含む。
- 10 明黄褐色土 (10YR6/6) 細粒砂 締まりやや強く、粘性弱い。2mm礫含む。白・黒色粒1%以下で雲母を含む。

第38図 4・5号土坑 (SK4・5) 断面図

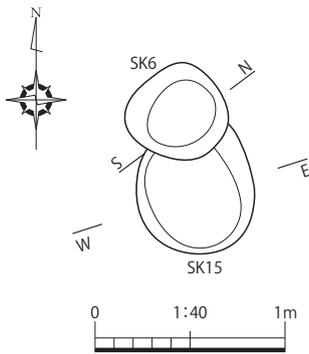
SK5セクション



SK5

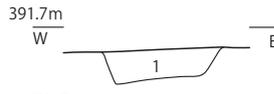
- 1 にぶい黄褐色土 (10YR4/3) 細粒砂 締まりやや強く、粘性やや弱い。1mm礫・白色粒1%以下を含む。
- 2 褐色土 (10YR4/4) 細粒砂 締まりやや弱く、粘性弱い。白色粒1%を含む。

第39図 5号土坑 (SK5) 断面図



SK6

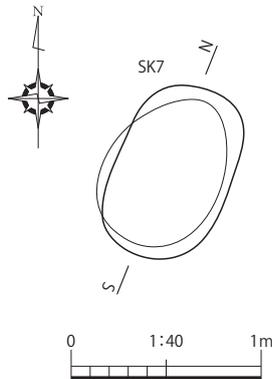
- 1 暗褐色土 (10YR3/3) 細粒砂 締まりやや強く、粘性弱い。黒色粒・2mm石を含む。
- 2 褐色土 (10YR4/6) 細粒砂 締まりやや強く、粘性弱い。黒色粒・明黄褐色土 (10YR6/6)10%を含む。
- 3 褐色土 (7.5YR4/4) 細粒砂 締まりやや強く、粘性弱い。中砂粒・明黄褐色土 (10YR6/6)15%を含む。



SK15

- 1 暗褐色土 (10YR3/3) 細粒砂 締まりやや強く、粘性弱い。

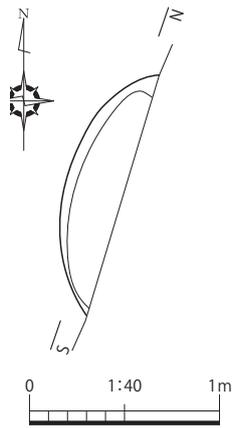
第40図 6・15号土坑 (SK6・15)



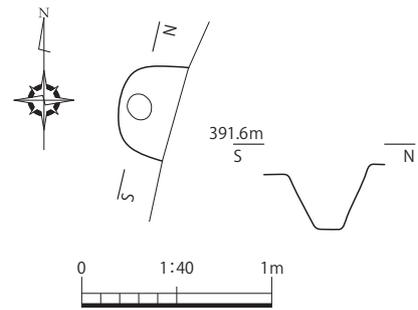
SK7

- 1 暗褐色 (10YR3/4) 細粒砂 締まりやや強く、粘性弱い。明黄褐色土 (10YR6/6)10%・1mm石を含む。
- 2 明黄褐色土 (10YR6/6) 細粒砂 締まりやや弱く、粘性弱い。暗褐色土 (10YR3/4)30%を含む。

第41図 7号土坑 (SK6・15)

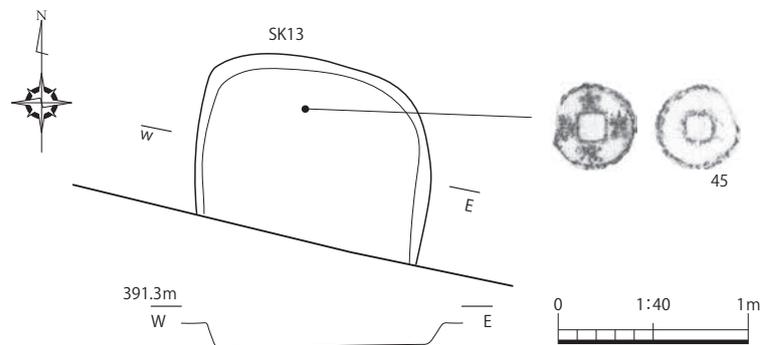


SK8
 1 暗褐色 (10YR3/4) 細砂粒 締まりやや強く、粘性弱い。
 明黄褐色土 (10YR6/6)10%・1mm石を含む。

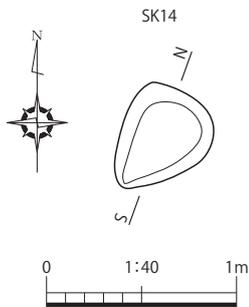


第42図 8号土坑 (SK8)

第43図 10号土坑 (SK10)

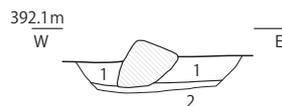
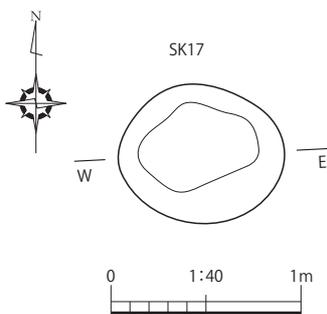


第44図 13号土坑 (SK13)



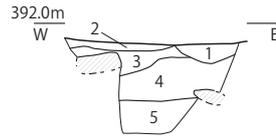
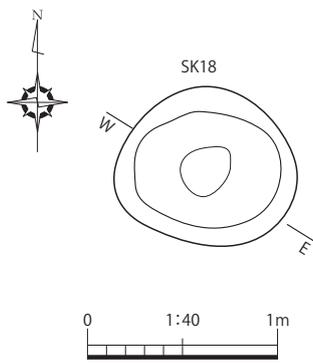
SK14
 1 にぶい黄褐色土 (10YR4/3) 細砂粒 締まりやや強く、粘性やや弱い。1mm礫・白色粒1%以下を含む。
 2 暗褐色土 (10YR3/4) 細砂粒 SK14-1が15%混じる。
 3 黄褐色土 (10YR5/6) 細砂粒 締まりやや弱く、粘性弱い。白・黒色粒1%以下を含む。

第45図 14号土坑 (SK14)



SK17
 1 褐色土 (10YR4/4) 細粒砂 締まりやや強く、粘性弱い。黄褐色土 (10YR5/6) マーブル状10%を含む。
 2 明黄褐色土 (10YR6/6) 細粒砂 締まり強く、粘性弱い。

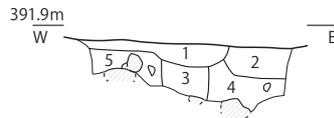
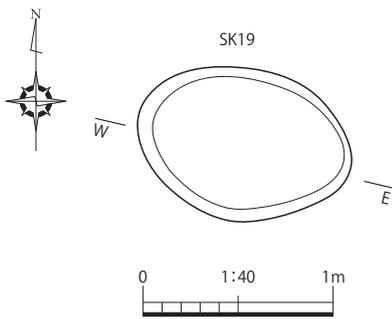
第46図 17号土坑 (SK17)



SK18

- 1 暗褐色土 (10YR3/4) 細粒砂 締まりやや弱く、粘性弱い。
- 2 褐色土 (10YR4/6) 細粒砂 締まりやや強く、粘性やや弱い。
- 3 褐色土 (10YR4/4) 細粒砂 黄褐色土 (10YR5/6) ブロック 40%を含む。
- 4 暗褐色土 (10YR3/4) 細粒砂 締まりやや強く、粘性やや弱い。黄褐色土 (10YR5/6) ブロック 10%を含む。
- 5 にぶい黄褐色土 (10YR4/3) 締まりやや強く、粘性やや強い。白色粒 1%以下を含む。

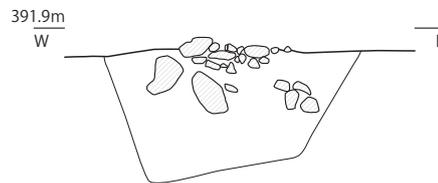
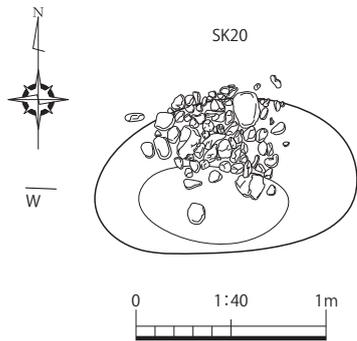
第 47 図 18号土坑 (SK 18)



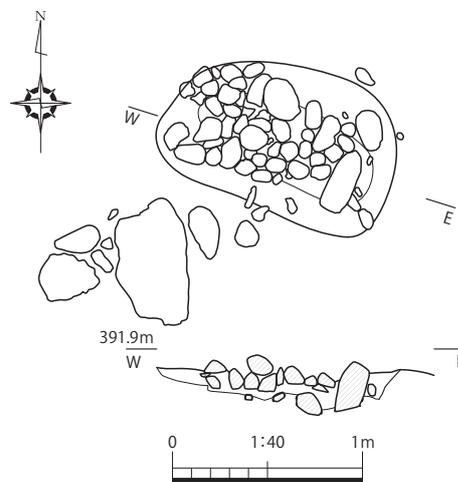
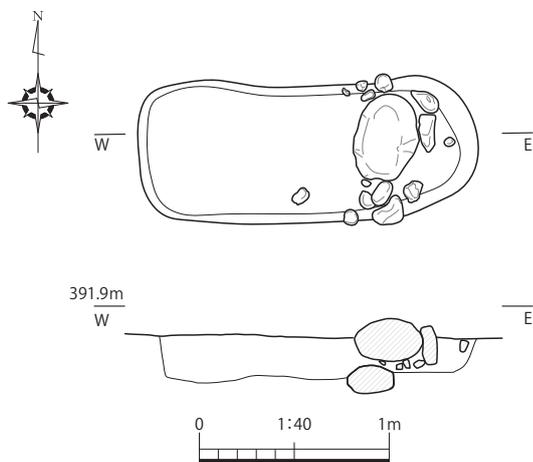
SK19

- 1 褐色土 (10YR4/4) 細粒砂 締まりやや弱く、粘性弱い。黄褐色土 (10YR5/6) 5%を含む。
- 2 褐色土 (10YR4/6) 細粒砂 締まりやや弱く、粘性弱い。白色粒・雲母 1%以下を含む。
- 3 にぶい黄褐色土 (10YR4/3) 細粒砂 締まり強く、粘性やや弱い。SK19-1 層土が斑に 3%混じる。
- 4 褐色土 (10YR4/6) 細粒砂 締まりやや弱く、粘性やや弱い。SK19-2 層土が斑に 15%混じる。
- 5 黄褐色土 (10YR6/6) 細粒砂 締まり強く、粘性やや弱い。SK19-3 層土が斑に 30%混じる。

第 48 図 19号土坑 (SK 19)

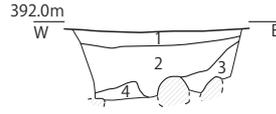
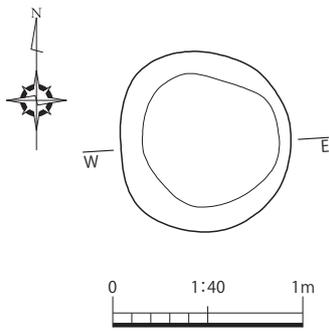


第 49 図 20号土坑 (SK 20) (集石土坑)



第 50 図 21号土坑 (SK 21) (集石土坑)

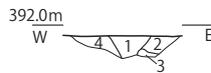
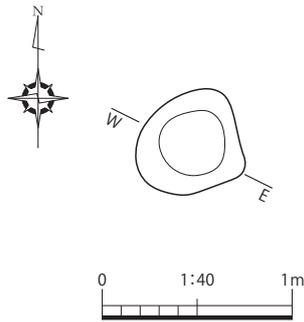
第 51 図 22号土坑 (SK 22) (集石土坑)



SK23

- 1 暗褐色 (10YR3/4) 細粒砂 締まりやや弱く、粘性やや弱い。SK23-4 層土が斑に 10% 混じっている。
- 2 暗褐色 (10YR3/3) 細粒砂 締まりやや弱い、粘性弱い。雲母 1% 以下・SK23-4 層土が斑に 5% 混じる。
- 3 褐色土 (10YR4/6) 細粒砂 締まりやや強く、粘性弱い。白色粒・黄褐色粒 1% を含む。
- 4 黄褐色土 (10YR5/6) 細粒砂 締まりやや弱く、粘性弱い。3mm 礫 1% を含む。SK23-2 層土が 25% 混じる。

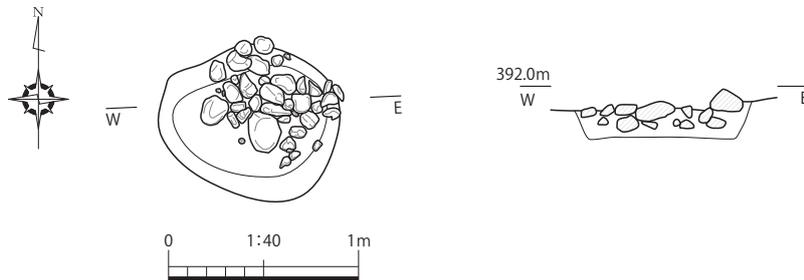
第 52 図 23 号土坑 (SK 23)



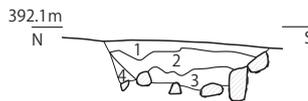
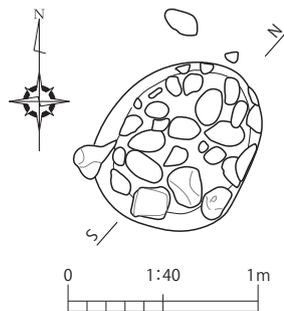
SK24

- 1 褐色土 (10YR4/4) 細粒砂 締まりやや強く、粘性やや弱い。白色粒・雲母 1% 以下を含む。
- 2 褐色土 (7.5YR4/3) 細粒砂 締まり弱く、粘性やや弱い。白色粒 1% を含む。SK23-3 層土 30% が混じる。
- 3 黄褐色土 (10YR5/6) 細粒砂 締まりやや弱く、粘性やや弱い。白色粒・黒色粒 1% 以下を含む。
- 4 褐色土 (10YR4/6) 細粒砂 締まりやや弱く、粘性弱い。雲母 1% 以下を含む。SK24-1 層土 3% が斑に混じる。

第 53 図 24 号土坑 (SK 24)



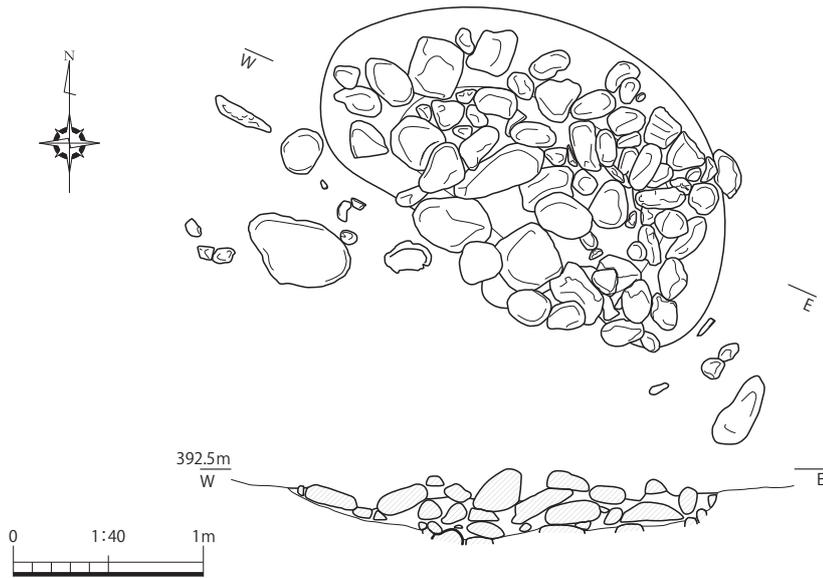
第 54 図 25 号土坑 (SK 25) (集石土坑)



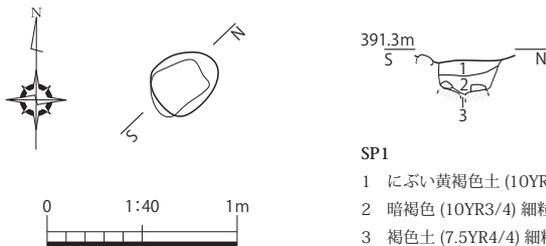
SK26

- 1 暗褐色 (10YR3/4) 細粒砂 締まりやや強く、粘性弱い。雲母 1% 以下を含む。
- 2 暗褐色 (10YR3/3) 細粒砂 締まりやや強く、粘性弱い。褐色土 (10YR4/4) 10% を含む。
- 3 褐色土 (10YR4/6) 細粒砂 締まり強く、粘性弱い。SK26-2 層土が斑に 20% 混じる。
- 4 褐色土 (10YR4/4) 細粒砂 締まりやや粘性弱い。雲母・白色粒 1% 以下を含む。

第 55 図 26 号土坑 (SK 26) (集石土坑)



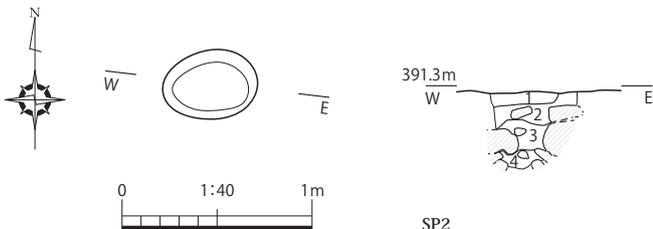
第56図 31号土坑 (SK 31) (集石土坑)



SP1

- 1 にぶい黄褐色土 (10YR4/3) 細粒砂 締まりやや強く、粘性やや弱い。1mm礫・白色粒1%以下を含む。
- 2 暗褐色 (10YR3/4) 細粒砂 締まりやや弱く、粘性弱い。1mm礫を含む。
- 3 褐色土 (7.5YR4/4) 細粒砂 締まりやや弱く、粘性やや弱い。白色粒・雲母1%以下・5cm石を含む。

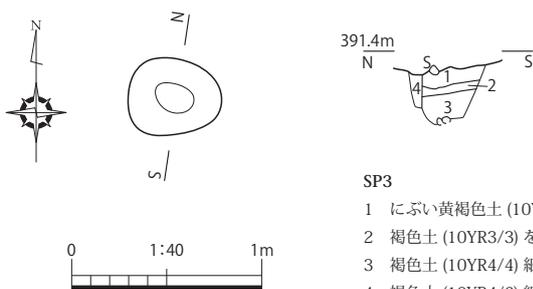
第57図 SP 1



SP2

- 1 にぶい黄褐色土 (10YR4/3) 細粒砂 締まりやや強く、粘性やや弱い。1mm礫・白色粒1%以下を含む。
- 2 褐色土 (7.5YR4/4) 細粒砂 締まりやや弱く、粘性やや弱い。白色粒・雲母1%以下・5cm石を含む。
- 3 暗褐色土 (10YR3/4) 細粒砂 締まりやや強く、粘性弱い。2mm礫含む。白・黒色粒1%以下、石(S)を含む。
- 4 明黄褐色土 (10YR6/6) 細粒砂 締まりやや強く、粘性弱い。2mm礫含む。白・黒色粒1%以下で雲母を含む。

第58図 SP 2

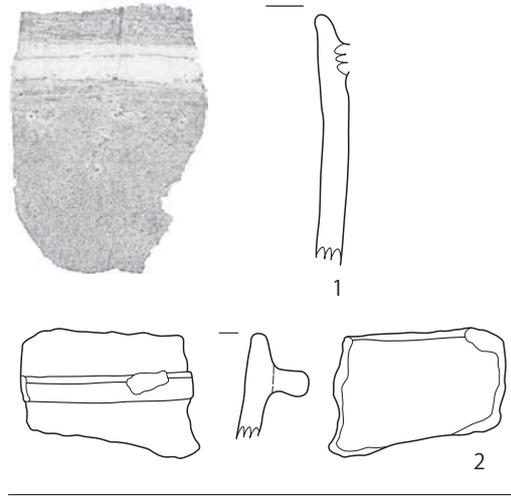


SP3

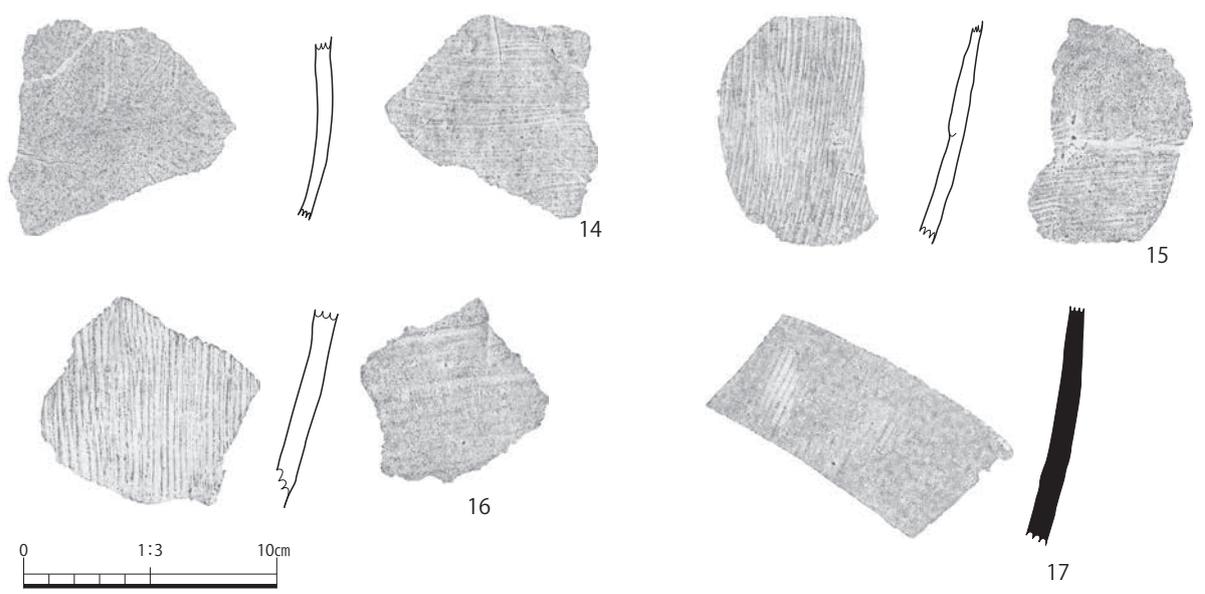
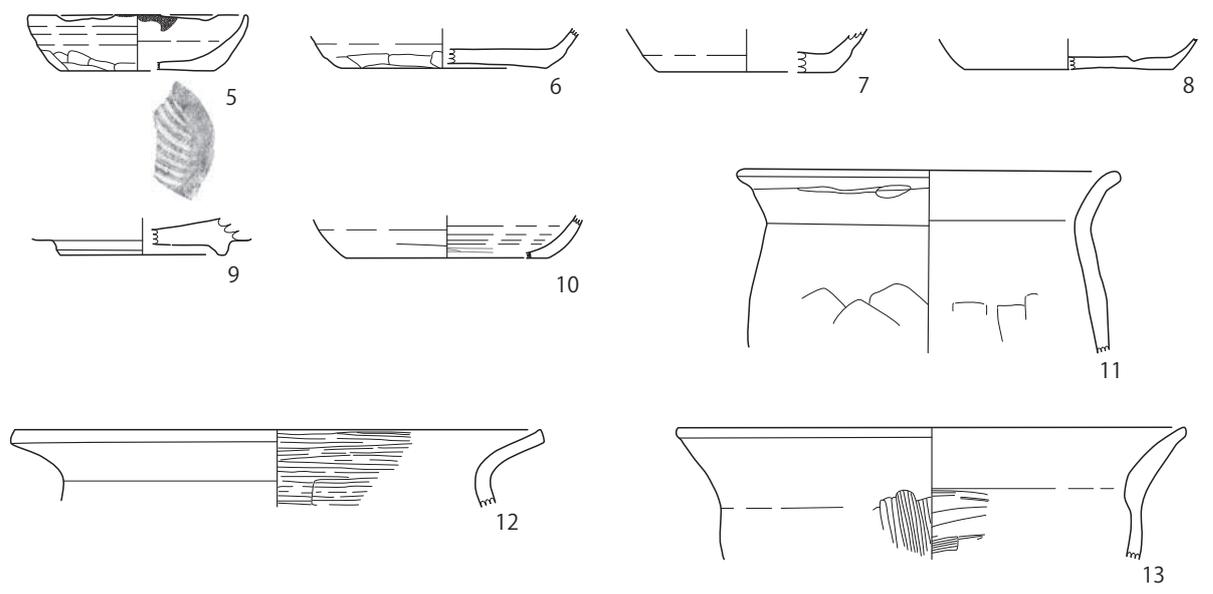
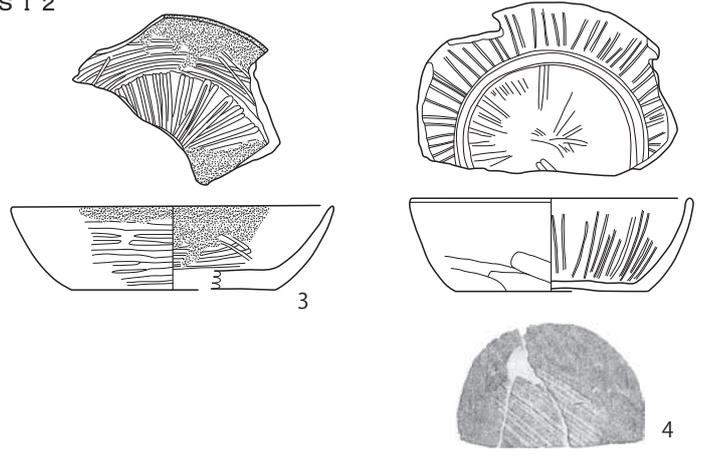
- 1 にぶい黄褐色土 (10YR4/3) 細粒砂 締まりやや強く、粘性やや弱い。1mm礫・白色粒1%以下を含む。
- 2 褐色土 (10YR3/3) を20%含む。
- 3 褐色土 (10YR4/4) 細粒砂 締まりやや弱く、粘性弱い。雲母1%以下を含む。
- 4 褐色土 (10YR4/6) 細粒砂 締まり強く、粘性弱い。白色粒1%以下を含む。

第59図 SP 3

S I 1

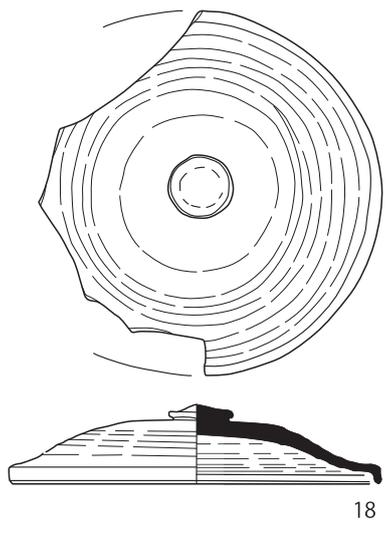


S I 2

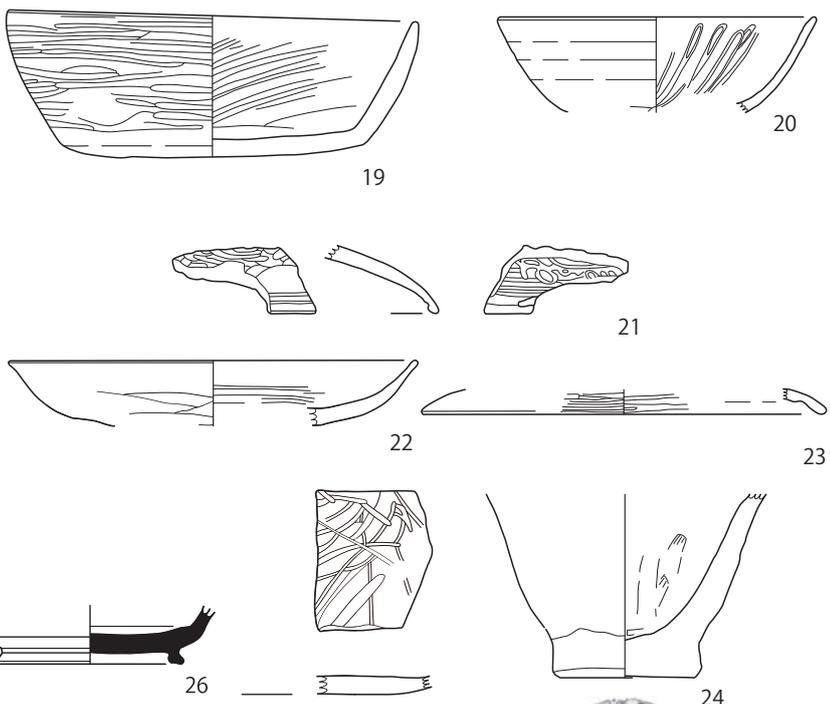


第 60 图 遺物実測図 (1)

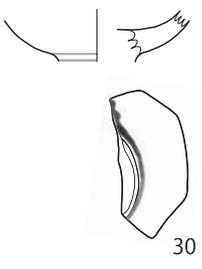
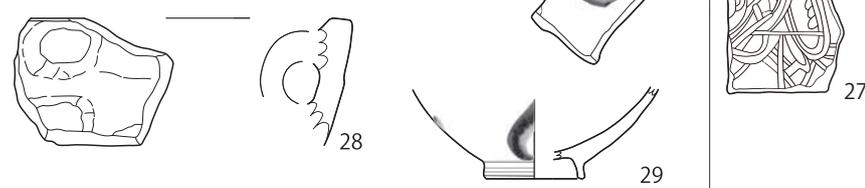
S I 3



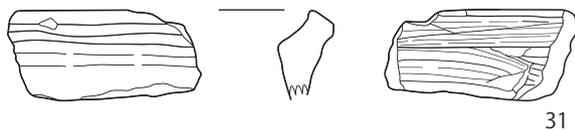
S I 5



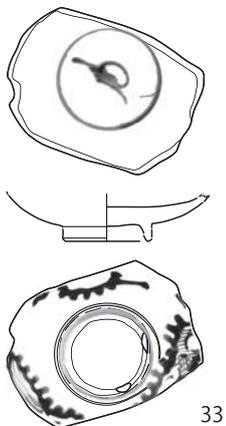
SD 1



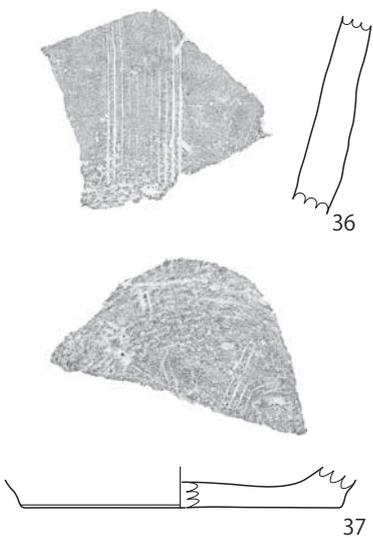
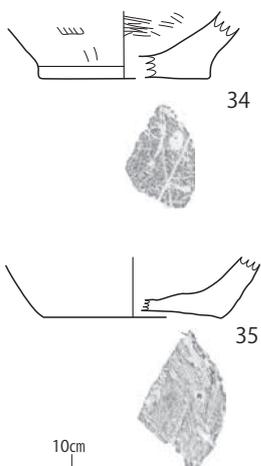
SD 2



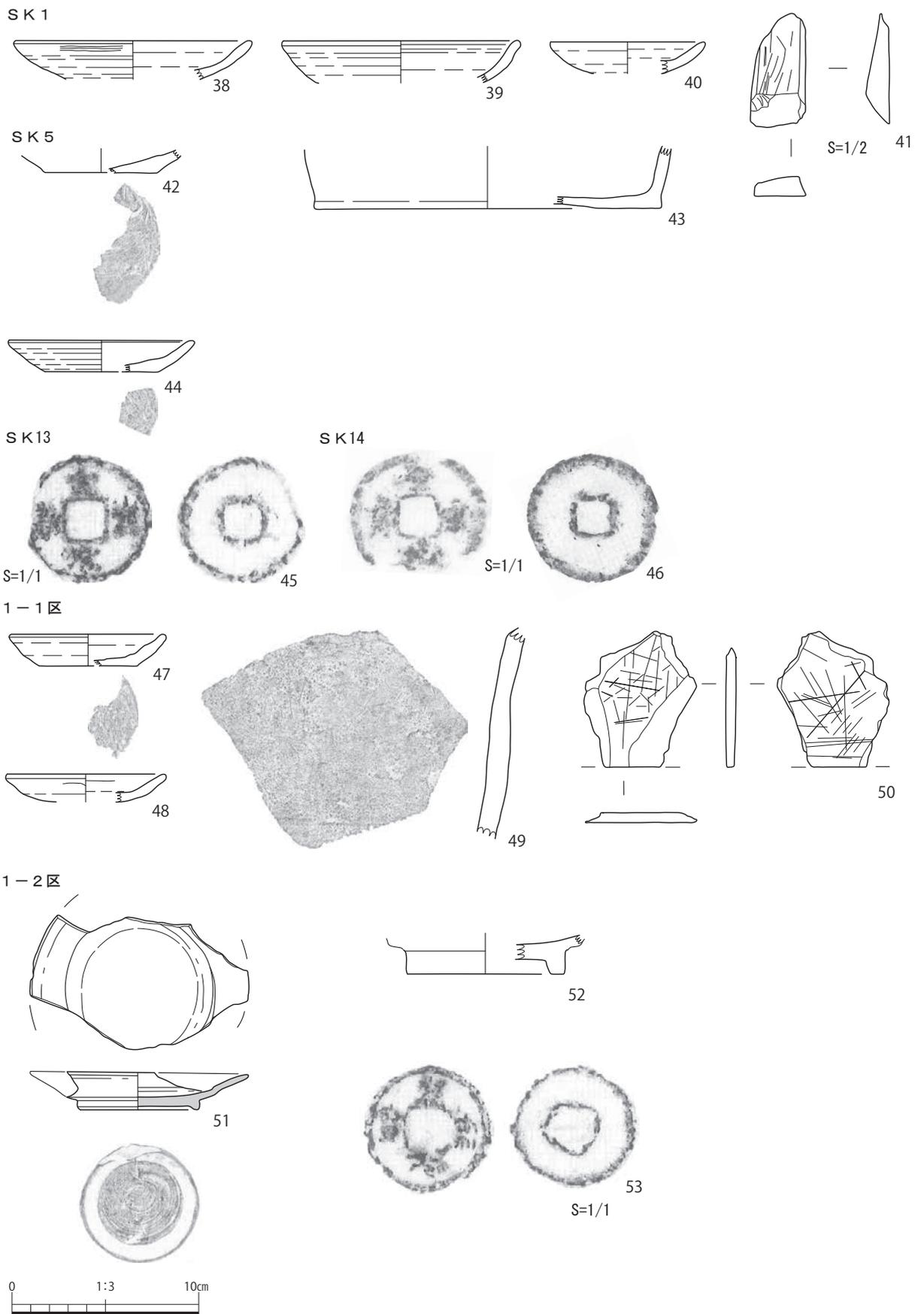
SD 3



SD 4

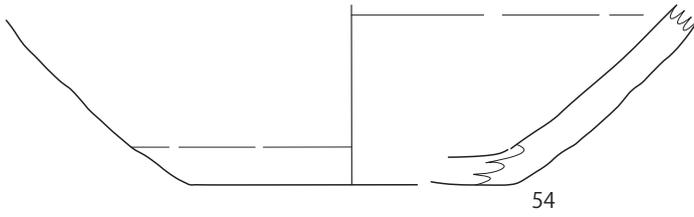


第 61 图 遺物実測図 (2)



第 62 図 遺物実測図 (3)

2区



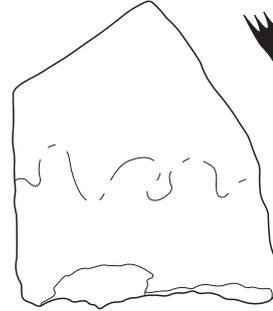
54



55



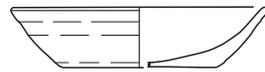
56



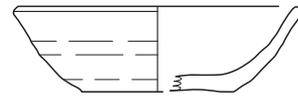
57



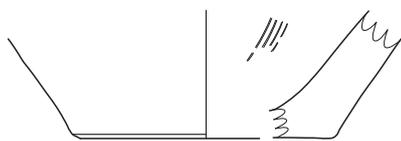
58



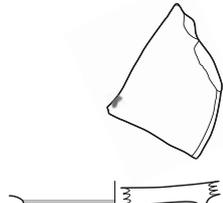
59



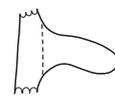
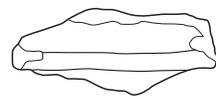
60



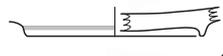
61



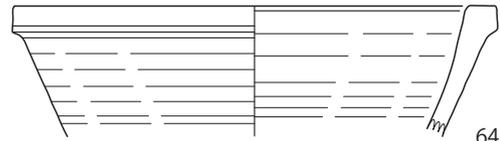
4区



63



62



64

5-1区



65

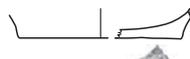
5-2区



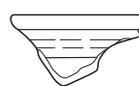
66



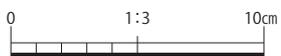
67



68

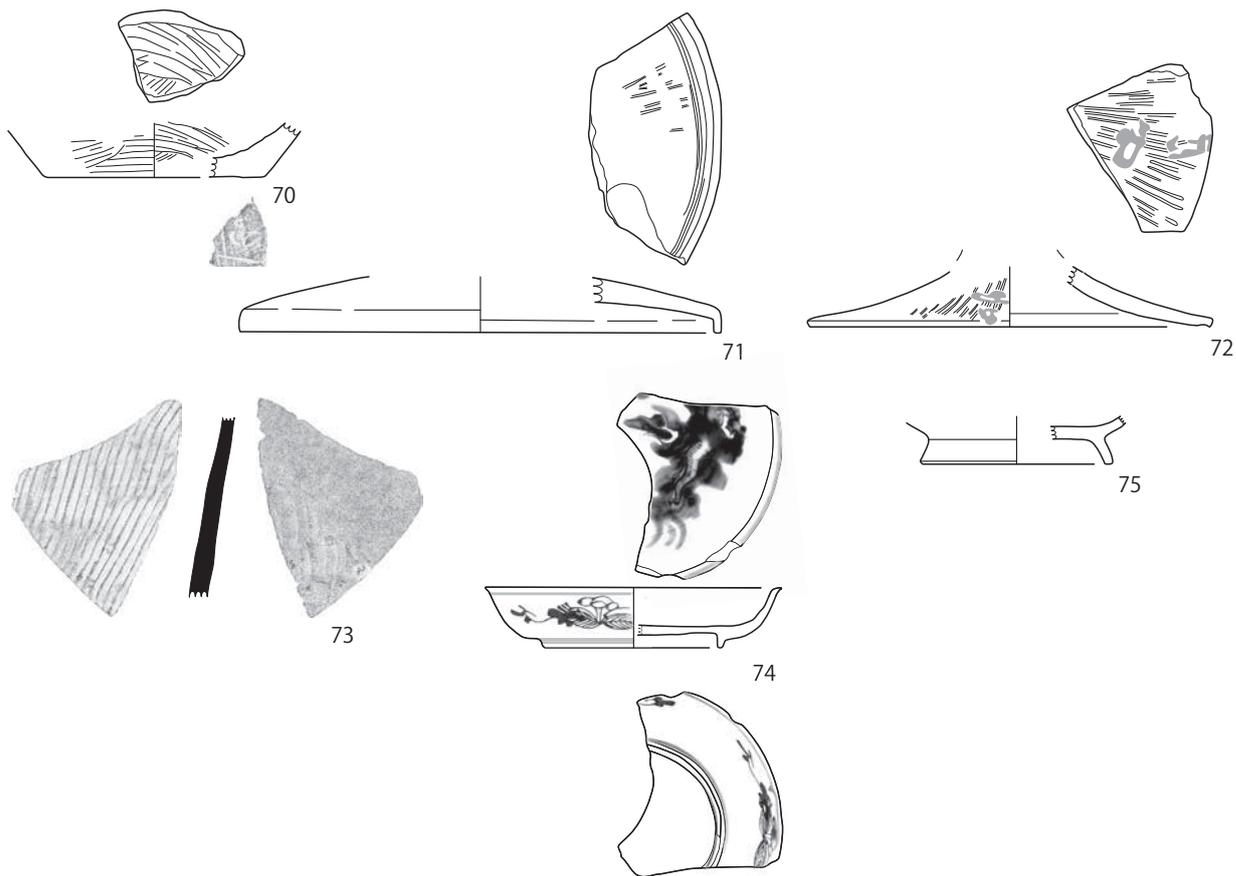


69

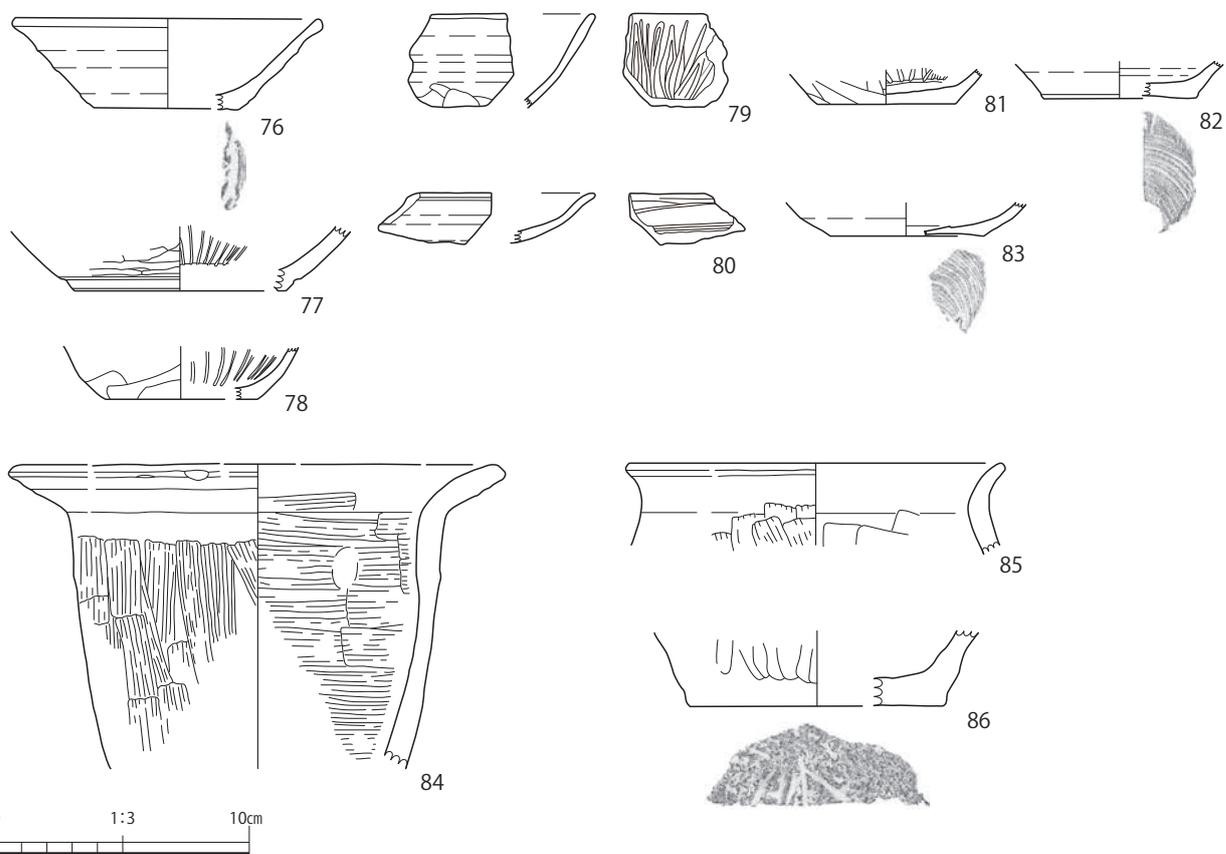


第63図 遺物実測図(4)

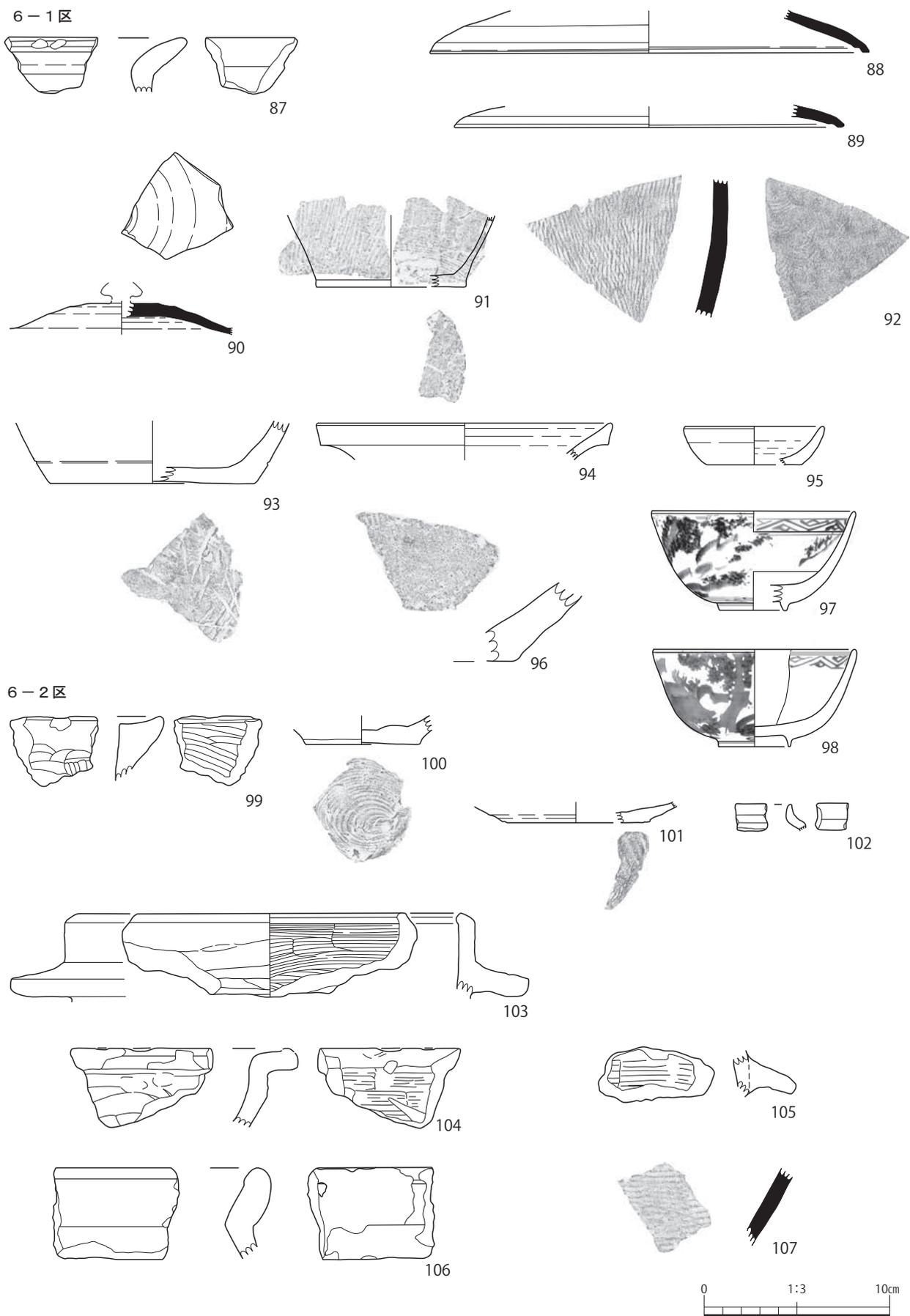
5-2区



6-1区

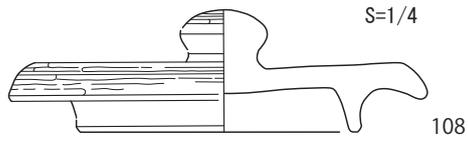
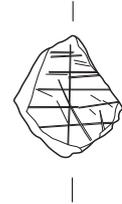
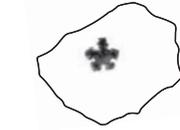
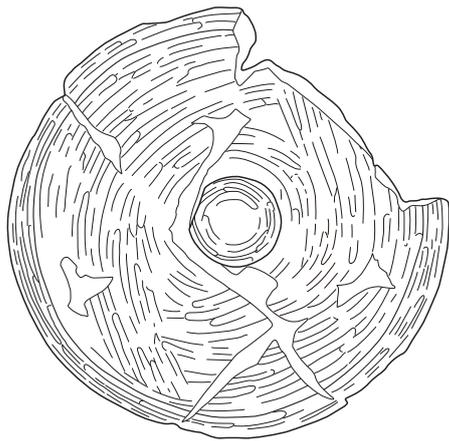


第64图 遺物実測図(5)



第 65 图 遺物実測図 (6)

6-2区

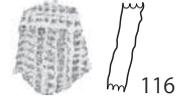
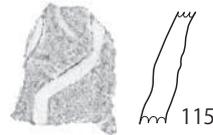
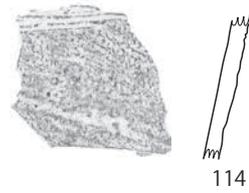
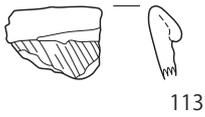


縄文土器

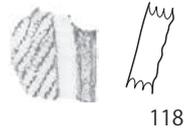
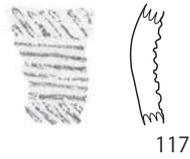
1-1区

2区

5-2区



6-1区



第66図 遺物実測図(7)

第2表 土器・陶磁器観察表(1)

()復元値 < > 残存値

遺物 番号	出土地点		種別	器種	法量(cm)			部位	色調	焼成	胎土	備考	時期
	口径	底径			器高								
1	1-1区	S11	土師器	羽釜	—	—	<4.2>	口縁部～体部、 銚部欠損	明褐色	良好	長石・石 英・金色雲 母	直線的に立ち上がり、口縁部はやや内 側に傾く。銚は口縁部直下に付く。内 外面ともナデ調整。	奈良・平安
2	1-1区	S11	土師器	羽釜	—	—	<10.0>	口縁部～体部	明赤褐色	良好	長石・石 英・金色雲 母	直線的に立ち上がり、口縁部はやや内 側に傾く。銚は口縁部直下に付く。銚 は外側が肥厚。内外面ともナデ調整。	奈良・平安
3	5-2区	SI2	土師器	坏	(12.8)	(8.0)	3.8	口縁1/8～底部 1/4	橙色	良好	赤色粒	見込み部に放射状暗文。体部外面は横位 のヘラミガキ。底部との境にヘラケズ リ。底部は全面ヘラミガキ	奈良・平安
4	5-2区	SI2	土師器	坏	(11.0)	(7.6)	<3.7>	口縁1/4～底部 1/2	明赤褐色	良好	赤色粒	見込部と体部に放射状の暗文。体部下 半にヘラケズリ。底部静止糸切り後ヘラ ケ	奈良・平安
5	5-2区	SI2	土師器	坏	(8.6)	(6.0)	2.2	口縁1/4～底部 1/4	橙色	良好	赤色粒・白 色粒	ロクロ調整。体部下手に手持ちヘラケ ズリ。底部は回転糸切り後、外周をヘラ ケ	奈良・平安
6	5-2区	SI2	土師器	坏	—	(8.0)	<1.6>	体部小～底部1/3	明赤褐色	良好	密	体部下位にヘラケズリ。底部ヘラケズ リ、中央部で窪む。外面に煤付着。	奈良・平安
7	5-2区	SI2	土師器	坏	—	(7.0)	<1.7>	体部小～底部 1/4	橙	良好	赤色粒・白 色粒	内外面ロクロナデ。底部はヘラケズリ。	奈良・平安
8	5-2区	SI2	土師器	坏	—	(8.2)	<1.2>	底部1/2	橙	良好	密	底部は回転糸切り後、全面をヘラケズ リ。外周の一部はヘラミガキ	奈良・平安
9	5-2区	SI2	土師器	高台坏	—	(6.6)	<1.5>	口縁小～底部	橙	良好	赤色粒	底部ヘラケズリ。	奈良・平安
10	5-2区	SI2	土師器	坏	—	(8.0)	<1.7>	体部小～底部小	明赤褐色	良好	金色雲母	体部下半ヘラケズリ。見込み部の外周に ミガキ。	奈良・平安
11	5-2区	SI2	土師器	甕	(14.6)	—	<7.3>	口縁1/6～体部	明赤褐色	良好	白色粒	口縁部は外反。内外面ともヘラナデ。	奈良・平安
12	5-2区	SI2	土師器	甕	(20.8)	—	<3.1>	口縁1/8～体部 小	にぶい赤褐色	良好	白色粒	口縁部は「く」の字に外反。外面ナデ。 内面横位のハケ。	奈良・平安
13	5-2区	SI2	土師器	甕	(20.0)	—	<5.3>	口縁～体部	明赤褐色	良好	白色粒・金 色雲母	口縁部ゆるやかに外反。外面に縦位のハ ケ。内面は横位のハケ。	奈良・平安
14	5-2区	SI2	土師器	甕	—	—	<7.7>	体部	明赤褐色	良好	白色粒・金 色雲母	外面縦位のハケ。内面横位のハケ。	奈良・平安
15	5-2区	SI2	土師器	甕	—	—	<8.9>	体部	明赤褐色	良好	白色粒・金 色雲母	外面縦位のハケ。内面横位のハケ。	奈良・平安
16	5-2区	SI2	土師器	甕	—	—	<7.9>	体部	明赤褐色	良好	白色粒・金 色雲母含む	外面縦位のハケ。内面横位のハケ。	奈良・平安
17	5-2区	SI2	須恵器	甕	—	—	<9.5>	体部	にぶい橙色	良好	密	外面にタタキ、自然釉。内面当て具痕。	奈良・平安
18	6-1区	SI3	須恵器	坏蓋	(14.4)	2.6 ※つま み	3.2	つまみ～口縁部 1/2	黄灰色	良好	長石	外面回転ヘラケズリ。	奈良・平安
19	6-2区	SI5	土師器	坏	16.0	11.8	5.9	完形	橙色	良好	赤色粒	大形で身の深い形状。弧状の底部。体部 はやや内湾し外に開く。内外面ヘラミガ キ。底部はヘラケズリ。	奈良・平安
20	6-2区	SI5	土師器	坏	(12.4)	—	<3.8>	口縁1/4	明赤褐色	良好	赤色粒	内面は放射状暗文。外面は体部下半ヘ ラケズリ。	奈良・平安
21	6-2区	SI5	土師器	蓋	—	—	<2.7>	体部	明赤褐色	良好	赤色粒	内面にらせん状暗文。	奈良・平安
22	6-2区	SI5	土師器	坏	(16.0)	—	<2.6>	口縁～体部	橙色	良好	赤色粒	内面に同心円状の暗文。外面はヘラケ ズ	奈良・平安
23	6-2区	SI5	土師器	蓋	(15.8)	—	<1.5>	口縁小～体部小	明赤褐色	良好	密	内外面ヘラミガキ。	奈良・平安
24	6-2区	SI5	土師器	甕	—	5.3	<7.3>	体部1/4～底部	明赤褐色	良好	長石	外面細かいハケ。下半にヘラケズリ。内 面細かいハケ。底部木葉痕。	奈良・平安
25	6-2区	SI5	須恵器	坏	(10.6)	—	<3.3>	口縁小～体部小	暗灰黄色	良好	長石	内外面ロクロナデ。	奈良・平安
26	6-2区	SI5	須恵器	高台坏	—	(7.2)	<2.3>	体部小～底部	灰黄色	良好	白色粒	ロクロナデ。高台の断面形は台形。	奈良・平安
27	6-2区	SI5	土師器	坏	—	—	<0.7>	底部	明赤褐色	良好	密	見込みにらせん状の暗文。底部外面 は黒化。	奈良・平安
29	2区	SD1	磁器	碗	—	(4.0)	<4.7>	体部小～底部	透明釉	良好	緻密	染付。	近世・近代
30	2区	SD1	磁器	碗	—	—	<2.1>	体部	透明釉	良好	緻密	染付。	近世・近代
31	2区	SD2	土師器	甕	—	—	<3.6>	口縁小	にぶい赤褐色	良好	白色粒	外面ヘラナデ。内面横位のハケ。	
33	4区	SD3	磁器	碗	—	(3.2)	<1.9>	体部～底部	透明釉	良好	緻密	—	近世
34	4区	SD4	土師器	甕	—	(6.6)	<2.7>	底部	明赤褐色	良好	白色粒	内外面ハケ。底部に木葉痕。	奈良・平安
35	4区	SD4	土師器	坏	—	(7.0)	<2.4>	底部1/4	明赤褐色	良好	赤色粒	体部下位をヘラケズリ。底部は回転糸切 り後、中央部をヘラケズリ。	奈良・平安
42	1-1区	SK5	土師器	坏	—	(6.0)	<1.3>	体部小～底部 1/4	橙色	良好	金色雲母・ 赤色粒	体部下位ヘラケズリ。底部回転糸切り 後、外周をヘラケズリ。	奈良・平安
48	1-1区	遺構外	陶器	皿	(8.4)	—	<1.5>	口縁1/8	にぶい橙色	良好	密	口縁部に釉薬。	中近世
51	1-2区	遺構外	灰釉陶器	段皿	11.7	6.3	2.1	口縁1/4～底部 1/4	灰白色	良好	密	口縁部と内面に釉。底部回転糸切り。 高台の断面形は三角形形状。	奈良・平安
52	1-2区	遺構外	陶器	碗	—	(8.4)	<2.2>	底部1/3	明黄褐色	—	密	内面に施釉。瀬戸か。	近世
55	2区	遺構外	須恵器	甕	—	—	<5.7>	体部破片	浅黄色	良好	密	外面にタタキ。内面に自然釉。	奈良・平安
56	2区	遺構外	須恵器	甕	—	—	<8.6>	体部破片	褐色	良好	密	外面にタタキ。内面当て具痕	奈良・平安
57	2区	遺構外	須恵器	甕	—	—	<11.8>	体部破片	黄灰色	良好	白色粒	外面にタタキ、自然釉。内面当て具痕。	奈良・平安
58	2区	遺構外	土師器	坏	—	(7.0)	<2.9>	体部小～底部	明赤褐色	良好	赤色粒	ロクロナデ。底部回転糸切り。	奈良・平安
59	2区	遺構外	土師器	坏	(10.0)	(6.0)	2.4	口縁小～底部	橙色	良好	赤色粒	ロクロナデ。底部回転糸切り。	奈良・平安
60	2区	遺構外	土師器	坏	(11.0)	(6.0)	3.4	口縁1/8～底部 1/4	明赤褐色	良好	赤色粒・白 色粒	ロクロナデ。底部回転糸切り。	奈良・平安
62	2区	遺構外	磁器	碗	—	(7.0)	<1.1>	底部1/4	透明釉	良好	緻密	染付。	近世
63	4区	遺構外	土師器	羽釜	—	—	<3.4>	口縁小	にぶい赤褐色	良好	金色雲母・ 白色粒	銚部は端部がやや下方に下がる。	奈良・平安

第2表 土器・陶磁器観察表(2)

()復元値 ()残存値

遺物番号	出土地点	種別	器種	法量(cm)			部位	色調	焼成	胎土	備考	時期	
				口径	底径	器高							
65	5-1区	遺構外	土師器	高台環	—	(10.0)	<1.0>	底部小	橙色	良好	赤色粒	見込み部に放射状暗文。底部回転ヘラケズリ。高台削り出し。	奈良・平安
66	5-2区	遺構外	土師器	甗	—	(8.0)	<4.2>	体部小～底部小	明赤褐色	良好	白色粒・金色雲母	内外面ヘラナデ。底部木葉痕。	奈良・平安
67	5-2区	遺構外	土師器	環	—	(6.0)	<2.1>	体部小～底部1/4	橙色	良好	赤色粒	内面に放射状暗文。外面の体部下位にヘラケズリ。底部回転系切り。	奈良・平安
68	5-2区	遺構外	土師器	環	—	(6.4)	<1.2>	底部小	明褐色	良好	密	ロクロナデ。底部回転ヘラケズリ。	奈良・平安
69	5-2区	遺構外	土師器	甗	—	—	<2.8>	口縁小	にぶい赤褐色	良好	白色粒	ロクロナデ。口縁端部に平坦面。	奈良・平安
70	5-2区	遺構外	土師器	甗	—	(9.0)	<2.2>	体部小～底部	赤褐色	良好	白色粒	内外面ハケ。底部ヘラケズリ。	奈良・平安
71	5-2区	遺構外	土師器	蓋	(19.0)	—	<2.2>	口縁1/8	橙色	良好	赤色粒	内面に放射状暗文。	奈良・平安
72	5-2区	遺構外	土師器	蓋	(15.8)	—	<2.4>	口縁1/8	にぶい赤褐色	良好	密	外面に放射状暗文。外面に煤(墨書?)	奈良・平安
73	5-2区	遺構外	須恵器	甗	—	—	<7.2>	体部破片	褐色	良好	密	外面タタキ。内面に当て具痕。	奈良・平安
74	5-2区	遺構外	磁器	皿	(11.8)	(7.0)	2.4	口縁1/4～底部1/4	透明釉	良好	緻密	染付。	近世・近代
75	5-2区	遺構外	緑釉陶器	碗	—	(7.4)	<1.9>	底部小	灰オリブ色	良好	緻密		奈良・平安
76	6-1区	遺構外	土師器	環	(12.0)	(5.8)	<3.6>	口縁1/3～底部小	明赤褐色	良好	赤色粒	ロクロナデ。口縁端部がやや肥厚。底部回転系切り。	奈良・平安
77	6-1区	遺構外	土師器	高台環	—	(8.4)	<2.6>	体部小～底部1/8	橙色	良好	黒色粒・赤色粒	内面に放射状暗文。外面は体部下位をヘラケズリ。	奈良・平安
78	6-1区	遺構外	土師器	環	—	(6.0)	<2.1>	体部小～底部1/8	橙色	良好	赤色粒	内面放射状暗文。外面は体部下位をヘラケズリ。	奈良・平安
79	6-1区	遺構外	土師器	環	—	—	<3.7>	口縁小	明赤褐色	良好	白色粒	内面放射状暗文。外面は体部下位をヘラケズリ。	奈良・平安
80	6-1区	遺構外	土師器	皿	—	—	<2.0>	口縁小	橙色	良好	赤色粒・白色粒	内面の見込み部と体部の境をヘラミガキ。	奈良・平安
81	6-1区	遺構外	土師器	環	—	(5.4)	<1.4>	底部1/4	橙色	良好	赤色粒	内面放射状暗文。外面は体部下位をヘラケズリ。	奈良・平安
82	6-1区	遺構外	土師器	環	—	(6.0)	<1.5>	体部小～底部	橙色	良好	密	ロクロナデ。底部回転系切り。	奈良・平安
83	6-1区	遺構外	土師器	環	—	(6.0)	<1.3>	体部小～底部1/6	にぶい赤褐色	良好	赤色粒	ロクロナデ。底部回転系切り。	奈良・平安
84	6-1区	遺構外	土師器	甗	(18.4)	—	<7.1>	口縁1/8～体部小	明赤褐色	良好	白色粒	内面横位ハケ。外面縦位ハケ。口縁部は大きく外反。	奈良・平安
85	6-1区	遺構外	土師器	甗	(14.8)	—	<3.6>	口縁1/8～体部	にぶい赤褐色	良好	白色粒	内面横位ハケ。外面縦位ハケ。	奈良・平安
86	6-1区	遺構外	土師器	甗	—	(10.0)	<3.0>	底部1/3	にぶい橙	良好	長石	外面は体部下位をヘラケズリ。底部木葉	奈良・平安
87	6-1区	遺構外	土師器	甗	—	—	<3.1>	口縁小	明赤褐色	良好	白色粒	ロクロナデ。	奈良・平安
88	6-1区	遺構外	須恵器	蓋	(23.7)	—	<2.3>	口縁1/8	にぶい橙色	不良	密	ロクロ調整。	奈良・平安
89	6-1区	遺構外	須恵器	蓋	(21.0)	—	<1.2>	口縁1/10	灰白色	良好	密	ロクロ調整。	奈良・平安
90	6-1区	遺構外	須恵器	蓋	—	—	<1.7>	体部1/6	黄灰色	良好	密	ロクロ調整。つまみ部欠損するが痕跡あり。	奈良・平安
91	6-1区	遺構外	土師器	甗	—	(8.0)	<3.9>	底部1/8	にぶい赤褐色	良好	金色雲母・長石	内面横位ハケ。外面縦位ハケ。器壁薄い。	奈良・平安
92	6-1区	遺構外	須恵器	甗	—	—	<7.6>	体部破片	褐色	良好	密	外面タタキ。内面に青海波状の当て具	奈良・平安
93	6-1区	遺構外	陶器	甗	—	(11.0)	<3.4>	体部小～底部	褐色	良好	白色粒	ロクロナデ。底部ヘラケズリ。	平安～中世
94	6-1区	遺構外	灰釉陶器	壺	(15.8)	—	<2.0>	口縁小	オリブ黄色	良好	密	内外面に施釉。	奈良・平安
95	6-1区	遺構外	土師器	環	(7.4)	(5.0)	<2.1>	口縁1/4～底部1/4	橙色	良好	密	ロクロナデ。	奈良・平安
97	6-1区	遺構外	磁器	碗	(10.8)	(3.4)	5.4	口縁1/3～底部1/4	透明釉	良好	緻密	染付。	近世
98	6-1区	遺構外	磁器	碗	(10.8)	(3.8)	5.3	口縁1/3～底部3/4	透明釉	良好	緻密	染付。	近世
99	6-2区	遺構外	土師器	鉢	—	—	<3.8>	口縁小	明赤褐色	良好	長石	内面横位ハケ。外面は口縁部は横位ハケ、体部は縦位ハケ。	奈良・平安
100	6-2区	遺構外	土師器	環	—	(6.2)	<1.6>	底部	橙色	良好	赤色粒	内外面ロクロナデ。底部回転系切り。	奈良・平安
101	6-2区	遺構外	土師器	環	—	(8.0)	<1.1>	底部1/4	明赤褐色	良好	赤色粒	ロクロナデ。底部回転系切り。	奈良・平安
102	6-2区	遺構外	土師器	壺か	—	—	<1.5>	口縁小	明赤褐色	良好	白色粒・赤色粒	ロクロナデ。	
103	6-2区	遺構外	土師器	羽釜	(10.4)	—	<4.7>	口縁1/6～体部	にぶい赤褐色	良好	長石	内面ハケ。鋳部はやや下向き。	奈良・平安
105	6-2区	遺構外	土師器	羽釜	—	—	<2.5>	鋳部破片	明赤褐色	良好	長石	鋳の長さ2.5cm。	奈良・平安
106	6-2区	遺構外	土器	甗	—	—	<5.0>	口縁小	黒色	良好	白色粒・赤色粒	ロクロナデ。外面黒化。	近世
107	6-2区	遺構外	陶器	甗	—	—	<4.3>	体部破片	にぶい橙色	良好	密	外面タタキ。	平安～中世
108	6-2区	遺構外	土器	火消壺蓋	23.7	受部径15.2	7.0	一部欠損	黒色	良好	白色粒	内外面煤付着。外面はミガキ。	近世
109	6-2区	遺構外	磁器	鉢	(15.2)	(8.4)	<4.3>	口縁1/4～底部1/4	透明釉	良好	緻密	染付。型紙摺り。	近代
110	6-2区	遺構外	磁器	碗	—	(3.8)	<2.9>	底部1/6	透明釉	良好	緻密	染付。	近世
111	6-2区	遺構外	磁器	皿	—	(3.8)	<1.5>	底部3/4	透明釉	良好	緻密	染付。見込みに五弁花。	近世

第2表 土器・陶磁器観察表 (3)

()復元値 ()残存値

遺物番号	出土地点		種別	器種	法量(cm)			部位	色調	焼成	胎土	備考	時期
					口径	底径	器高						
113	1-1区	遺構外	縄文土器	深鉢	—	—	<3.0>	口縁小	明赤褐色	良好	長石	口縁端部を外に折り返す。 体部は斜位の条線 横位の沈線。	
114	2区	遺構外	縄文土器	深鉢	—	—	<5.9>	体部小	明赤褐色	良好	長石・雲母	地文は縄文、一部磨り消し。	五領ヶ台式
115	5-2区	遺構外	縄文土器	深鉢	—	—	<4.5>	体部小	明褐色	良好	長石	太い沈線。	曾利式
116	6-1区	遺構外	縄文土器	深鉢	—	—	<3.6>	体部小	明褐色	良好	長石・雲母	半截竹管の押し引き。	十三菩提式
117	6-1区	遺構外	縄文土器	深鉢	—	—	<4.8>	体部小	明赤褐色	良好	石英・長石	半截竹管の横位の沈線を 斜位の沈線で挟む。	五領ヶ台式
118	6-1区	遺構外	縄文土器	深鉢	—	—	<3.8>	体部小	明赤褐色	良好	白色粒	地文は縄文、縦位の太い沈線。	
119	6-1区	遺構外	縄文土器	深鉢	—	—	<2.6>	体部小	明赤褐色	良好	長石	縄文	
120	6-1区	遺構外	縄文土器	深鉢	—	—	<3.6>	体部小	明赤褐色	良好	石英・長石	J字状の太い沈線の区画内に 縦位の沈線を充填。	五領ヶ台式
121	6-1区	遺構外	縄文土器	深鉢	—	—	<5.3>	口縁小	明赤褐色	良好	白色粒	口縁端部に刻み目。 半截竹管の横位の押し引き。	五領ヶ台式

第3表 中世遺物観察表

()復元値 ()残存値

遺物番号	出土地点		種別	器種	法量(cm)			部位	色調	焼成	胎土	備考	時期
					口径	底径	器高						
28	1-1区	SD1	土器	内耳鍋	—	—	<5.1>	口縁小	にぶい赤褐色	良好	長石・石英・黒色粒	器厚1.0cm。体部はやや外に開く形状か。外面に煤付着。	中世
36	4区	SD4	瓦質土器	すり鉢	—	—	<7.9>	体部小	褐灰色	良好	金色雲母・長石	11条1単位のすり目。	中世
37	4区	SD4	土器	すり鉢	—	(12.4)	<1.6>	底部小	橙色	良好	赤色粒	6条1単位のすり目。	中世
38	1-1区	SK1	土師質土器	かわらけ	(12.4)	—	(2.1)	口縁1/4	にぶい橙色	良好	密	ロクロ調整。口縁端部はやや肥厚する。 外面煤付着。	中世
39	1-1区	SK1	土師質土器	かわらけ	(12.6)	—	<2.3>	口縁1/8	橙	良好	金色雲母	ロクロ調整。口縁部は内湾して立ち上がり、端部はやや外に開く。	中世
40	1-1区	SK1	土師質土器	かわらけ	(8.2)	—	<1.7>	口縁1/8	にぶい橙	良好	金色雲母	ロクロ調整。	中世
43	1-1区	SK5	土器	内耳鍋	—	(18.4)	<3.4>	底部小	にぶい褐色	良好	白色粒・赤色粒・金色雲母	底面は平らで、器厚0.5cm。体部外面煤付着。耳部分は遺存しない。	中世
44	1-1区	SK5	土師質土器	かわらけ	(9.8)	(6.0)	<1.7>	口縁小	にぶい橙色	良好	金色雲母	ロクロ調整。底部回転糸切り。	中世
47	1-1区	遺構外	土師質土器	かわらけ	(8.2)	(5.2)	1.7	口縁1/4～底部1/4	橙色	良好	密	ロクロナデ。底部回転糸切り。	中世
49	1-1区	遺構外	土器	内耳鍋	—	—	<11.4>	体部破片	橙色	良好	白色粒	外面に煤付着。	中世
54	2区	遺構外	土器	鉢	—	(13.0)	<7.1>	体部小～底部1/4	にぶい赤褐色	不良	赤色粒・白色粒	ロクロナデ。外面剥落。	中世
61	2区	遺構外	瓦質土器	すり鉢	—	(10.0)	<5.1>	底部1/6～体部小	にぶい黄褐色	良好	白色粒	すり目4条1単位か。	中世
64	4区	遺構外	瓦質土器	鉢	(19.0)	—	<5.2>	口縁小	褐灰色	良好	白色粒・赤色粒	ロクロナデ	中世
96	6-1区	遺構外	瓦質土器	すり鉢	—	—	<4.3>	底部小	暗灰黄色	良好	長石	卸目あり。	中世
104	6-2区	遺構外	土器	鍋	—	—	<4.3>	口縁小	橙色	良好	白色粒・赤色粒	外面に指頭圧痕。	中世

第4表 石製品観察表

()復元値 ()残存値

遺物番号	出土地点		種別	種類	法量(cm)			備考	時期
					長さ	幅	厚さ		
41	1-1区	SK1	石製品	砥石	<4.1>	1.8	<0.8>	磨り面あり。	中世か
50	1-1区	遺構外	石製品	石板	<4.9>	<3.5>	0.4	表面に擦痕あり。	
112	6-2区	遺構外	石製品	石板	<5.0>	<4.3>	0.4	表面に擦痕あり。	

第5表 金属製品観察表

()復元値 ()残存値

遺物番号	出土地点		種別	種類	法量(cm)			備考	時期
					長さ	幅	厚さ		
32	2区	SD2	銭	寛永通宝	2.4	2.4	0.5	—	近世
45	1-1区	SK13	銭	—	2.3	<2.2>	1.0	摩耗のため判読不能	
46	4区	SK14	銭	—	<2.1>	2.4	0.5	摩耗のため判読不能	
53	1-2区	遺構外	銭	聖宋元宝	2.3	2.3	1.0	北宋銭(1101年初鋳)	中世

第5章 総括

第1節 調査の成果と課題

今回の調査により得られた結果と課題をいくつかまとめてみる。

1. 奈良・平安時代

集落の広がり確認できた。調査によって1-1区、5-2区、6-1区、6-2区において計5軒の住居址が検出された。5-2区のS I 3と6-2区のS I 5からは8世紀前半から9世紀初めに属する甲斐型の坏が出土した。周辺の近接遺跡からも同時期の住居址は検出されており集落の一端を示していると考えられる。また、山梨市教育委員会によって6-2区最北端の調査区外の東西に延びる土塁に沿って確認調査が行われ、土塁の下から住居址と思われる痕跡が検出された。さらに集落は東に広がっている可能性がある。

2. 土塁と溝 (第67図)

今回の調査の大きな目的の一つは、調査区の東側に隣接する土塁とその関連遺構の検出であった。調査では土塁に沿って3条の溝を検出している。2・3区で検出したS D 1、2区の南側の東西方向の土塁に沿って検出したS D 2、4区から6区で検出したS D 3である。S D 1は現状で残っている石積みに沿って検出したもので、15世紀後半頃の内耳土器が出土している。磁器も出土しており埋没は近世以降となるが溝の構築時期を推定する材料の一つにはなろう。S D 2・3では中世の遺物の出土はなかった。土層観察では土塁側からの崩落土とみられる部分もあったが、土塁の基底部分など構築の痕跡を示すものは確認できなかった。いずれの溝も東側の立ち上がりは調査区外に延びており正確な規模は不明で土塁の下に溝が続いている可能性も考えられる。ただし、現在残されている土塁と溝とが構築当初から一体のものであったのか、後世の改変を受けているのかは不明である。今後、土塁の断ち割り調査等が行われれば性格や時期も明らかになると思われる。特に井尻氏館跡あるいは現在の井尻氏宅を囲む土塁との関わりは、重要な課題とも言える。

3. 条里

条里に関わると想定される遺構が検出されている。

「峡東条里」は笛吹市一宮町浅間神社から清白寺東側、甲州市塩山上塩後と山梨市下井尻の境界線をつなぐ筋を南北の軸線としている。9世紀前半に施工されたと思われ、その角度は東に12度振れている。一方の「八幡条里」は窪八幡神社と天神社を結ぶ筋を東西の軸線としており、南北は東に24度振れている。成立は16世紀初頭またはそれ以前に成立していたとされている。今回の調査区が位置する下井尻はこの峡東条里と八幡条里が接している区域にあたる。

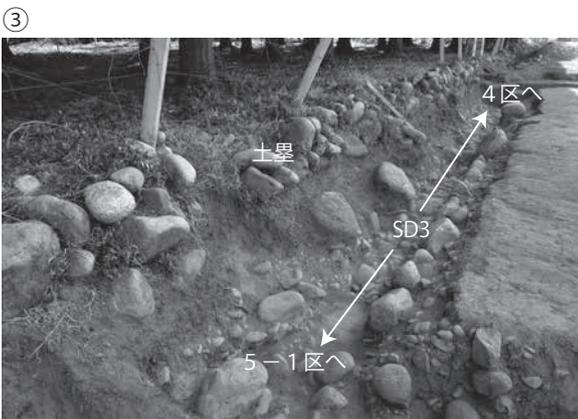
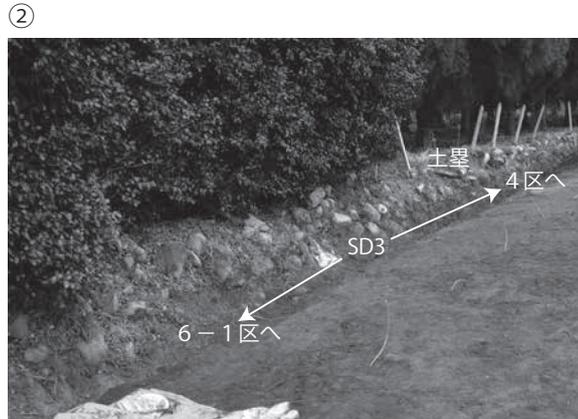
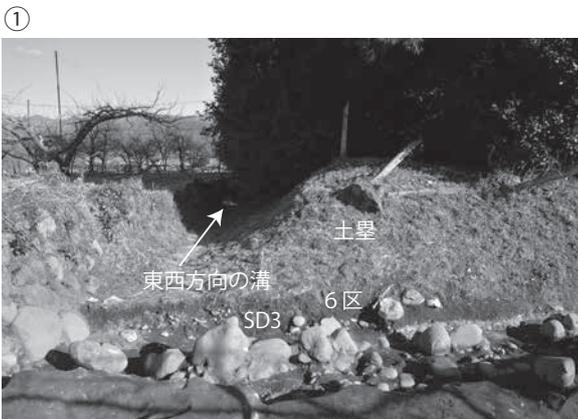
今回2区で検出されたS D 1の主軸の方向はN-12°-Eを指しており峡東条里の主軸の方位と一致している。S D 1は2・3区の調査区外の南北に走る石積みに沿って検出された(図版6のS D 1)。現状の石積みは、積み直しの可能性が高いが、調査区外の石積みの最下段から根石状の長さ約60cm大の川原石が検出された。最下段は構築時の状態を保っている可能性があり、石積みと溝との関係は今後の調査によって解明される(図版6 S D 1セクション参照)と思われる。なお、井尻氏屋敷を囲む土塁や今回調査されたS D 3、更には周辺の土地区画等の軸についても方向性があり、二つの条里との関わりから分析する必要がある。

4. 集石遺構・配石遺構

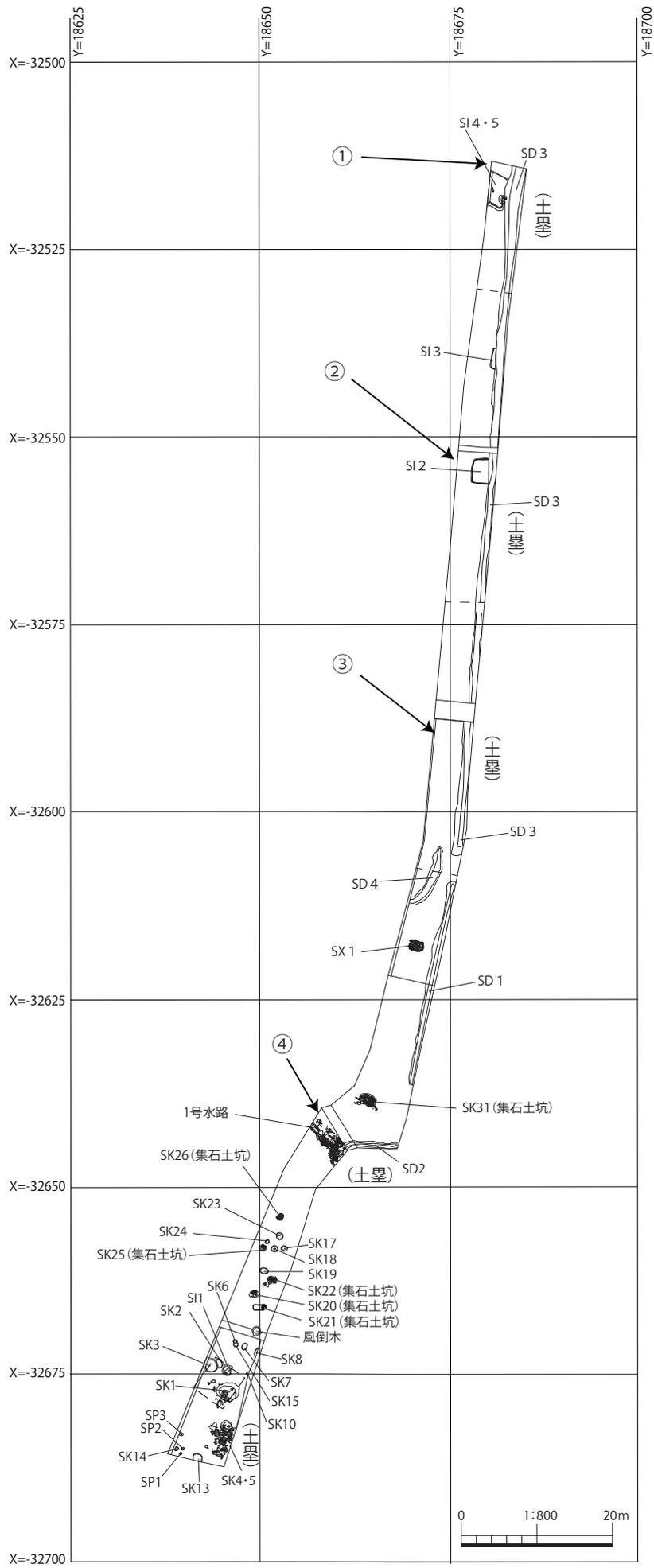
S K 1の上端のほぼ中央で配石が検出された(図版9)。中央に配置された石はほぼ円形で、石の片端は棒状のものをはめ込むように挟られており、その石をさらにサイズの小さい石で囲っている。遺物は覆土から中世のかわらけが出土しており、検出状況から中世の祭祀に関連する遺構の可能性が考えられる。一方、その他の集石土坑は石の配列に規則性は無い。石に焼けた痕跡はなく、祭祀的な要素も見られず性格は不明である。



画像 ©2022 Maxar Technologies、地図データ ©2022 50 m



第 67 図 地籍図に見える土塁の痕跡と現況



第 68 図 遺構と土壘の位置関係 (○数字は第 67 図と同じ位置を示す)

第2節 十王堂・井尻氏

1. 十王堂 (=応現寺)

今回の調査で「十王堂」に関する遺構・遺物は確認されなかったが、山梨市史の記事を時系列に挙げる。

①万治元年（1658）に了雲が開基したと伝えているが、当初は十王堂として建立された。

「明治5年明細」 応現寺の項

一 万勝寺末「六年（=明治六年）九月中廢寺」 甲啓山応現寺

「万治元己戌年十月十一日創建、開基了雲ヨリ尔来当壬申迄二百十五年至当住無之、京都府管轄西京東六条本願寺末万勝寺住職兼務」

一 境内 二畝歩 但元除地

一 檀家 無之

②正徳元年（1711）除地を認められた検知の時も寺名はなかった。

廢寺書上（抄）

一 敷地四畝六歩 躑躅芝門 此代金壹円

右応現寺号之儀者何レノ頃ヨリ相唱候哉、旧記等者無之、正徳元辛卯年御検知節者十王堂御繩請ニテ、右寺号無御座候

③元文四年（1739）に祠堂金式両を寄付された教伝は十王堂の堂宇だから当寺への寄付といえるが、この時点でもまだ寺名は記されない。

享保九年下井尻村村鑑明細帳

一 除地四畝 門徒宗堂守教伝 十王堂敷地村支配

右は古来より除地に御座候処、十五年巳前卯年松平甲斐守様御検知之節、御改にて検知御水帳に御書載被下候、古来之証文等は無御座候、村支配十王堂守教伝儀者前々より借地に差置申候、宗旨人別之儀も前々より村内へ組入申候

④宝暦八年（1758）の下井尻依田長安葬儀の際に応現寺として見舞っていることからこれまでの間に応現寺と号するようになったと推測される。

孝徳院遠行二付香資并送物差遣覚帳「依田一代記」

明治初年には無住で、本寺が兼帯しており明治六年（1873）九月廢寺となった。

応現寺については、（県行政『山梨郡廢寺処置品取調』二）

廢寺仏像書上

山梨郡第拾二区下井尻村 応現寺

十三仏木像 拾式

右村副戸長 依田周兵衛

明治七年二月 戸長 依田楯協

山梨県権令藤村紫朗殿

十王から十三王信仰へ

廢寺堂宇書上（抄）

十王堂 一桁間九尺 一梁間九尺 此代金八拾五錢壹厘

廢寺建物書上（抄）

本堂 一桁間四間 一梁間三間半 此代金五円

その他、年号の分かる記載としては、

・（就歸參寺号応現寺と被成御免候二付覚）粟津勝兵衛 明暦四年 （1658）

- ・享保9年（1724）門徒宗十王堂
- ・応現寺棟札写 名主他 宝暦二年（1753）
- ・（十王堂敷地借住二付済口証文）寛政十年（1798）

済口証文=江戸時代の民事訴訟において和解が成立したとき当事者の取り交わした証文の記述が見える。

今回の調査では十王堂に関連する遺構・遺物は確認出来なかったが、古文書にはいくつかその名が挙がっており、今後の周辺の調査によって下井尻村の中世から近世の村落にかかわる遺構・遺物が検出できる可能性はある。

2. 井尻氏

文献で確認できる井尻氏に関わる文書を示した。

井尻氏に関わる文書は、昭和35年（1960）に井尻源氏から「大学共同利用機関法人人間文化研究機構 国文学研究資料館」に譲渡された。その目録は「学術情報リポジトリ 史料館所蔵史料目録 第13集 甲州井尻家（同）依田家・追捕（同）秋山家」の中で紹介されている。

上記の目録中「井尻家文書解題」の中で井尻家について次のような記述が確認できる。

- ・井尻家の元祖は近江の佐々木源三秀義であると云われている。
佐々木源三は平安時代末期の武将である。元暦元年（1184）に三日平氏の乱（平氏都落ちの後、伊賀・伊勢に潜伏していた平氏残党が蜂起した乱）において甲賀郡上野村で戦死している。
- ・初代は、元祖から二十二代の佐々木与十郎善法の代に甲斐国に入り、武田氏に仕えて武田典厩信繁の猶子として善法を繁法に改めた。
- ・一族の徳見簡三嗣法の井尻郷にある跡屋敷に住み井尻と改めた。
- ・永禄元年（1558）川中島で戦死した。
- ・繁法を初代とすると三代元繁は天正十年（1582）徳川家康の入国の際に起請文に名を列ね安堵状を授けられる。
安政4年（1857）（団右衛門・源三両家居屋敷境木伐払為取替規定書）
文久2年（1862）（下井尻村三郎兵衛より清兵衛買取畑井尻源三持畑立木材木引取方出入一件書付）
慶応2年（1866）（井尻源三他八人立木伐払開致し畑方井田方起返り二付対談書）
明治元年（1868）三月「井尻藤右衛門屋敷境石積立方一件書付）
明治15年（1882）長屋門棟上見舞録
長屋門建築職工雇控（長屋門建築）
明治25年（1892）（下井尻字榎田耕地絵図面証明願）字榎田の地名
明治29年（1896）居宅出火
明治38年（1905）榎木売渡シ代金請取証
字榎田と呼ばれていた榎木か？
明治41年（1908）居宅を東八代郡祝村大字下岩崎内田氏より購入移築した。

その他、山梨市史史料編 考古・古代・中世では「井尻源四郎屋敷」として「土塁の痕跡が残る。源四郎は永禄十二年八月、「下井尻村 踏出 合式重貫参百八拾五文」を認められている。屋敷地の南方に後屋敷の地名が残るが関係は未詳」とある。

井尻氏は、古文書では確認できるもの当時の建物の位置や規模を伺えるような資料は現在のところ無いため、調査によって検出された溝・土塁や「井尻氏文書」は非常に重要な資料となる。

引用・参考文献

- 森原明廣 1993「山梨県地域における内耳土器の系譜」『山梨県考古博物館・山梨県埋蔵文化財センター研究紀要9』
- 佐々木満 2004「山梨における中近世土器の様相」『山梨考古学論集V』山梨県考古学協会
- 佐々木満 2011「甲斐国における中世後半の土器―鉢・鍋を中心に―」『山梨懸考古学協会誌』第20号
- 山梨市教育委員会 1987『日下部 日下部史跡調査報告書』
- 山梨市遺跡調査会・山梨市教育委員会・朝日商事有限会社 1995『東後屋敷遺跡』山梨市文化財調査報告書 第4集
- 山梨市・財団法人山梨文化財研究所 2004『堀ノ内遺跡』山梨市文化財調査報告書 第7集
- JA フルーツ山梨・山梨市教育委員会・(財)山梨文化財研究所 2005『高畑遺跡』山梨市文化財調査報告書 第8集
- 山梨県峡東農務事務所・山梨市・公益財団法人山梨文化財研究所 2016『江曾原遺跡』山梨市文化財調査報告書 第25集
- 山梨県峡東農務事務所・山梨市教育委員会・公益財団法人山梨文化財研究所 2018『中沢・阿弥陀堂遺跡』山梨市文化財調査報告書 第28集
- 山梨県峡東農務事務所・山梨市教育委員会・公益財団法人山梨文化財研究所 2020『十王堂遺跡』山梨市文化財調査報告書 36集
- 山梨県峡東農務事務所・山梨市教育委員会・昭和測量株式会社 2021『阿弥陀堂遺跡』山梨市文化財調査報告書 39集
- 山梨県 1998『山梨県史 資料編1』原始・古代1 考古(遺跡)
- 山梨県 2004『山梨県史 通史編1』原始・古代
- 日下部町 1952『日下部町誌』
- 山梨市 2005『山梨市史』史料編 考古・古代・中世
- 山梨市 2007『山梨市史』通史編 上巻



調査区全景 西から



調査区全景 北西から



6-2区全景



5-2区全景



6-1区全景



5-1区全景



4区全景

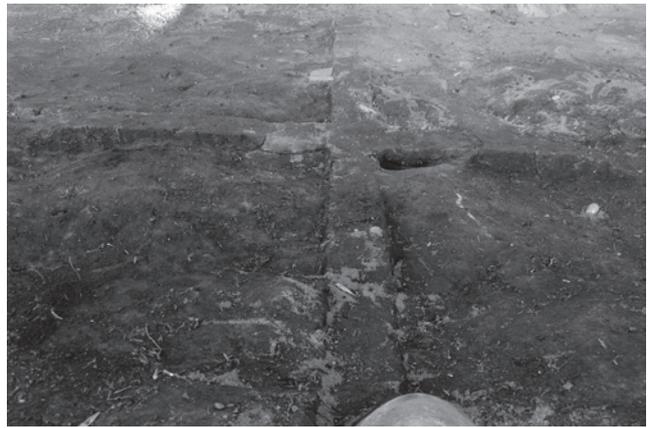


1~3区全景

図版4



1-1区 S11検出状況 南から



1-1区 S11東西セクション 南から



1-1区 S11南北セクション 西から



5-2区 S12完掘 北西から



5-2区 S12東西セクション 南から



5-2区 S12南北セクション 西から



5-2区 S12掘り方 北西から



5-2区 S12遺物出土状況 東から



6-1区 S13完掘 東から



6-1区 S13西壁セクション 東から



6-1区 S13土器出土状況 東から



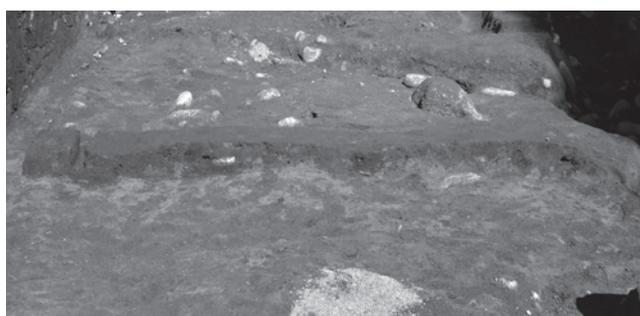
6-2区 S14・5検出状況 南から



6-2区 S14・5検出状況 西から



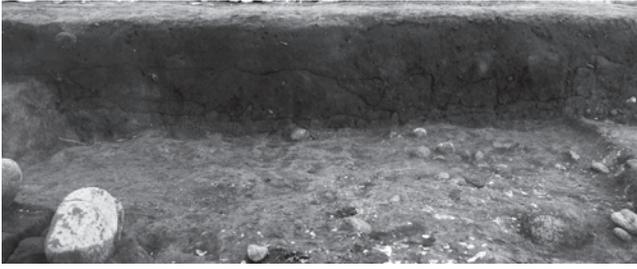
6-2区 S14カマド・焼土検出状況 南から



6-2区 S14・5東西ベルトセクション 南から



6-2区 S14・5南北ベルトセクション 西から



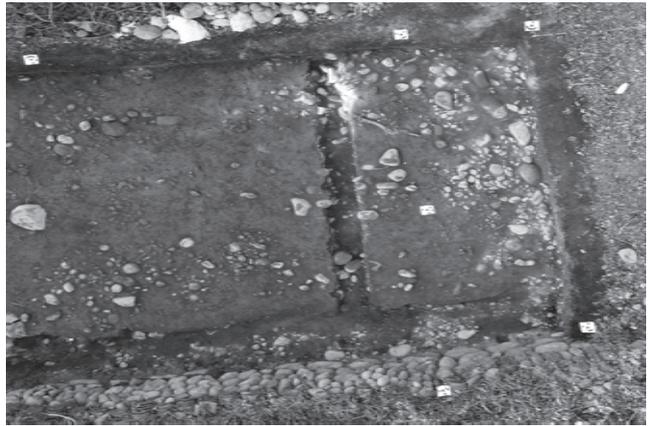
6-2区 S14・5西壁セクション 東から



6-2区 S15カマド 南東から



6-2区 S15土器出土状況 西から



2区 SD1 (写真下の石積みに沿っている) 東から



2区 SD1セクション 南から



2区 SD2 北から



2区 SD2南壁セクション 北から



2区 SD2南_東壁セクション 西から



6-2区 SD3北壁セクション(西側) 南から



6-2区 SD3北壁セクション 南から



6-2区 SD3東壁セクション 西から



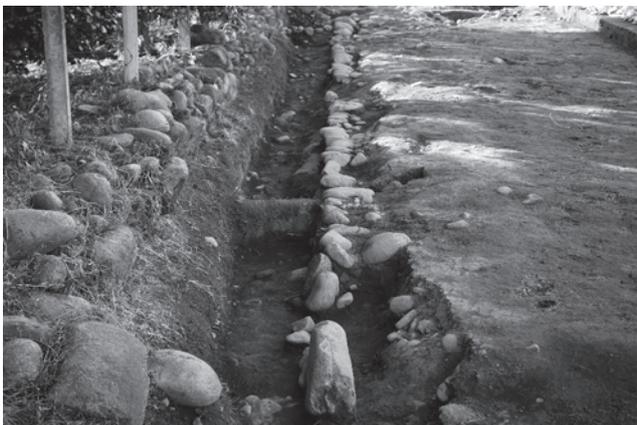
5-2区 SD3南壁セクション 北から



5-2区 SD3・S12 北から



5-1区 SD3 北西から



4区 SD3 北から



4区 SD3東西方向石列 南から

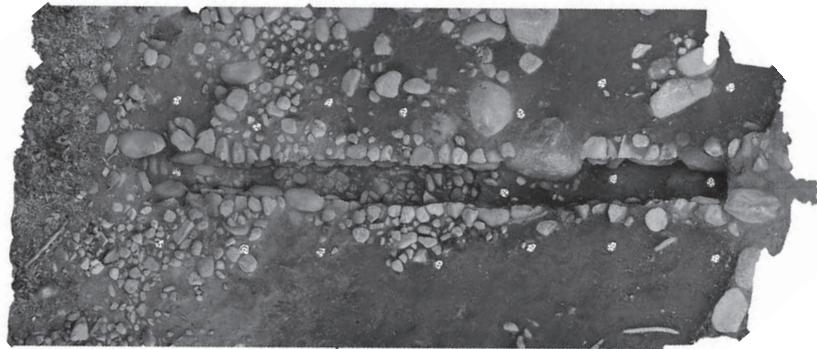
図版8



4区 SD4 西から



4区 SD4南壁セクション 北から



1-2区 1号水路 北から



1-2区 1号水路 西から



1-2区 1号水路 北西から



1-2区 1号水路 南西から



1-2区 1号水路 南から



1-1区 SK1 南東から



1-1区 SK1配石 東から



1-1区 SK1・4・5 西から



1-1区 SK3 南東から



1-1区 SK6 南東から



1-1区 SK6セクション 南東から



1-1区 SK7 東から



1-1区 SK7セクション 東から



1-1区 SK 18 南東から



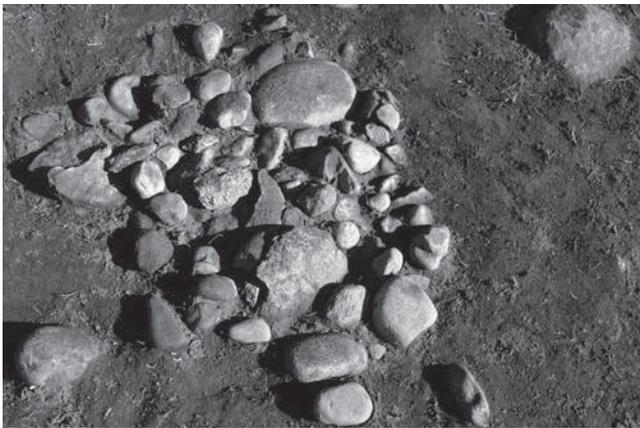
1-1区 SK 18 セクション 南東から



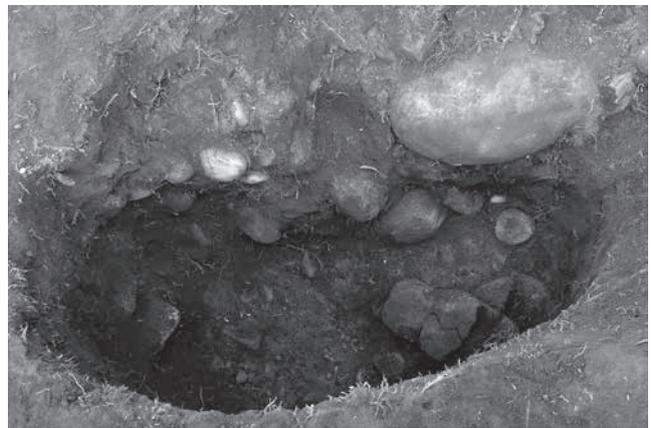
1-1区 SK 19 南から



1-1区 SK 19 セクション 南から



1-1区 SK 20 南東から



1-1区 SK 20 セクション 南から



1-1区 SK 22 北から



1-1区 SK 23 南から



1-1区 SK 25 南から



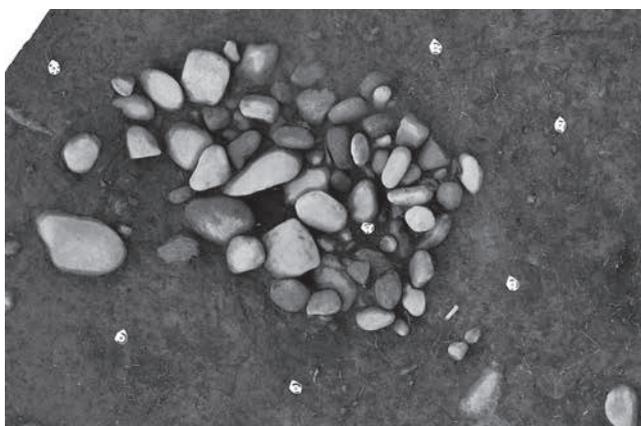
1-1区 SK 26 東から



1-1区 SK 26 セクション 東から



1-1区 SK 28 南東から



1-1区 SK 31 南東から



1-1区 SK 31 西から

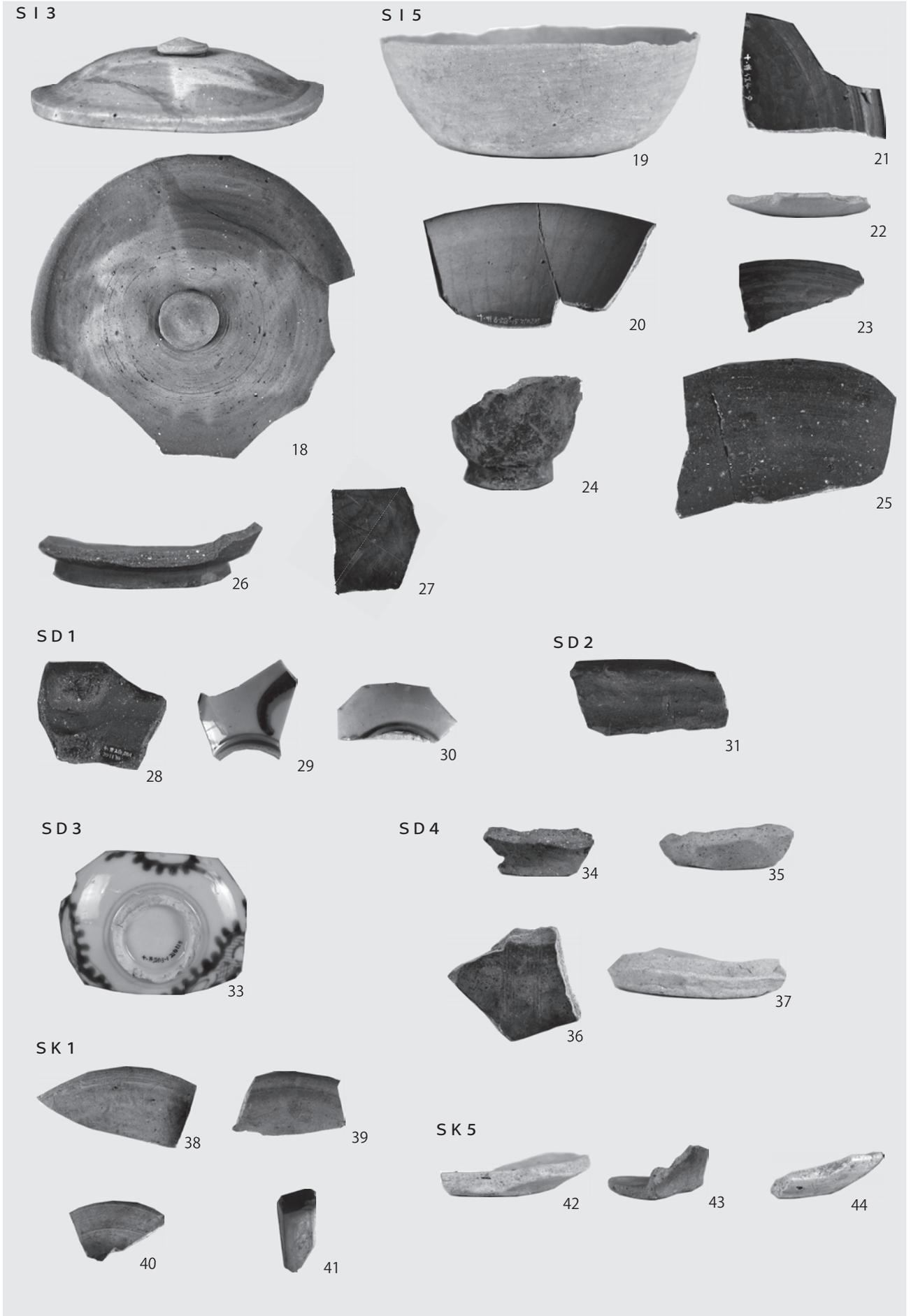


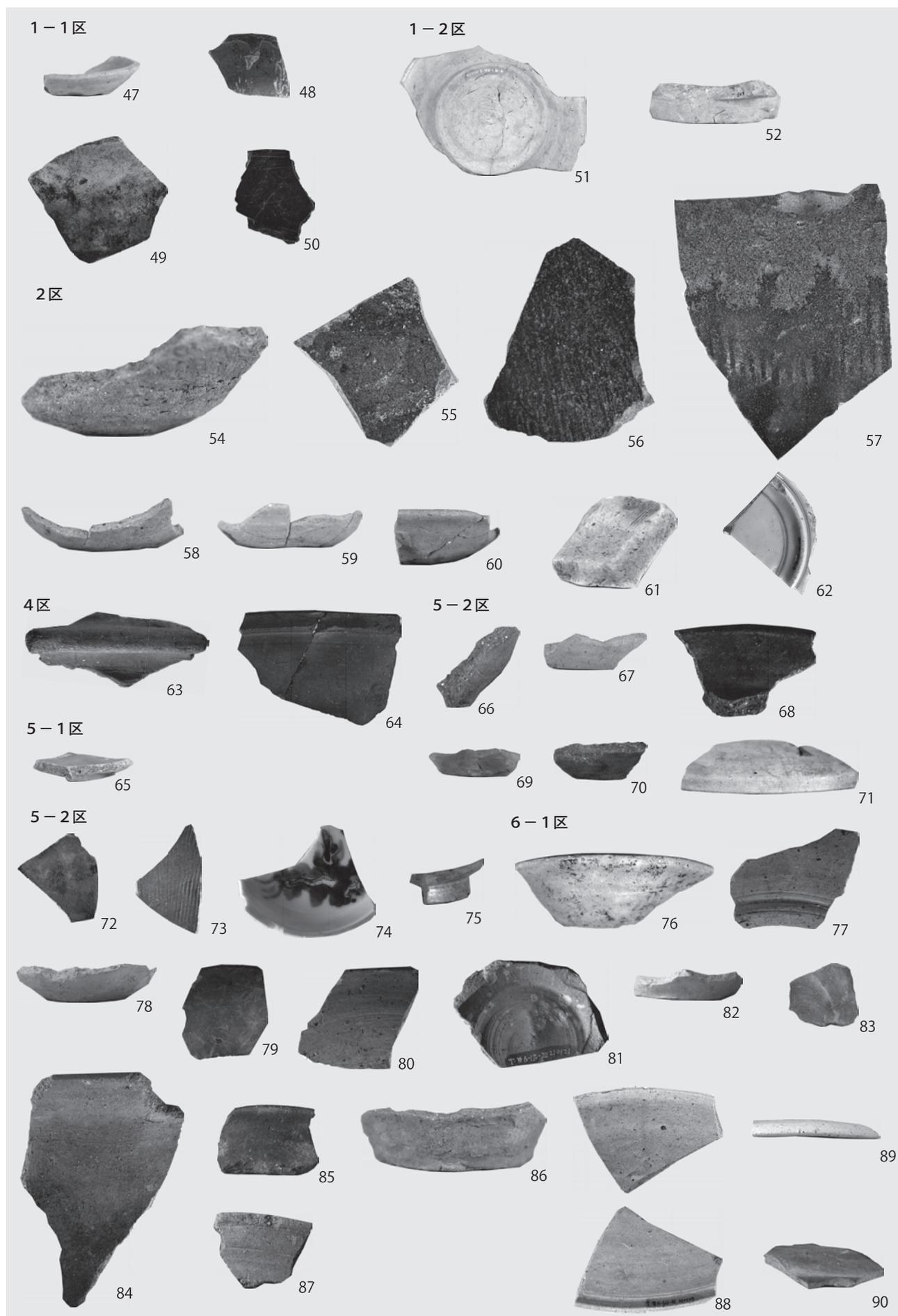
1-1区 SP1 東から



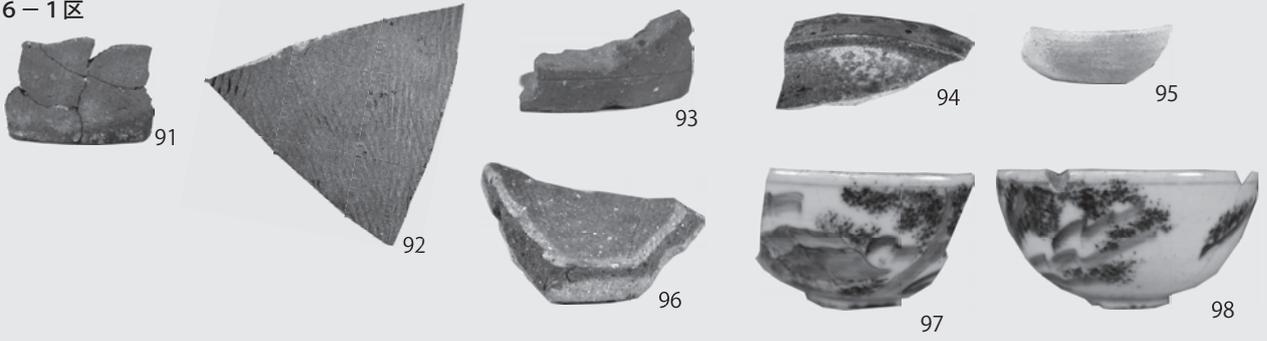
4区 SX1 西から



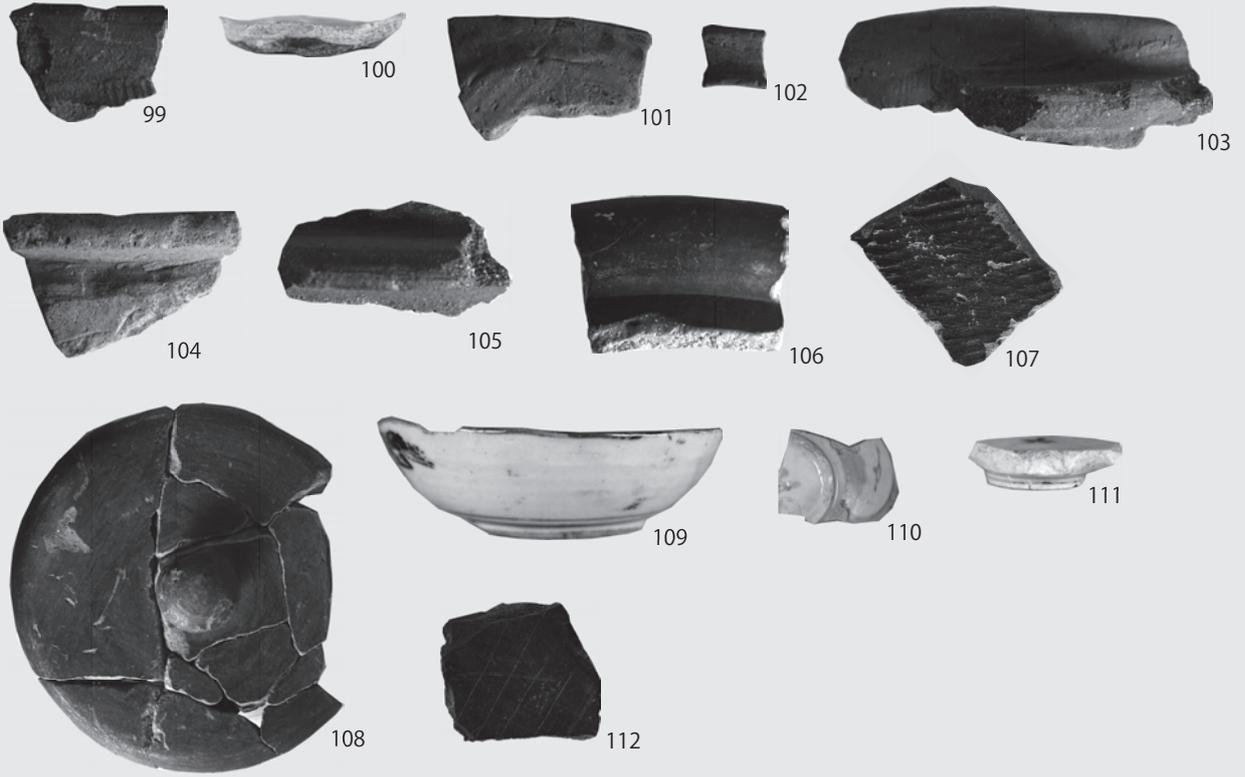




6-1区



6-2区



縄文土器



報告書抄録

ふりがな	じゅうおうどうどういせき・いじりしやしきあと
書名	十王堂遺跡・井尻氏屋敷跡
副書名	令和2年度県営畑地帯総合整備事業日下部地区1-1工区ほ場整備工事
巻次	
シリーズ名	山梨市文化財調査報告書
シリーズ番号	第43集
編著者	小谷亮二・藤巻浩太郎・駒田真人
編集機関	昭和測量株式会社
所在地	〒400-0032 山梨県甲府市中央3丁目11番27号 TEL055-235-4448
発行年月日	2023(令和5)年3月15日

ふりがな	ふりがな	コード	世界測地系		調査期間	調査面積	調査原因	
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	北緯	東経			
じゅうおうどういせき・いじりしやしきあと	やまなしけんやまなしししもいじり977~1024-3ばんち	19205	85	35° 42'21"	138° 42'23"	20201012 ~20210219	1,090㎡	令和2年度県営畑地帯総合整備事業
十王堂遺跡・井尻氏屋敷跡	山梨県山梨市下井尻977~1024-3番地							

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
十王堂遺跡・井尻氏屋敷跡	集落、屋敷跡	縄文時代、奈良・平安時代、中世、近世	住居址、土坑、ピット、溝状遺構、水路	縄文土器、土師器、須恵器、灰釉陶器、かわらけ、土器(内耳鍋・すり鉢)、瓦質土器、陶器、磁器	8~9世紀初の住居址が検出された。

要約	<p>5軒の住居址を検出し、8~9世紀初に属する遺物が出土した。周辺の遺跡の調査でも同時期の遺物が出土しており、当該時期の集落の広がりが想定できる。</p> <p>調査区東端部では、調査区外を南北に走る土塁や石積みに沿った位置で溝を検出した。溝の埋土には近世の遺物が混入するが、内耳鍋など中世の遺物も出土しており、溝の構築時期を推定する上で重要な資料である。今後、土塁の構築時期や構造の解明によって、溝との関係を含め全体像が見えてくると思われる。</p>
----	---

山梨市文化財調査報告書 第43集

十王堂遺跡・井尻氏屋敷跡

—令和2年度県営畑地帯総合整備事業日下部地区1-1工区ほ場整備工事—

2023(令和5)年3月15日 発行

編集 昭和測量株式会社

〒400-0032 山梨県甲府市中央3丁目11番27号

TEL 055-235-4448

発行 山梨県峡東農務事務所・山梨市教育委員会・昭和測量株式会社

印刷 株式会社内田印刷所